276

286

始

米國體育視察記

朝輝記太留著

E98-15
276-286

米國體育視察記

朝輝記太留著

大正
10 6.20
內交

はしがき

曠古未曾有の世界大戰に參加したる聯盟各國は、何れも皆其國の全富力を賭し、巨額の軍費を提供して必勝を期し、就中交戰地帶なる砲煙彈雨の修羅の巷にては、幾多貴重なる生靈を犧牲とし、其慘狀言語に絶する狀態なりしも、幸に我が日本は僅かに青島の攻略戰と、反過激軍援助の目的にて西比利亞への出兵に止り、之を歐洲の各參戰國が受けたる慘害に比すれば實に月鼈の相違といふべきなり。

我が國は此の間、內は各種產業の勃興と發展に伴ひ、外に向つては逐次輸出超過を持續して、僅々數年を出でざるに巨億の財貨は海外より國內に流入し、上下を通じて所謂戰爭成金の輩出を見るに至りしが、蓋し其大多數は自己の慾望を滿足せしむるに汲々として之を浪費するのみにて、一般公共の事業に其淨財を捨て、社會奉仕を企圖するが如き人士の寥々たりし中に、我が大阪市西區北境川町なる森平藏氏は、年々歲々教育の普及するに連れて女子の高等普通教育を志望するものゝ增加するにかゝはらず、之を收容し難き大阪府市の學校狀況を遺憾とせられ、大戰中實業界に奮鬪努力の結晶として穫

得せられたる財寶の一部を割愛し、大正六年九月、前大阪府立夕陽丘高等女學校長として、我が教育界に名聲嘖々たる伊賀駒吉郎先生を創立顧問とし、一高等女學校の設立を發表せらる。

爾來百萬の巨費を投じて工を督勵し、僅かに七箇月の短時日をもつて、女學校として稀に見る宏大なる建築物と、内外の設備に對しては教育上至便至利の方法を採用して之を完成し、樟蔭高等女學校として大正七年四月開校さるゝに至れり。

予女子體育に從事すること玆に歳ありと雖も、菲才淺學何等斯界に貢獻する所なきにかゝはらず、夕陽丘高女に於て伊賀先生の下に勤務せし緣故に因り、樟蔭の開校と同時に再び其部下の一員に推擧せらる。

是より先き、森氏は設立の計劃と共に學校の將來に於ける内容充實の點にも大に焦慮せられ、順次教職員を海外に派遣して各專門の視察研究を遂げしむることを言明せられ教育界のために一大福音を附與せられたり。

學校長以下幹部は開校早々校務多端にして到底暫時も校を離るゝを許さゞるの事情もありたれど、戰後の女子教育は特に從前よりも一層體育に留意して、眞の活動に堪ふる婦人を教養すべく意圖せられ、開校後須臾にして新參、而も菲才なる予に對して先づ米國に於ける體育狀況視察研究の恩命を下されたり。

多年海外の體育研究には深き憧憬を持ちながら、たゞ一種の空想のみに終るべき運命にあるこの身が、今や無上の光榮に浴するを得て、欣喜雀躍とは眞に我が此の時のために作られたる語なるかの感ありき。

蓋し此の擧たるや、全く森氏の教育事業に熱中さるゝ餘澤なりといへども、一中等學校に於て其職員をして海外視察を敢行せしめらるゝは、我が國にては殆んど類例なき事實にして、而も余がこの先驅者たるの使命を帶びたるは誠に至上の榮譽たると共に其責任の重大なるを感ぜずんばあらざりき。

本書は大正七年六月拾五日大阪出發より、同八年三月廿八日大阪歸着まで、日々の心覺えを記せるに止り、始めより人に讀まるべく作れるにあらず、殊に海外旅行の必要條件たる語學の素養頗る貧弱なる予は、聞き得ず、語り得ずの所謂聾啞の旅行にして、莫大なる經費を投じつゝ、殆ど一ヶ年に近き貴重なる日子を費せしも、何等の獲る所なく、唯出發當時の健康と大差なき狀態にて歸校せしに過ぎず、隨つて日記に掲ぐる所の記事

も亦單調無味を免れず。

更に歸校後、校主及學校長よりは何等報告等を徵さるゝが如きことなきも、予の責任上之を看過するを得ず、偶々書肆大鐙閣より出版の勸誘あり、故に之を印行して一は森校主竝に伊賀校長より受けたる厚誼に報ひ、一は吾が身の記念として上梓することゝせり。

幸ひに讀者が之によりて北米合衆國の一般的常識と、更に彼の國體育の趨勢とを窺知さるゝあらば予の本懷とする所なり。

大正九年六月十五日

出發二週年記念日に際し

著者記す

目次

大阪出發……三
京都の三時間……六
横濱着……九
東京滯在……一三
アラビヤ丸乘船……一九
横濱出帆……二三
太平洋上……二六
ヴアンクーバー入港……四一
ヴアンクーバー上陸……四五
ヴアンクーバー出港……四六
シイヤートル上陸……四九
シイヤートル滯在……五一
ワシントン大學參觀……五二
ハイスクール見學……五七

米國體育視察日記

シイヤートル日本人國語學校……五九
タコマ見物……五九
レニア登山……六四
沙都市出發……七一
桑港着……七六
桑港滯在……七九
スタックトン見物……八五
學校參觀……八九
桑港出發イーストへ……九〇
グレートソートレーキ市……九三
デンバー市……九九
市俄古着……一〇四
市俄古滯在……一〇七
市俄古出發……一二六
ナイアガラ瀑布……一二六
ボストン着……一二九

ボストン美術館……一三一
ボストン下町見物……一三三
ボストン海軍兵運動會見物……一三四
ケンブリッチの下宿……一三七
レジスターデー……一三九
ウオルサムの時計……一四一
クリスチャンサイエンスチャーチ……一四一
井上牧師……一四四
ハーバート大學見物……一四八
ケンブリッチへ轉宿……一五一
日本飯が戀しい……一五三
フランクリンパーク見物……一五五
支那人と洗濯屋……一五七
岡部君の出發……一五九
インフルエンザ流行……一六〇
サージャントスクール授業開始……一六二

ダンスの授業……一六四
原内閣の成立を知る……一六六
戀しや日本アルプス……一六九
コンコード見物……一七一
二十九のテニスコート……一七三
ガールスハイスクール參觀……一七五
バンカーヒル見物……一七七
女子の劍術……一七九
戰時の日光節約……一八一
オペラ見物……一八三
異鄕の天長祝賀會……一八五
ハロウキンの騷ぎ……一八七
ボツセ操體學校參觀……一八九
ジャパンテイーガーテン……一九一
老人のバーレーボール……一九四
休戰祝賀行列……一九六
軍隊の祝賀行列……一九八
豚のスキ燒……二〇一
ホットエアーの暖房裝置……二〇三
ボストンの初雪……二〇四
サンクスギビングデー……二〇七
ボストンシンホニーホール……二〇九
故國を懐ふ同胞……二一〇
ウエレスレー女子大學參觀……二一二
直の初雪……二一七
小學校の火災立除練習……二一九
姿勢描寫室……二二〇
スプリングフキルドへ……二二四
スプリングフキルド見學……二二四
アマハスト見學……二二四
日本學校體操の親元訪問……二二七
先生を招いて日本食……二三〇

米國體育視察日記

體育家の會合……二三三
ボストンの山中商店……二三四
鈴木光愛氏と會す……二三六
主婦を招いて日本食……二三七
サージャントスクールの内容……二三七
タフト大學參觀……二三一
ボストン市教育課長訪問……二三一
出國願にも寫眞が入用……二三五
ボストン第一のデパートメントストア見物……二三七
クリスマス……二三九
ボストン日本紙商會……二三〇
シティークラブの別宴……二三一
ドクター・リーランド訪問……二三四
さらばよボストン……二三四
ニューヨーク着……二三五
ハドソン河の軍艦……二三六

自由の女神像見物……二三六
異郷の新年祝賀會……二三七
紐育市教育課訪問……二三七
夜なかの芝居見物……二三九
ダンス學校參觀……二三九
堀夫人の客死……二三九
ルーズベルト逝去……二三一
コロンビア大學參觀……二三二
バーナードカーレージ參觀……二三四
摩天閣昇り……二三四
ユニーヘブン行……二三五
エール大學觀覽……二三〇
サベージスクール參觀……二三一
紐育出發……二三三
アトランチック市……二三四
ヒキラデルヒキヤ市……二三七

米國體育視察日記

ヒキラデルヒキヤ出發……二九六
バルチモア市……二九七
ワシントン市……二九九
ワシントン市出發……三〇五
インデイアナポリス市……三〇七
セントルイス市……三〇八
セントルイス市出發……三一九
キヤンサス市……三一一
オツタワ大學訪問……三一三
キヤンサス市出發……三一七
ロスアンゼルス市着……三一九
ロスアンゼルス市發……三二五
サンフランシスコ市着……三二六
加州大學參觀……三四七
スタンフオード大學參觀……三四八

タルマパイ登山……三五〇
サクラメント行……三五一
サンタローザ見物……三五五
サンフランシスコ市……三五七
故國に向ふ……三五九
ホノルヽ港……三六五
太平洋上……三六九
横濱着……三七四
歡迎會……三七五
大阪歸着……三七七

挿畫目次

一　大阪驛出發……六―七
二　アラビヤ丸船上にて……四〇
三　ヴアンクーバー日本町にて……四七
四　シイヤートル市街上給水栓人と馬……五〇
五　シイヤートルワシントン大學……五三
六　同上ワシントン大學女子部體育主任ミス・ロング氏……五四
七　シイヤートル大學構内にて米陸兵に日本式銃の操法を見せし記念……五四―五五
八　シイヤートル在留日本人國語學校……六〇
九　レニア登山のターバン……六六
一〇　レニア山麓の瀧……六六―六九
一一　マウントレニヤ登山道自動車の待合……六七
一二　レニヤ登山婦人の晝食……六八
一三　マウントレニアパウタイズイン……六八―六九
一四　レニヤ山麓炭酸水……六九
一五　サンフランシスコ・マーケットストリート第三回自由公債を通行人に進め居る婦人……七八
一六　スタックトン早石ドクターのバンガロウ式住宅……八八
一七　グレート・ソートレーキの水泳……九八―九九
一八　サンフランシスコ・ガールスハイスクールの側面生徒がストリートカーにて歸宅する處……八九
一九　サンフランシスコ・ステート・ガールス・ノーマルスクール……九〇
二〇　サンフランシスコ・ガールスハイスクール前のプレーグラウンド……九〇―九一
二一　ソートレーキ市ステート・オブユタ……九四
二二　ソートレーキモルモン本山内のタワー・カゴメ……九五
二三　同上ライオンハウス……九六
二四　同市パーク内動物園の親子の象……九七
二五　グレートソートレーキ畔の娯樂場……九八―九九
二六　デンバー市ステートキヤピタルと陸橋……一〇〇
二七　デンバー市スミスビルディング内赤十字篤志婦人作業……一〇三
二八　デンバーの公園……一〇三
二九　デンバー市郊外日本農夫とキヤベツ……一〇四
三〇　シカゴワシントンパーク大溫室前……一一〇
三一　シカゴ・ワシントンパーク・サンデースクール・ピクニツク……一一〇―一一一

三三　シカゴ・ジヤクソンパーク女子のゴルフ……一一〇—一一一
三三　シカゴ市下水道工事……一一一
三四　シカゴ・ドーグラス・パークなるジムナジアム……一一二—一一三
三五　シカゴ・エクハードパークなるナタトリユム……一一三—一一三
三六　シカゴ市ミシガン湖畔の水泳……一一三—一一三
三七　シカゴカウンテイーホスピタルに於ける松下博士一行……一一〇
三八　シカゴワシントンパークに於ける松下博士と留學生諸君……一一三
三九　シカゴ大學スダヂアム……一一三
四〇　ナイアガラ瀧の全景……一一八—一一九
四一　ナイアガラアメリカンフール……一一九
四二　ボストンサウスステーション……一二〇
四三　ボストンミユジアム側面……一二二
四四　ハーバートスタヂアムに於けるブツシユボール……一二四—一二五
四五　ケンブリツヂなる私の下宿……一二九
四六　徽兵登記證……一四〇
四七　ハーバート大學内ウヰツドナー記念圖書館……一四二
四八　ボストンクリスチヤンサイエンスチヤーチ……一四九
四九　ミスベリー宅臺所のストーブ及湯沸器……一五九
五〇　ボストン古本屋の店頭……一六八
五一　ボストンサージヤントスクールテニスコート……一七四—一七五
五二　シスベリー宅室内にて……一七五
五三　バンカヒル獨立戰爭記念碑……一七七
五四　ボストンオペラハウス……一八四
五五　ボストン・ケンブリツヂ・ラングトンストリート・ミス・ベリー宅……一八六
五六　ボストンポツセ體操學校……一九〇—一九一
五七　ボストンポツセジムナジアム……一九〇—一九一
五八　ボストンタフトカーレージ・プロクツサーフエーと森君……一九一
五九　ボストンステートハウス前休戰祝賀の日……一九九
六〇　ボストンパークスクエア休戰祝賀行列……二〇〇
六一　ボストンラテインハイスクール……二〇〇
六二　ミスベリー宅ダイニングルームとミスハルナ……二〇五
六三　ケンブリツヂシテイーホール……二〇八

六四　ボストンシンホニーホール……二一一
六五　ウエレズレーカーレージ表門……二一二—二一三
六六　ウエレーカーレージ・ヂムナジアム外部……二一三
六七　ウエレズレー・カーレージ・ヂムナシアム内部……二一八
六八　ボストンハンカーヒール獨立戰爭記念碑……二一九
六九　ボストン・プレスコットスクール火災練習に集れる所……二二〇—二二一
七〇　ボストンノーマルスクール生徒のダンス……二二二—二二三
七一　スプリングフヰルド動物園の馴鹿……二二五
七二　スプリングフヰルドYMCAカレージ・ジムナジアム……二二六
七三　スミスカーレージ・ライブラリー……二二八
七四　ボストン・プラクチカルアートハイスクール活動寫眞用教室……二三一
七五　ボストン・プラクチカルアーツ・ハイスクールの割烹實習……二三三
七六　サージヤントスクール在學記念寫眞……二三九
七七　ボストンタフトカーレージ……二四二
七八　ニユーヨーク・ハドソンリバーに凱旋碇泊せる米艦の一部……二六三
七九　ニユーヨトク・ハドソンリバー西岸にて……二六四
八〇　ニユーヨーク港に自由の女神……二六六
八一　ニユーヨーク・セントラルパークの一部……二七一
八二　ニユーヨーク・コロンビア大學圖書館の正面……二七六
八三　ニユーヨーク・リバーサイド・グランド將軍の墓……二七七
八四　ニユーヨーク・ペイハイスクールホツケーグラウンド築造……二七八—二七九
八五　ニユーヘブン・エール大學前の博物館……二八二
八六　ニユーヘブン・エール大學のスイミングプール……二八三
八七　エール大學のジムナジアム……二八五
八八　ニユーヨーク・コロンビヤ大學附近なるマケート場……二八七
八九　アトランテイツク市第一のホテル……二八九
九〇　ヒヰラデルヒヰヤ・テンプル大學……二九〇
九一　ヒヰラデルヒヰヤ博物館……二九二
九二　同館前に於ける岡部君と白人兒童……二九三
九三　ベリー銅像前に於ける凱旋せる米國海軍水兵……二九四
九四　ワシントンユニオンステーション前のコロンブス大理石像……三〇〇
九五　ワシントンナショナルパークセミナリー構内谷間に架せるブリッヂ……三〇二

九六　ワシントン市ワシントンのムブメント……三〇三
九七　ワシントン市日本大使館正面……三〇五
九八　ワシントン國立新美術館……三〇六
九九　ワシントン・ユウナイテッド・ステーツ・キャピタル……三〇七
一〇〇　ワシントン大統領官舍（ホワイトハウス）……三〇八
一〇一　セントルイス市コンモンウエルスグランマースクール……三一〇
一〇二　セントルイス博物館……三一一
一〇三　セントルイス・キャンサス・シテイー間にて汽車の火災……三一三
一〇四　オツタワ大學……三一五
一〇五　オツタワ郊外に於ける米國兒童の兵隊遊び……三一七
一〇六　オツタワ大學朝田舜一君の下宿と友人……三一九
一〇七　サンタフ線アメリカンインディアンの部落……三二〇
一〇八　停車場に於ケるアメリカンインディアン婦人と子供……三二二
一〇九　鐵道工夫のテント舍……三二四
一一〇　ロスアンゼルス市ハリユードハイスクールの講堂……三二五
一一一　ロスアンゼルス・リンカーンパークのボートハウス……三二六
一一二　ロスアンゼルス・リンカーンハイスクール全景……三二七
一一三　ロスアンゼルスの駝鳥園……三二八
一一四　ロスアンゼルス・マウント・ロウエの頂上に於ける騎馬の少女……三二八—三二九
一一五　ロスアンゼルス市ロスアンゼルスハイスクール……三三一
一一六　ロスアンゼルス市市内自動車用ガソリン販賣店……三三二
一一七　ロスアンゼルス附近ロングビーチ（太平洋沿岸）……三三四
一一八　ロスアンゼルス・ステートノーマルスクール生徒の遊戯……三三四—三三五
一一九　同上の戸外體操……三三四—三三五
一二〇　同上附屬小學校生徒の鬼事遊び……三三四—三三五
一二一　同上第六年生のベースボール……三三四—三三五
一二二　ロングビーチ回轉飛行機塔……三三六
一二三　ロスアンゼルス市ステノートノーマルスクール附屬幼稚園兒のペンキ塗り……三三七
一二四　サンフランシスコ市役所……三三八
一二五　同市役所前タフト氏の歡迎會……三四〇
一二六　サンフランシスコ小學校屋上運動場……三四二—三四三
一二七　サンフランシスコ・マディソンスクール四年生のダンス……三四六—三四七

一二八　サンフランシスコ小學校生徒の戸外體操……三四六—三四七
一二九　バークレー加州大學正門……三四七
一三〇　スタンフォード大學記念館……三四九
一三一　サンフランシスコ金門學園職員生徒……三五〇—三五一
一三二　マウントタマルパイ山頂にて……三五一
一三三　サクラメント・ステートハウス……三五四
一三四　キヤリフオルニヤ・フローリン村小學校日本兒童……三五五
一三五　サンタローザ長澤氏の本邸と葡萄園……三五七
一三六　ミスター・バンハンクと其事務室……三五八—三五九
一三七　桑港灣外、さらばよ米國……三六一
一三八　ハワイホノル、港ダイヤモンドヘツドとワイキ・パーク……三六七
一三九　ハワイホノル、港中央學院……三六八—三六九
一四〇　ハワイホノル、附近日本婦人の砂糖黍栽培……三六九

謹で本書を我が樟蔭高等女學校の設立者たる

森平藏大人に捧ぐ

米國體育視察日記

六月十五日　（土曜日晴）　大阪出發

こゝ十日程以前から出發準備と、不在中の後仕末やら、ひつきりなしの來客と其間を利用しての訪問とで、晝か夜か見當のつかぬいそがしさで自然と睡眠不足勝ち、從つて朝の離床のつらいこと、併し今日はいよ／＼門出の當日だから何かと用事も多からうと思つて元氣を出して五時半に起きた、洗面後神棚と先祖の靈前に向つて、私の渡米中留守宅の全責任を双肩に荷ひ、而も三人の孫の教養と一切の面倒とを七十の阪を越された老の身に、引き受けらるゝ我が母の、いよ／＼健康に在すやう誠心誠意に默禱することしばし、朝飯もそこ／＼にして理髮屋に行く、此店は私が大阪に來てから足掛九年ぶりのお馴染だ、今日こそいよ／＼ハイカラの本家本元に旅び立たれるのだからと言つて、主人が頗る念入にやつてくれたが、時計を見ると七時四十分だ、大急ぎで洗湯に這入り、宅に歸つて見ると、影山寅造君（日本山岳會員）と篠崎耕作君（體操學校の同窓）とは早や手傳の爲めに來て呉れて居る、早速兩君に加勢して貰つて、先日來買ひ調へた被服や、其附屬品、友人への土産物やら、方々へ委託された品々等をトランクに、手廻り物丈けはスートケースへと詰め込む、その間母は昨春から來てくれて居る姪と、私の出發を見送るために一昨日郷里からやつて來た從妹とを勵まして、何はなくとも旅立ちの門出を祝ふ膳部のこしらへ、それ故家の中は二階も下も大騒ぎ、やがて晝食の仕度が出來たので、おそくなつてはいけないと母に急き立てられて、荷作りの方は大體として一同座につき膳に向ふ、お互の健康を祝してビールの乾盃、午後影山君は荷物を

梅田に出すことを、篠崎君は朝日新聞社へ在米記者に宛てゝの紹介狀を貰ひに行つてくれた、私は昨日學校で手續をして置いた、千代田生命保險の假契約書が屆いたので、母と姪と從妹とを呼んで、此の會社の方は一ケ年分の保險料は支拂つてあるから掛金の必要はないこと、學校からは毎月俸給の全額を持つて來て下さること、今一つの明治生命保險の方は、六、九、十二、三月の年四回に掛金することゝか、日本赤十字社の年賦金は今回悉皆納附濟になつたこと、日本山岳會の方は今度ついでに納めて行くこと、赤ん坊の預けてある乳母の方へは毎月手當を送ること、尙夕陽丘高女を退職したによつて給與された金は當座預金として浪速銀行天王寺支店に預け入れ、不時の用を辨ずること、所得稅の納稅額協定に關すること等、經濟上の問題について大小となく指圖をなし、萬一何か急變が出來た場合はすぐ樣學校に相談することを申し殘して身仕度を改め、隣り近所と家主とに挨拶して居る中に、子供は從妹と姪に連れられて一と足先きにと梅田に行く、私がいよ〳〵母に後事を賴んで宅の敷居をまたいだのが午後二時四十分、上本町八丁目から電車で梅田驛についたのが三時半、汽車が出るまでにはまだ丁度一時間あるが、はや見送つて下さる方々が澤山居られて一々お禮を言ふ、時間が一分一秒と進むにつれて追々と來て下さる、仲々一寸簡單に御挨拶するだけで眼の廻る程のいそがしさ、又其上に右から左からと餞別の品々を下さるので到底一人では持ち切れない、花束、香水、菓子、煙草、果物、ハンカチーフ、ウヰスキー、葡萄酒、サイダー、ネクタイ、手帖等中には船に醉はないお呪として、水天宮のお守を呉れた方もあつた、見送りを忝ふした方々は、第一我が樟蔭の森校主、伊賀校長、朝田蜂谷の兩理事を始めとして各先生方專攻科及本科の諸孃、京都師範出身大阪在住の同窓の方々、體操學校出身の同窓諸君、日本山岳會々員諸君、前任校、夕陽丘高女の梁田敎諭は同校職員を代表して更に同校第一回以降各年度に亘りて多數の卒業生諸孃及現今在學の補習科本科四三學年の方々、其他大阪及其附近に於て平素知遇を辱ふせる方々と、殆んど停車場の上り一二等待合室と共前面車寄附近は立錐の地なきまで、僅半年餘りの旅行に對しかくまで多數見送り下さる御懇情に對しては、たゞ〳〵感謝する外に之に適當なる言葉を見出し兼ぬる次第であつた、やがて改札口が開かれて上りプラツトフホームに汽車の來るのを待つ間、高浦紫眸君は記念の撮影をしてくれられる、待つ問程なく明石發各等混合列車が這入つて來た、先き程から頂いた澤山の餞別品とスートケースを一等車に入れていよ〳〵車中に入り、窓から上半身を出す、見送りの方々からは、御機嫌よう、御達者で、お身體をお大事に、道中御用心遊ばせ、など口々に言つて下さる、この暖かきお言葉に對しては心の中では嬉し涙を出さずには居られない、發車時間は刻々に迫り發車信號のベルが鳴る、續いて車掌が吹き出す相圖の笛、車は靜かに動き出す、皆樣のお顏に萬遍なく一と亙り注目して『ドウも有難ふございました』と一と言お禮を申し心持ち頭を下げ、今度上げた時は、稍列車の速力は增してゐる、萬歲萬歲の聲と帽子やハンカチーフを振つて下さる其光景で思はず、心臟の皷動が變調に高まるを覺ゆ、かくて列車はプラツトホームを離れて最早皆さんの姿が見えなくなつた時、心を靜めて手荷物の整理をなし、態々京都まで同車して下さ

る同僚の加納教諭と阪神急行電鐵の吉岡草古君とを相手に四方山の話に耽る、同車中に二組の白人が乘つて居る、服裝を見ると香港か上海あたりに住んで居つたものか、支那流の裝飾品が多い、盛んにからかい合つて隨分騒々しい、此の列車は大阪京都間は急行なので途中停車なく豫定通午後五時二十分京都驛についた。

京都の三時間

草古君は直ぐ様大阪に引返されるので、其好意を謝してプラットホームでわかれる、荷物を赤帽に託して一時預けとして改札口に出ると、夕陽丘第四回卒業の加賀千代子夫人は東區中大江幼稚園木村園長とお二人で一と汽車先きに此驛まで來て下されて御挨拶下さる、そこへ吾が竹馬の友京都市尙德小學校長眞下飛泉君と體操學校同期生たりし京都府立第一高等女學校教諭の矢守利三郎君とが來てくれる、共に市電で四條富小路の萬養軒におちつく、此處では日本山岳會々員で京都在住の有志者諸君が、吾がために送別の晩餐會を催ふさんとのことで三上捨造君松代鍋種君が其の斡旋の勞をとられる、待合室に這入ると既に吾れ待ち顔に小島榮君と森平藏君とが面白く諧謔を交へて山の話の眞最中、一拶の後私も其中間入をする、やがて食堂に案内され、御心盡しの御馳走をいたゞく、デザートコースに入るや三上君は一同を代表して私の爲めに健康を祝されて起立して乾盃、再び待合室にて今年の山入りの計劃等を承る、盡きぬ山の話に名殘りを惜みつゝ矢守君と二人で先きに出て、又もや電車で京都驛前に七時五十分下車、直ちに一時預けの荷物を

大阪驛出發

とらせ急行券を購つて上り待合室に入る、こゝでもわざ〳〵見送つて下さる方々が早や一ぱい、私が體操學校を卒業して最初赴任して體育上の抱負を實施するに當り、極力賛成援助を與へらるゝと共に懇切に指導を賜り、一人前の女子體育者として今日ある基礎を得せしめられたる恩人、京都市立第二高等小學校長田村作太郎氏夫妻及同校男女の職員併に私が高等女學校に於ける體育教授の經驗を第一に練習した京都府立第二高等女學校長萩原忠作氏及同窓會を代表して同校出身の教諭神田靜尾嬢、更に京都師範同窓の諸先輩及同級生特に今夕別宴を催されし日本山岳會員の有志者、其他二十餘年來京都市及其附近に於て交誼のある方々等、夜中も厭はれず見送り下されて、又々餞別の品を下さる、殊に體操學校出身京都在勤の諸君からは、彼地に持つて行つてプレセントとするのに尤も恰好の品を澤山頂いたことは特に此處に記して御好意を謝さねばならぬ、待つことしばし汽車は轟然と響きを立てゝ這入つて來た、去る七日神戸なる英米二國の領事館や大阪商船支店等へ乘船手續に行つた節購つておいた寢臺券に示す第三列車の第八室に陣取り窓硝子を明けて發車の信號と共に好意を感謝して御禮を述べる、汽車は靜かに轢り出して秒一秒と皆樣の顏は淡く、丁度春の東山に霞の靉靆いたやう、京都は私にとつては第二の故郷である、隨つてお顏馴染も皆古いので、そこに言ひ知らぬ情合もある譯だが、ウントト大腹中に押し込んで硝子窓をしめて室に入り又もや荷物の整理を了りやつと一服すつて居ると、一人の白人が日本語で今晩はと言つて這入つて來た、何でも今食堂から歸つて來たのらしい少し赤い顏をして居る、多分ビールの一二本位は飲んだのであらう、私

もわざと日本語で隨分蒸し暑いですねーと答へた、彼れもベツトに腰掛ける丁度正面に顔を合せたわけ、何だか二三度は見たことのある顔だ、彼れの手荷物を見ると「スートケース一個と細長い雜嚢一個だ、其袋の端を見るとゴルフ用のステツキが六七本頭を出して居る、ホエヤー(where)、アール(are)、ユー(you)、ゴーイング(going?)と聞くと、アイアムゴーイング(I am going)、カルイサワ(Karuisawa)と答へた、ハー若し間違てもよいからと思つてドーユー(Do you)、リブ(live)イン(in)Kobe?、カウベ(Kobe)、と聞く、とイエス(yes)と答へた、アール(Are)、ユー(you)、ゴルフクラブメンバー(Golfclubmember)、イン(in)、ロツコウ(Rokko)、マウンテン(mountain)、と聞くとソーデスと日本語で答へた、夫れでは讀めた六甲山で時々遇つたことがあるのだらう、今度は向ふからアナタ京都ですかと聞くから、下手な英語を使ふ必要もないと思つて、いゝえ大阪ですと言つて、先日渡米準備に作つた英文の名刺を見せると、ミスター(Mr.)アサヒ(Asahi)、何時も六甲亭のおかみさんから聞く大阪の女學校の山好きの先生、ミスター(Mr.)タケシタ(Takeshita)、ミスター(mr.)アサヒ(Asahi)と、向ふはチヤンと私共の名を知つて居る、何地へ行くかと聞くから、これから米國の女子體育狀況の視察に出る處だと云ふと、夫れは面白いアメリカの山澤山登つて居らつしやいと言ふ、その内汽車は大津に着いた、豫て約束がしてあるので、車が停るとすぐプラツトホームに降りると、大津女子師範に在勤せる、私の小學校時代のクラスメード南部愼太郎君と同校體操科擔任の松村女史とが來てくれて居る、此處の停車時間は僅かに六分なので、ゆつくり話も出來ないが、今度の私の計劃を一と通り話すと同君も大層喜んでくれて、先度君が旅行する通知狀をお越した時に、それを讀んで實に驚いたよ、これまでマサカ君が洋行するとは夢にも思はなかつたからネ！

とお互に大笑ひ、そばの松村女史も共笑ひ、丁度發車のベルが鳴つたので車中の人となり、兩君にわかれ明朝までは久方ぶりにゆつくり眠つて連日負ふた眼の借金を返戻しようと思つてベツドに入る。

六月十六日　（日曜日）　晴　横濱　着

ふと眼が覺めて私の意識が明瞭になつてくると、汽車は比較的緩かな速力でいやに蒸氣を吐き出す音が耳にさわる、注意して聞いて居ると列車の後部からも機關車が押して居るらしい、さて何處だらうと思つて廊下に出て見ると汽車は佐野を離れて、御殿場に向つて進行中だ、富士の英姿やいづこと仰いで見ると惜しや七合目位から上は朝霧に包まれてよく見えない、初めて外國に行くものが日本を離れる時と、歸りついた時とに富士山の見えると見えないとによつて、多少神經を惱すと聞いて居る、東京女子高等師範二階堂教授著書の足脚四年の中にも其記事があつたと覺えてゐる、矢張人情として一目でも其秀麗なる山容を眺め得ば誰人でも滿足するのだらうと思ふ、せめては御殿場あたりに行つた頃、都合よく晴れてくれゝばよいがと云ふ僥倖を期待して洗面をすませ身づくろいをして居ると、ルーム附きのボーイが一枚の名刺を持つて來た、手に取つて讀んで見ると、昨日梅田にて見送りせし後二三の用事を濟まして夕刻此の列車に投じ食堂車の後の車に乘込居り候、箏曲矯風會長高杉梅窓と書いてある、直樣訪ねようと思つて廊下に出ると、先き程まで霧立ち込めて見えなかつた芙容の峯は、何時の間にか濃霧は全く消散してしまつて、巍然たる雄姿は我が眼前に展開されて居る、その瞬間に於ける喜悅の快感は到底此に寫すことの出來ない嬉

しさであつた、去る大正二年八月此の山嶺に立ちて山岳の威力を感じてよりこのかた、夏季休暇には必ず毎年一回信越の高山を蹈破し、夏尚寒き雪溪に接觸することが唯一の慰安であり、又奮起の源を釀して一年間の活動を續け得る大刺擊なりしに、今大正七年は謀らず渡米のため親しみ深き日本アルプスへも無沙汰の止むなきをなさしめる、せめては今度此の裾野を通過する際、一と眼でも田舍の乙女が厚化粧をしたやうに、鮮明な殘雪を以て裝へる富士の高根をと、旅立つ前から賴み甲斐なき希望を抱いて居つたが、神もこの山好きの男の心根を不憫と思召されけん、かくも鮮かにみそなはすとは、何たる幸であらう、これでいよ〳〵船で日本を出る時も、歸朝の節にも萬一天候の模樣で例令見ることが出來なくとも、不滿を抱くまいと、神に感謝ししばらくあかず眺めた後、高杉女史の車內に赴き、相携へて食堂に入り簡單なる朝食をとりつゝ世間話を試む、食事中汽車はやがて國府津も大船も過ぎてしまつたので、そろ〳〵荷物を片附けなどし、待つ間程なく横濱についた、女史とボーイに手傳つて貰つて手荷物を下して赤帽に託し、汽車の出るのを待つ暇に女史から難澁な問題を提出された、此の矯風會の箏曲が近來有識者の間に認めらるる樣になつた原因は、從來の因習に據らずして、全部譜本を使用して一齊教授を爲すのが、他の流派に見ることが出來ない長所であるので、近時大阪東京に於て學生の課外に之を修めるものが追々と增加して居る、夫れで女史が言はれるには若し米國でヴアイオリンの一齊教授をやつて居る處があつたらば、詳細に調査して來てくれとのことであつた、多少私の方面も音樂とは緣故を持つて居るのであるから、若しも機會があれば調査もするが、金太皷で米國中を探し廻ることも出來ず、萬一の時は折角の御希望を滿足して頂くことも出來ず女史に對して申譯がないと笑ひ話でお別れをする、丁度そこへ體操學校第一回卒業の神奈川縣立横濱高等女學校の竹內茂十郎君が出迎へてくれた、同君の案內で改札口に出て荷物を取り、車夫に掛け合つたがトランクが少し大きいので、トテも車では參れませんと言ひ出す、ナニ大阪ではトランクもスーツケースも一輛に積んだのだから積めないことはないとコチラが言つてもイエ積めませんと言つて相手にしない、これから見ると大阪の車夫よりも横濱の車夫は勞勘くして金を多く欲しがるのだとわかつた、やがて自動車を雇つて竹內君と同乘し、荷物も全部積み込んで八時半本町四丁目の高野屋についた。

此の家の若主人高野應藏氏は知る人ぞ知る、日本山岳會設立者の一人で、最初より今日まで拾有餘年間幹事として會務一切の面倒を引受け處理さるゝ篤志家、本會が今日の盛大を見るに到つたのも大に其力が與つて居るのである、私も本會員として其末班を汚し居り、數年來隔意なき親交を受けて居るので、今回の出帆についての斡旋方を依賴した譯なのである。

店先きに自動車がつくと多數の男衆や女中が威勢よく迎へてくれて、長らく關西で他家に行つても「おいでやす」と「ナマヌルイ」挨拶に慣れて居つた私の耳には「キラツシャイ」が特に强く感じて一種の快感を與へた、案內されて裏の二階の西洋間に通さる、先づ浴衣に着かへて打ちくつろぎ、高野君には其後の久濕を謝し今回特に赤毛布の乘船について高配を煩はすことを依賴して竹內君を紹介すると高野君の令妹が矢

張り竹内君の學校の補習科に在學せられて居るとかですぐに話の調子がうまく合ふ、階下に降りて令閨に初對面の挨拶をすませてお二人の子供にも遇ふ、竹内君に關西方面に於ける體育狀況を話して居ると、やがて晝食の膳が運ばれた、鮪の刺身に舌鼓を打つてビールひつかけ食事を了り、一と休みの上東京に行くべく身仕度をした、高野君も同行するとのことで、竹内君とは出帆當日を期してわかれ、櫻木町から京濱電車に乘る、車輛は全部ボギー車にて乘心地よし、一時間計りにて東京驛につく、永らく東京に來なかつたので私は此處に下車するのは初めてゞあるが、今まで人の噂で大分立派だとは聞いておつたが、左程にも驚かなかつた、驛前で高野君と別れ、車を雇ふて私はお堀端に添ふて行く、こゝは私が明治三十五年五月、體操學校に入學すべく初めて新橋驛について人力車で九段牛ケ淵の學校へと運ばれた時と同じ道だ、今日は竹橋から這入つて近衞師團司令部前を通つて、番町に出で、上六番町なる校主森氏の別邸に着く、邸は三井高保邸を前に土地高燥周圍は多く大邸宅計りなるが故に何となく幽邃、門前に車をすて、スーツケース一個を提げて玄關のベルを押して案内を乞ふ、待つ間程なく男女の下邊が、内から扉を開けての案内、早速西洋室の應接間に通れば、千代子嬢を先頭に令閨の御尊父次に令閨と御出で下さる、一と通り挨拶の後、豫てより承つて居つた御親戚の朝田舜一君を紹介して下さる、同君は曩に早稲田の政治科を卒業せられ、來る八月一日横濱解纜米國キャンサス洲なるオツタワ大學へ留學せらるる方、夕方まで双方の準備話で仲仲はてしがない、是非にと勸められて、今夜は此の邸に一泊御面倒を願ふことゝし、晩餐の饗を受け、食後麹町區飯田町三丁目なる健康堂に行き主人平本直次君に遇ふ同君とは體操學校同期生の間柄二時間計りも體育を論じ歸途靖國神社に賽し一浴の上森邸に歸り十一時就眠。

六月十七日　（月曜日）　雨　東京滯在

眠が覺めたのが午前七時十五分、私は相當疲勞して居つたのと、それに邸内が大層閑靜なのとで隨分熟睡したものだ、千代子嬢は早や學校に行かれた後であつた、ゆる〳〵と朝食を頂いたが今日はあいにく梅雨の霖雨が降り出して、用足しに出るのも億劫だ、而も蝙蝠傘は昨日横濱に置いて來た、止むなく人力車を呼んでいたゞいて、小石川大塚の高等師範に行く、受附で永井道明氏と可兒德氏とを訪ねた、可兒氏は今日は授業時間がないので出勤して居られないとのこと、永井氏は今授業中とのことで待つて居ると、講堂の中で體操をして居るケハイがする。一寸覗いて見ると若いすらりとした元氣な教官が三十人計りの生徒相手に課業の最中、拾分計りで授業は終つた、後から紹介されて三橋助教授と知れた。次の時間は柔道場で本科の生徒が二組合同で永井氏の授業を參觀した、それで午前は終りとなり、他の參觀者と共に永井氏の斡旋で辨當を取つて貰つて晝食をすまし、豫て御懇意に願つて居る、大阪醫科大學の木下博士が當校上級生の爲めに二三日前から運動生理學の講義に來て居られるので、食後同氏に會ひ其紹介で嘉納校長の室に行つて面會した、他に二人の來客があつたけれ共、米國の體育視察に出かける處と、博士から言つて下さつたので、種々視察上の注意やら、將來日本の採るべき體育の方針等に就いて、約四十分計りも懇ろに指

導して下さつた。餘り私計りでお話を伺つて居るのも他の方に御迷惑と思つて謝辭を述べて室を出て、附屬小學校に佐々木吉三郎氏を御訪ねしたが、今日は臨時休業で出勤して居られないとのとで、又もや人力車で可兒氏の御宅に行つた處が、體操學校に行つて居られるとのことなので、止むなく御令閨に願つて置いて關口水道町から牛込區山吹小學校に行つた、此處の岩間校長とは同鄕竹馬の友である、幸ひ在校であつたので共に神田裏神保町東洋家政女學校に岸邊福雄君を訪ねた。更に岩間君の寓居に引返し夕食仕度の時間を利用して、すぐ近くに住んで居られる同國人にて文部省參事官下村壽一氏を訪問し、一とわたり話を交へた後、同じく丹後出身にて外務省の大使館書記官で居られる川島信太郎氏を電話で呼んでいたゞいた、同氏は昨年まで四五年間も米國に勤めて居られたので、諸種の便宜もあらうから一度外務省に來いとのこと好意を謝して此處を辭し、岩間君の宅で晩餐を受け、二町計りの處南山伏町の宮田脩先生を訪ねた、今夜は御老母のお伴で歐洲戰爭の活動寫眞を見に出てゐられるが、そうおそくはなるまいから暫く待つてくれてはと令夫人の御挨拶、遠慮なく座敷に通つて待つ、私が學生時代に先生から倫理學と平家物語とを敎はつて居る頃、時々御宅へ御邪魔しに來た頃は、先生も獨身で何等氣がねなしであつたが、今は早や中學にいらつしやる令息があると聞いて、月日のたつの速かな事を感ぜざるを得なかつた、其内先生も歸られてすぐ又書齋に通された。過日香川縣から御歸京の途態々我が樟蔭に寄つて下さつて、生徒に一場の講話を願つた御禮から初めて、今回愈々渡米する事に至つた顚末の大略を申上げた、先生も非常に喜んで下さつて話はそれから夫れへと進んではてしが無い、時間も既に十一時すぎなので岩間君の宅に歸つて一泊した。

六月十八日（火曜日）晴

朝七時四十分津田英學塾に行つたが、塾長は目下病氣引籠中とのこと、折角來たついでと思つて、今春夕陽丘から入學した宮崎妙子孃と更に同校第五回卒業の横尾靜子孃とに會つて學校の模樣等を聞く、尙ほ體操學校第六期卒業で成女と此處を兼任して居られる山本祐吉君にもあつてお互に久濶を謝した、九時半辭して電車で霞ケ關に向ふ。今日は英國よりコンノート殿下が御入京になるので、見物人や出迎の學生等が此の方面へ詰めかけて居る、櫻田門外で電車から降りて外務省に行き、政務局長小幡酉吉氏に面會を求めた、豫て令兄小幡文三郎氏より豫め紹介を願つてあつたので、すぐ樣局長室に通された、公務繁多の折柄私の爲めに時間を割かれて在米國の各領事へ宛ての紹介狀を認めて下さつた、御好意を謝して室を出で、更に通商局に昨夜下村壽一氏から紹介された川島信太郎氏を訪ねた、丁度私が師範學校の生徒時代に同氏は商業學校に在學中であつたので、二三回も同國人會で出會つたとがあつたので、打ちとけ米國視察上の注意を何くれとなく一時間計りも話して下さつた。更に二三の紹介狀を貰つて外務省を出で其西南隅に立ちて、コンノート殿下の霞ケ關離宮へ着さるゝ英姿を拜し、歩を櫻田門内より二重橋前に進めて、遙かに宮城を拜し東京驛前より電車乘用江戸川畔を登り、目白臺なる女子大學に行き成瀨校長に面會し、更に木内女史を紹介されて米國女子體育界の模樣などうかゞひ、夕陽丘卒業生にて現今在學せる、奥戸ふく子、濱

田富美子、濱田孝子、植田明子の四嬢の案内にて各館及寮舍方面を參觀、三時此處を辭し再び岩間君の宅を訪ね夕食の後、國民體育會に石橋主幹を訪ねしも不在の爲め、森邸に歸りて十時就眠。

六月十九日（水曜日）晴

五時半起床、横濱の高野君から來信、アラビア丸出帆は二十三日に延期されたと書いてあつた、七時半石橋君來訪約三十分にて歸らる、次ぎに近藤茂吉君來訪直ちに同君の自動車に乘つて靖國神社の傍なる理學博士武田久吉氏を訪ね、しばらく山の話、高山植物の話などして辭し、神田裏神保町にミスター、ブラウンを訪ねた、此處は近藤君の紹介に依つて米國各地のＹＭＣＡへの紹介狀を貰ふべく依賴に行つたのである、ブラウン君は神田基督教青年會の體育指揮者として先年來我が國に來て居る仲々元氣で快活な男であつた、門口で袂別するときにも、アメリカさんに宜敷言ふて下さいなんて、シャレを言つて居つた、次ぎは青年會館に行つて、近藤君の案内で體操室から室内水泳場等を參觀して同君とは今夕横濱で遇ふ約束をして別れ、電車で森別邸に歸り、更に有樂町一丁目なる櫛引弓人氏を訪ねた、多忙の中を支配人村田氏をして桑港紐育等の大劇場の主任に宛てた紹介狀を十三通作らして下さつた、村田氏はタイプライターを面白い程巧みに使用して十分間計りで仕上げられたのには、一驚せざるを得なかつた、好意を謝して辭し、直ちに電車で横濱に歸つたが、途中から農學士辻村伊助君と偶然一つの列車に乘つたので久濶を謝し相携へて高野屋に歸る、その中お湯が沸いたので、高野、辻村の二君と共に沐浴、夕方になると陸軍砲工學校教授の梅澤親光氏も見えた、米國に行く人の爲めに洋食の送別會も變だから、いつそ横濱第一流の支那料理に行かうと言ふことになつて出かけて行つた。今日東京で約した近藤君も來られて五人で樂しく澤山の料理を片つ端から平らげてしまう、九時半食事をとつて散歩でもしようかと言つて居ると、大夕立が沛然と降つて來て、しばらく待つたが仲々止まないので、終に一同車を列ねて高野屋に引上げて來た。改めてビールで飲み直しが始まり山の話でお互がメートルを上げる、梅澤君は皆で留めるのも聞かないでとうとう猛雨の中を東京に歸へられた、あとは又一しきり花がさき近藤辻村の二君も一泊と決定して十二時過ぎ各々褥につく。

六月二十日（木曜日）雨

今朝はお互に揃ひも揃つての朝寝坊、八時頃やう〳〵洗面して九時四人が朝食を共にし、近藤君は急いで東京に歸つて行かれる、私も殘りの用事を足すべく十一時頃から出かけ、お茶の水なる女子高等師範に行き、下田次郎教授、二階堂トクヨ教授、成田順教諭に面會し午後五時頃までも御邪魔をして居つたが、三時頃から降りかけた雨が仲々止まないので大雨の中を出て、元園町の近藤君の宅に立寄り更に石橋君を訪ねて晩餐の饗を受け、體操學校の學生時代に下宿しておつた九段中坂の松聲館を訪ねて此處に一泊した。

六月二十一日（金曜日）雨

東京滯在

早朝、大雨の仲を大塚町の可兒氏を訪ねた、幸ひ在宅であつたので私が今回視察する地方及重なる學校等について懇切に指導を受け、又知名の人に對して紹介狀を受け十時辭し、次ぎは東京府立女子師範學校に校長鈴木光愛氏を訪ねた、氏も近く歐米教育視察のため出發さるゝので、向ふに着いてからの失敗豫想等を談じ、彼の地に於て面接の機を約し、途中本鄉の大通りにて晝食を認め、午後は西片町誠之舍に高島平三郎先生を訪問した、體操學校長時代に訓陶を受けた關係で、特に今回の渡米を悅んで呉れられ、視察上の要點等に就きて懇篤なる注意を與へられ、餞別として最近の著奇問奇答一部を下さつた、三時に辭して下谷阪町へ昨年まで夕陽丘で同僚であつた中村鶴江(舊姓長安)さんを訪ねた、此處の御主人保馬氏は明治三十七年以後永く米國に居られて今年四月に歸朝された新知識の人である、幸ひ御夫婦共在宅であつたので何くれとなく彼の地の樣子を聞く、是非今夜は一泊せよとの好意を辭するに言葉なく、とう〳〵あまえて一夜の宿を借りた。

六月二十二日　（土曜日）　晴

朝食後、主人公も京橋方面に出られるので相携へて出で、私は築地海軍々醫學校に行き教頭吉河爲久藏氏を訪ふ、同氏とは同村の出身で殊に私が體操學校在學中氏の獨逸に留學さるゝ前に於て特別に生理學の指導を受けたのである、一別以來の挨拶につぎ海軍の採用せる體操についての談話あり十一時辭して、牛込なる成女高等女學校に行き宮田脩校長山本祐吉教諭に遇ひ晝食の餐を受け、三時辭して銀座通にて土產物等を購ひ東京驛に行く、今日は體操學校の手島儀太郎君と石橋藏五郎君とが上海へ講習に出るために出發すると云ふので、倶に横濱まで同車することにした、驛には兩君の知己及生徒が多數見送つて來て、一同に向つて私も紹介されたので、或る意味に於て私も見立てゝ貰つた樣な譯だがこういふ御つけ合は全くわるくはない、横濱では兩君の發車を送りて高野屋に歸る。大阪から澤山の書面が來て居つたので、一々返書を認めて出す、夜は高野君と雜談して十時就眠。

六月二十三日　（日曜日）　曇

今日出帆すべきアラビア丸は、昨夜おそくなつてから又候一日延期すると云ふ通知があつたそうで、出發するとなれば出てしまつた方が埒が明くのだが何と言つても仕樣がない。午前中荷物の仕譯をして晝食後、女子師範の竹內茂十郎君の寓居を訪ねた、今日は休日だから夫婦とも在宅で夕方まで話し終に晩餐の饗を受け、同君は態々電車で途中まで送つてくれて宿に歸る、疊の上に寢るのも暫くは今夜一晩ですねと宿の人からからかわれて十一時就眠。

六月二十四日　（月曜日）　晴　アラビヤ丸乘船

いよ〳〵今日は待ちに待つた乘船の日だ、朝食後直ちに米國領事館に行つて「パスポウト」の査證をして貰ひ、更に水上警察署に行つて同樣の手續を濟ませた。高野君を煩はして船內での雜費に充つる少額を殘し、全部を正金銀行で米國貨幣に兩替した、今日の相場は51.8と云ふので邦貨壹千圓に對して、米貨五百

十七弗五十仙と云ふ勘定だ、何だか尠くなつてつまらない感じがする。その中東京から岩間君が令息を連れて見送りに來て呉れる、可兒徳氏も態々來て下さる、更に竹内茂十郎君も來る、一同晝食を共にし少憩の後、氣樂な浴衣を捨てゝ洋服に着替え、宿の方々にも挨拶そこ〳〵高野君に案内されて第五號繫船場に行つたのが丁度三時、荷物は宿の男衆が運んでくれた、一應十四號と云ふ私の船室に行つて見る、同室の人は爲田朝一郎君と言つて今年慶應の理財科を出られたと云ふ貴公子然たる青年、同君は東京高師の附屬中學の出身で可兒氏からは永く訓陶を受けた人、同氏から紹介されて好いフレンドを得たのを喜ぶ、同君は市俄古大學の教授スタール博士と知り遇ひであるそうで、今回の渡米も同博士の斡旋であると聞いた。

船内は乘客と見送り人とで何處に行つても大混雜、暫くすると檢疫醫たる米國人がやつて來て、一等船客はダイニングルームに着席してほんの乘客の顏丈けを一通り見渡して「オールライト」の一言を與へたこれで檢疫は終りであつた、何だか人を馬鹿にしたやうな仕打ちだが、此のドクターは永く横濱に住居して居るので、隨つて好意的に視るのだと云ふことを聞いた、併し甲板の上に二列を作つて並んだ男女の三等乘客は一人〳〵手を取つて脈搏を檢しつゝ顏をのぞき込んで居るが話に聞くよりも之も簡單であつた、追追出帆時間が近づくので船内には銅鑼が鳴り渡つて見送り人を下船させ初めた、私共は食堂に這入つてシャンペンならぬビールを拔いて乾盃し四人を送り出す、準備萬端整ふたと見へて推進機が動き出して船は徐々と岸壁を離れて行く、私は欄干に倚つて四君を見失はないやうにと注意をする、四君は棧橋から懸け渡す昇降器の上に登つて帽子やハンカチーフを振つてくれる、こちらも帽子を振つて應答をする。棧橋の見送り人と甲板上の乘客とは互に顏を見失はない樣に細長い紙を引張つて居る、船が岸を離れるにつれて順々と紙を伸して行くが、併し之には際限があるので途中で切れて水中に落つるもの、或は最早紙の長さが足りなくなつて、刻一刻と紙は切れて行く、斯くすること六七分の中四君は最後の挨拶の爲め帽子を高く上げてくれたから、私も之に答へ船は船首を廻轉させて波止場の關門目がけて行く。斯の樣にいよ〳〵國をはなれる時に一種言ひ難い悲哀の情が起るのを、今まで經驗ある人からも聞き、又多くの著書でも承知をして居るが、想像して居つたよりも、そう淋しい感じは起らない、今日のこの別れのあることは業に既に覺悟はして居るし、尙家族とか近親のものとか云ふ血緣者の居ないといふことも、其情を起させなかつた一原因であつたと思はれる。丁度岸壁を離れてから三十分で船は關門外に停船した、之はお定りの密航者調査の爲めである。私共一等船客の調べはなかつたが、三等の方は男女別々に甲板に並べられて人員檢査があつて、暫く其位置に立たせておいて、船の係のものと水上署から派遣された警官が總掛りで、船内くまなく搜索すること約一時間、終に船艙の荷物の間隙に潛んで居つたと云ふ男をひき出して來た。見ると年輩三十七八歳、顏は赤銅の如く赤黑く、逞ましい筋骨をして居る壯漢で、右手には一個の風呂敷包を持ち、左手にビールの空瓶を一本さげて法被に腹掛股引に頑丈な地下足袋を穿つて居る。顏附を見ると餘り教育はありそうにない、巡査に引つぱられて會社のランチに移乘し、デツキのベンチに倚けるや否や風

呂敷包から豆煎を握り出して嚼んで居る、察するに其包は蠶豆貳升程の容積があるから多分船艙の奥深く潛んで居つてそれを糧食として、時々ビール瓶の水でも飲んで行かうといふ考であつたらしい。

出張せる警官に聞くと、彼れはこれで三回目の企で、第一回は昨年シャートルまで途中發見されずに行つたが、彼の地に碇泊中に見出されて後送され、更に第二回は本年二月又やつたが、此處で今日のやうに發見されたと言ふことであつた。本船からは乘客の殆ど全部が見物して居るのに、彼は平氣で煎り豆を嚼んでおつたが程なく陸へ送られて了つた、停船してから一時半も經過するが船が動かないのと警官が未だ船に殘つて居るので、又候尋ねて見ると製氷機械に故障が出來たのでそれを修理する爲めに今夜は此處に假泊するとのこと、豫定よりも數回出帆が後れた上にやう〳〵乘つたかと思ふと、此處で假泊とはひどいと言つて大分こぼして居る人もあるが之も致方もない。私は船室に歸つて手荷物の整理をなして爲田君と話す、そこへ大阪の人で野口忠敬君といふのが尋ねて來られた。同君はヴアヰオリン研究の爲め今回渡航さるゝといふことは、出發前一友人から聞いて居つたが、同じ船で行くとは思はなかつた、今回まで一面識はなくとも同じ大阪と聞けば何となく親しみも加はる、お互に心易く願ひませうといつて其場はわかれた。程なく食事用意の銅鑼が鳴つたので洗面して身仕度を整へ、第二回の銅鑼で食堂に入る、入口に一つの掲示があつた「別に着席の順序もテーブルマスターをも定めず候間隨意御着席相成度候」とある、同室の爲田君と一方側のテーブルに着き形の如く食事をすます、幸ひ一等船客は日本人ばかりなので、婦人等は和服のまゝで出て居る方が多い、隨つて氣苦しい心配がないわけである、食後甲板に出て霧に包まれた横濱港の夕景を眺めて居ると、今日は丁度月蝕のある日だ、七時半頃月の右下から虧けて居るのを見た九時半ベツドに入る。

六月二十五日　（火曜日）　晴

六時起床甲板上を散歩す、八時半朝食、食後船長永田七郎氏に面會して山岡商船副社長からの紹介狀を渡し航海中の萬事を依賴し更に事務長武山茂雄氏にも同樣依賴しおく、私の隣室は丁度醫務室になつて居るので、一寸挨拶に行く、醫員は印牧富士馬氏といつて溫厚な若いドクターだ、隣り同士ですから何時でもお話に來て下さいとのこと。製氷機の修理は仲々出來上がらぬらしい、晝食後一時間午睡を爲し三時食堂でお茶が出る、夕方までに郵船の伏見丸、日光丸、商船のアフリカ丸が入港して來た。船は動かずすることはなし、實際こんな場合が眞の徒然と言ふのであらう。夕食後は醫務室に遊びに行くと、三等船客に露國人が七八名乘つて居つたが、其中の一青年がマンドリンを携へて來て奏でる仲々巧みである、今一人はボーカルがうまい、此二人を相手に無聊を慰めた。別に掲示は出ないが船は今夜十二時には出ると云ふ噂があつたが眞否はわからない十時ベツドに入る。

六月二十六日　（水曜日）　曇　横濱出帆

私の船室の外で、水夫等のケタタマシイ聲にふと眼が覺めたと同時に、ベツドに一種の强き振動を感じ

たので、これは出帆だと自覺された、船夫は掛聲勇ましく舷側に下ろしてあつた吊梯子を捲き擧げて居るガバと飛び起きて寢卷のまゝで甲板に出て見ると、横濱神奈川兩市街の電燈は最早遠く後へになつて、本牧あたりの火がちら〳〵と眼の前に展開される、時計を見ると〇時六分だ宵の噂は眞實になつて愈ゝ出帆になつた、丁度二十六日午前〇時〇分に横濱を出たわけだ、下甲板には三等客の男女が幾組も立つて故國の夜景を眺めて感慨にうたれて居るが如く皆無言である、その中横須賀の燈火も追々と遠ざかつて行つたので二十分ばかりの後ベッドに這入つた。六時起床、洗面後窓外を見渡すと最早四面は水ばかりで少しの陸も見えない、少しうねりがあると見えて船が動搖するが大したことはない。例刻八時半に朝食をすませて午前中はキャビンで厨川白村の米國印象記を讀む、〇時半晝食の際無線電報が掲示された。

○無線電報（二十六日午前八時受信）

△東京發（二十五日）

○内務省に救濟事業調査會新設さる。

○英國特使コンノート殿下午後日光へ行啓あらせらる。

○帝國、國民兩飛行協會昨日合同を遂ぐ。

△上海發（二十四日）

○壹億圓鐵道借款問題は西原龜藏と曹徐霖により目下進捗中なり。

△巴里發（二十二日）

○獨軍は巴里の近郊二十里に肉迫せり、ために佛國政府は避難準備局を組織したり。

尙之と同時に本船の航海日誌の一部を抜萃されたものが掲示された、之は航海中毎日一回正午に於ける測定位置や其他の事項を出さるゝさうで確に航海中の良參考と思つたので、私は事務長に依頼して特に其印刷物を一枚づつ分與さるゝことにした。

アラビア丸記事

○大正七年六月廿六日（正午の位置）	
○北緯	三十五度四十分
○東經	百四十一度二十六分
○航走距離	百三十八哩
○横濱より	百三十八哩
○ヴアンクーバーまで	四千二百八十九哩
○バロメーター	二九、六〇
○溫度	七十三度
○時計	三十五分進める

船長　永田七郎

本船は全速力拾七哩を算するさうだが、普通の時には一時間拾貳參哩だそうだから前途は遼遠だ、午後はサルンで蓄音機を出して遊んだ、同じ一等船客に大溝啓三郎君といふのがあつて、自ら名乘つて私に話された、それは同君の親友で東京の人高橋某（慶應大學々生）の處へ夕陽丘第七回卒業の大森ます枝嬢が昨年嫁いで行つて居るので、私が此の船で渡米するといふ消息も自然知つて居つたさうで、是非船に行つた

らと言ふのであつたそうだ、大溝君は青森縣の出身大層元氣な青年だ、いろ〳〵話しもしたが令兄がシヤートルに居るので、當分そこに足を留めて語學を專一にと言ふ次第であるらしい。六時三十分夕食の際は波も靜かになつたけれども食堂に出るものは其三分の一位だつた矢張り少し海に慣れるまでは食慾がすゝまぬと見える、食後は室で爲田君をつかまへて登山趣味の話をした、さぞ同君は迷惑であつたらうが、私は愉快で心持ちよく十時半ベッドに這入つた。

六月二十七日　（木曜日）　曇　太平洋上

六時起床、今日は濃務甚だしく、朝から五分間位おきに汽笛を鳴らしつゝ進行した、朝食後はデッキビリヤード及輪投げ等して遊ぶ。

○無線電報

△東京發　（二十六日）

○東宮殿下七月一日午後御發車東北地方巡啓のこと決定せらる。

○政府に對する政友會の態度漸時險惡となる。

△倫敦發　（二十四日）

○墺軍の攻擊全く失敗に歸せり。

△ワシントン發　（二十三日）

○米國下院委員會は壹壹○億弗の海岸防禦費を可決せり。

アラビア丸記事

○大正七年六月廿七日（正午の位置）

○北緯　三十八度二十九分

○東經　百四十六度五十分

○航走距離　三百○四哩

○横濱より　四百四十二哩

○ヴアンクーバーまで　三千四百三十六哩

○バロメーター　二九、八二

○溫度　六十八度

○時計　二十分進める

船長　永田七郎

午後三時御茶の時大阪から無線電報が來た「アンゼンナルコウカイヲイノル」（五）としてあつた、これは本年夕陽丘卒業の藤野、村角、小野寺、佐々、三木嬢の略號で横濱出帆の前、書面で其略號は承知して居つた、夕方三等船客中の四十餘りの男が、急に熱が出て病症が惡いので腦脊髓膜炎でなからうかと言つて、印牧ドクターも心配しておられた、幸ひ一等船客には嘗てシヤートルで開業して居つたと云ふドクターが乘つて居られたので、二人協力して其治療に從事されて居つた、私は出發前學校で三回までも豫防注射を受けておいたから、かゝることがあつても矢張り氣が強くて何となく安心して居られる、他の船客中には取越苦勞をして隨分神經を痛めて居る人もあるらしい、霧は深いが波は至極隱かで全く池のやうだ、こん

なことばかりもなからうが、これならば太平洋の横斷も別に苦にはならない、十時ベツドに入る。

六月二十八日（金曜日）晴

六時二十分起床、大に寒さ加はりたれど霧なく波も靜かなり。朝食後、甲板を船首から船尾にかけて拾五回散歩し。キヤビンにて雜誌を讀む。十二時半晝食。

○無線電報

△東京發（二十七日）

○地中海派遣艦隊の擊沈したる敵潛航艇七隻と稱するは確實なり。

○昨夜地震強く甲府は水道破裂し東海道線に龜裂を生ず死傷なし。

△倫敦發（二十五日）

○二十三日伊軍道擊墺軍ビアヴェ左岸に擊退さる。

○墺内閣二十三日辭職に決す。

アラビア丸記事

○大正七年六月廿八日（正午の位置）

○北緯　四十一度十九分五十秒

○東經　百五十二度四分三十秒

○航走距離　三百哩

○横濱より　七百五十五哩

○ヴアンクーバーまで　三千六百三十哩

○パロメーター　二九、八三

○溫度　六十五度

○時計　二十三分進ます

船長　永田七郎

食後無線電信室に行つて、我が樟蔭高等女學校と昨日の五人組へと電報を發す、午後四時沐浴、船の風呂は海水を湯槽に入れて、スチームヒーターで暖めたものだが、上り湯として眞水の湯が少し計りだから一寸氣持ちがよくないけれども、長い航海の船中ではそんな贅澤は言へない。夕食後は凉しいと云ふよりも寒いので冬服を出して着換へた、用意のない人はトニカク大抵の人は昨晩あたりから冬服を使用して居つた。

今夜は八時から三等室で第一回の乘客慰安演藝會が開かれるので一等船客からも有志者が集めて一封の金子を包んでお客になつて見に行つた。俄作りとは言へ舞臺の立道具から花道まで一寸揃つて居る、出演者は多くはボーイ連中と水火夫等も混つて居る、中には隨分クロウトらしいのも居つた其プログラム左の如し。

一、涙　花　節（遊女お光）
二、劔　舞（殘月）
三、落　語（小便筒）
四、涙　花　節（水戸黄門と尼ヶ崎の孝女）
五、劔　舞（兒島高德飛入）
六、喜　劇（お父さんお休みよ）

これがはてたのが十一時過ぎ皆々腹をかゝへてキヤビンに歸りベツドに入る。

六月二十九日（土曜日）晴

今朝は昨夜の祟りで朝寢坊をして七時半起床、寒さが尙加はつたやうである、無理もない船はずん〳〵北に進んだ居るのだ朝食後サルンで書見に費し晝食後掲示場を見たが今日は無線電報は出て居ない。

アラビア丸記事
大正七年六月廿九日（正午の位置）
○北緯　四十三度三十七分三十秒
○東經　百五十七度五十八分
○航走距離　二百九十八哩
○横濱より　千三十六哩
○ヴアンクーバーまで　三千三百四十五哩
○バロメーター　二九、九八
○溫度　五十二度
○時計　二十一分進ます

船長　永田七郎

午後は私の室に三四人も集まつて來て無駄話で時間はたつてしまつた。夕食後は醫務室に行くと機關長も來て居られて雜談で花が咲き、葡萄酒やキヤンデーが出て尙更興に乘つて時のたつのも忘れて居つた。十一時ベツドに入る。

六月三十日（日曜日）晴

六時半起床、今日は水無月晦日大祓の日である、遙かに我が來し方に向つて、我が皇祖皇宗と家の神靈に對して默拜をなす、今年も早や半ば過ぎたわけだ、歳月流るゝが如しとは實に其通りである。朝食後は例によつて甲板を散歩した後書見に費す、正午になると船は靜かに推進機の音を止めて停止した、聞いて見るに機關に一寸故障が出來たとのこと、けれども午後二時半には修理が了つたと見えて勢よく進行を始めた、今日も無線電報は出てゐない。

アラビア丸記事
大正七年六月廿日（正午の位置）
○北緯　四十五度二十八分
○東經　百六十四度十二分
○航走距離　二百九十四哩
○横濱より　千三百三十哩
○ヴアンクーバーまで　三千〇四十五哩
○バロメーター　三〇、〇八
○溫度　五十一度
○時計　二十四分進ます

船長　永田七郎

三時のお茶がすんでから有志のものが集つて百人一首の骨牌とりが始まつた、デツキでは船員や乘客の有志者が擊劍を始めた、夕食の際今晩十二時限り日本への無線電報は中繼船を依賴しなくては音信が出來ないとの掲示が出たので、大阪の自宅にあて航海の平穩なることを通信した、夜になつても骨牌とりは盛であつたが十時半ベツドに入る。

七月一日（月曜日）晴

七時起床、今朝はうねりが大きいと見えて船が餘程動搖する、朝食後爲田君と二人共又もやベッドに這入る、晝食の時はキャビンボーイが無線電報と航海記事とを持つて來て、膳部も室に運んでくれた。本船は晝食だけは日本食だが今日は朔日を祝ふ意味か珍らしくもお壽司の御馳走だ。

無線電報

△東京發（廿八日）
○○○日歸國せらるゝ英國特使コンノート殿下の告別宴豐明殿に開かる。
○東京天氣晴れ暑し。
△北京發（廿八日）
○關稅改正案裁可さる。
△桑港發（廿九日）
○エカテリンブルグに幽閉中の前露國皇帝は過激派のため暗殺さる。
△倫敦發（廿六日）
○英首相ロイドジョージ氏は廿五日下院に於て演說して曰く現在の露國を救ふものは唯日本帝國あるのみと。

アラビア丸記事
○大正七年七月一日（正午の位置）
○北緯　四十七度十二分
○東經　百六十九度四十八分
○航走距離　二百五十五哩
○横濱より　千五百八十五哩
○ヴアンクーバーまで　二千七百九十哩
○バロメーター　三〇、一九
○溫度　四十五度
○時計　二十二分進ます

船長　永田七郎

午後はキャビンで雜誌を讀み夕食後はカルタとりの仲間に這入つて十時三十分ベッドに入る。

七月二日（火曜日）晴

七時起床、昨日の正午の溫度が四十五度で夕方になつて次第に寒さが加つたが、夜中に船室へスチームヒーターを通したので、窓近く寢て居つた私は、室内の暖かいのと窓外の寒い空氣と交換さるゝ爲めに感冒にかゝつたやうだつたが、例の如く朝食にも出て、午前中は高島平三郎先生から贈られた通俗心理奇問正答を讀む、無線電報は昨日限りで直接本船ではとれないそうで、最早掲示も出ないことになつた。

アラビア丸記事
○大正七年七月二日（正午の位置）
○北緯　四十八度三十分
○東經　百七十六度二十分
○航走距離　二百八十四哩
○横濱より　千八百六十九哩

○ヴアンクーバーまで　二千五百〇六哩
○バロメーター　三〇、一〇
○溫度　五十二度
○時計　三十分進ます

船長　永田七郎

午後も通俗心理を讀み、夕食後はサルンで雜誌に耽り十時ベッドに入る。

七月二日（火曜日）晴

昨夜の間に船は東經百八十度にあたる線を通過したので、毎日時間は航走の哩數に應じて時間を進めて居るけれども、今日も七月二日と勘定せねばならぬのである、午前中キヤビンで讀書す。

アラビア丸記事
○大正七年七月二日（正午位置）
○北緯　四十九度三十分
○西經　百七十六度三十六分
○航走距離　二百九十一哩
○横濱より　二千百六十哩
○ヴアンクーバーまで　二千二百十五哩
○バロメーター　二九、九八
○溫度　五十三度

船長　永田七郎

横濱出帆以來航走することゝに八日、一時間平均十三哩の速力として一晝夜には三百拾貳哩航走せねばならぬ筈であるが、一晝夜三百哩以上走つたのは廿七廿八日の兩日丈で、中には十二哩平均の貳百八十八哩に達しない日があるので、實は水田機關長に尋ねた處が其原因は全く石炭の質の良否によつて蒸氣の發生の模樣が異つて來るそうで、それがために船の速力に影響するとの話であつたが、經費の關係もあらうが、斯る長途の航海を續ける船舶にはより以上の石炭を供給したいものである。午後はサルンで筆を走らせ夜は九時にベッドに入る。

七月三日（水曜日）曇

昨夜就寢後少し發熱して、今朝は頭がふら〳〵する、多分スチームヒーターを室へ通した晩の感冒が原因であらうと思はれる、食慾もないので朝食をもとらずにベッドで靜養し、印牧ドクターから頓服劑を貰つて服用した、正午近く氣分もよくなつたが食堂は缺席し船室に運ばせて食べた。

アラビア丸記事
○大正七年七月三日（正午位置）
○北緯　四十九度五十五分
○西經　百六十八度四十五分
○航走距離　三百七哩
○横濱より　二千四百六十七哩
○ヴアンクーバーまで　千九百〇八哩

○バロメーター　三〇、〇一
○溫度　五十三度
○時計　三十分進ます

船長　永田七郎

午後もベッドの中で靜養、夕食も船室ですます、今日は午後から加奈陀及合衆國の太平洋海岸へは無線電報が通ずるとの掲示が出たとのことであつた、朝から濃霧が込めて居つたが海面は穩かでよかつた。

七月四日（木曜日）晴

今朝も眠が覺めて見ると餘熱のあることを感じたのでキヤビンで靜養、三食共に船室ですました。

アラビア丸記事
○大正七年七月四日（正午位置）
○北緯　四十九度二十五分
○西經　百六十一度三十一分三十秒
○航走距離　三百十七哩
○横濱より　二千七百八十四哩
○ヴアンクーバーまで　千五百九十一哩
○バロメーター　三〇、三一
○溫度　五十八度
○時計　二十八分進める

船長　永田七郎

午後三時頃左舷五百メートルの距りで本船と同方向に走る汽船を發見したが二十分計りで後へに見えなくなつた、あとから船員に聞くと三井物産の乾坤丸であると言つて居つた、今日は米國の獨立祭の當日なので、共れを祝すると云ふ意味で第二回の演藝會が夕食後催ふされたが、私はそこには出ないで靜養して居つたが、あたりの船室が靜かなのを幸として抵抗療法としてビール一本を飲み干し發汗を促し早くから眠つてしまつた、翌朝聞くと演藝會は第一回にも增して非常に盛であつたと云ふことであつた。

七月五日（金曜日）晴

今朝は熱も大方取れたようだが、豫後に注意して、ベッドで休む、併し九時過ぎに印牧ドクターが診察かた〳〵遊びに來てくれたので元氣づいで雜談でとう〳〵正午になつた。

アラビア丸記事
○大正七年七月五日
○北緯　四十九度二十七分三十秒
○西經　百五十四度
○航走距離　三百十六哩
○横濱より　三千百哩
○ヴアンクーバーまで　千二百七十五哩
○時間　三十分進める

船長　永田七郎

午後はヴアキオリニスト野口君と神戸太洋海運會社の歐米視察員たる蒔田君が遊びに來てくれた、晩餐後

は大溝君の室に行き雑談して十時ベッドに入る。

七月六日　（土曜日）　晴

七時起床、朝食は矢張りキャビンですましたが、殆んど氣分も恢復したので筆を走らす、晝食の時は食堂に行く。

アラビア丸記事
○大正七年七月六日　船長　永田七郎
○北緯　四十九度四十八分
○西經　百四十六度十三分
○航走距離　三百哩
○横濱より　三千三百九十九哩
○ヴアンクーバーまで　九百八十哩
○バロメーター　三〇、二〇
○溫度　五十二度
○時計　三十二分進ます

午後は雜誌など讀み夕食後は八時就寢。

七月七日　（日曜日）　晴

七時起床、今日は所謂全快らしい、食堂に出で朝食を了り、東京高工飯塚君より惠まれた同君最近の著書、「現今に於ける體育上の諸問題」を讀む。

アラビア丸記事
○大正七年七月七日（正午位置）　船長　永田七郎
○北緯　四十九度四十二分
○西經　百三十九度〇二分
○航走距離　二百七十九哩
○横濱より　三千六百七十八哩
○ヴアンクーバーまで　七百一哩
○時計　三十分進ます

晝食後にシイヤートル上陸の際各自の携帶品を一々稅關官吏が檢査するので大體の品目價格等を調べてくれと事務長から言つて來たので、トランクを出させて一應調べた上、一定の用紙に記入して出した、夕食後はサルンで雜談九時三十分就眠。

七月八日　（月曜日）　晴

七時起床、朝食後は筆を走らす。

アラビア丸記事
○大正七年七月八日（正午位置）
○北緯　四十九度三十五分
○西經　百三十一度四十七分
○航走距離　二百八十四哩

○横濱より　二千九百六十二哩
○ヴアンクーバーまで　四百十七哩
○時計　三十分進ます

船長　永田七郎

朝から霧が少しはか〳〵つて居つたが追々と晴れて來て日本出發以來始めて珍らしい快晴になり從つて大層暖かくなつた、午後二時水田機關長の好意によつて、爲田君と共に船長室の前で記念の撮寫した、餘り天氣がよいのでバスボーイを呼んで理髪して湯に這入つた、夕食後蒔田君の發起で山崎、阿部、大溝、原澤、藤田、河野の諸君とサロンで懇飲會を催ふした、中には隨分酒豪も居つたので、正宗、ビール、ウヰスキー、ブランデイー、シエリー、シヤンペンと仲々振つた、十時半就眠。

アラビア丸船上にて

七月九日　（火曜日）　晴

七時起床、朝食後甲板に出る濃霧はあるが、ドウも運動不足なので船首から船尾へと幾回となく歩きまはつたので氣分は晴々したが、正午になると霧は益々深くなつて咫尺を辨ぜずとでも形容すべき模樣で太陽の位置さへわからないのでとう〳〵船は停船して了つた、午後三時頃にやう〳〵大陸の一角なる高さ二千五百呎位な山が霧の隙間から一寸見えたが之もほんの二三分間で後は全く又かくれてしまつた、止むを得ず霧の晴れるまで假泊することになつた、船長室で海圖を見ると、此處はJuan de Bucastroit 灣即ちヴイクトリヤ、ヴアンクーバー、シイヤートル、タコマ、へ通ずる灣の入口で山は慥かに Vancubre Island にあるHouse Cone 2500Fと云ふのだらうとのことであつた、後から矢張り夫れであつたと聞いた。

アラビア丸記事
○大正七年七月九日
○北緯　濃霧のため太陽の位置が正確に測定し得ないので自然緯度も經度
○西經　Unknown　も知れない
○航走距離　二百九十四哩
○時計　四十八分進める

船長　永田七郎

夕食後は一等船客全部（男女子供も）サルンで訣別の茶話會を開いた發起人總代で山崎君が開會の趣旨を述べる、次いで私は動議を出して各自の姓名、職業、渡米の目的を起立して述べることにしたが三十餘名の乘客は夫れ〳〵各種の方面に進む人々で仲々興味があつた、散解ベッドに入る。

七月十日　（水曜日）　晴

ヴアンクーバー入港

眼が覺めると船は進行して居る、昨夜の十二時頃霧が少々晴れて針路が知れたので進行し始めたところであつた、しかし六時にボーイから起されて、衣服を改めて出て見ると、風光の全く變つた針葉樹の森、先き〳〵に白壁赤屋根と云ふ家もちよこ〳〵見える、船は英領ウヰリアムヘツドに停船した、間もなく英國の檢閲醫が、ランチでやつて來て全部に渡つての身體檢査があつたが、一等船客や高級船員はたゞ人員を調べて顏を見たゞけで終へたが、三等の方は脈搏を檢査なんかしておつたが、三十分計りで終つた、七時半船は進行を起し、三十分にしてヴヰクトリア港の前面に來ると、ユニオンジヤツクの英國旗を立てたランチで水先案内が乘り込み船は次第〳〵に灣内に進む。

アラビア丸記事

○大正七年七月十日　　四十八度五十一分
○北緯　　百二十五度〇四分
○西經
○航走距離　　七十一哩
○ヴアンクーバーまで　　四十九哩

船長　永田七郎

晝食後、海は瀬戸内海を太きくしたやうな、ワシントンサウンドを通過しつゝ進む午後一時半頃鮭の漁場として日本人が多數之に從業して居ることゝによつて有名なフレザーリバーの河口に近く通り、同二時半ボートグレー（ヴアンクーバー太學は此の岬の丘上に建築されつゝありき）を右に見て三時四十分船は無事ヴアンクーバーのキヤナダ、パシヒヰツクレールエーコンパニーの棧橋に一萬噸の雄姿を横附にした、直ぐ様此處で上陸する三等船客の檢疫が甲板で開始されたが、棧橋の向ふ側には在留日本人が追々と集つて來るヴアンクーバーの有史以來日本の船で船客を乘せたまゝ、此處に入港したのは、このアラビア丸が嚆矢ださうで（今まではキヤナダに上陸するものは全部ヴヰクトリア港で上陸させたものださうな）ある、かく本船が乘客を此の港へ上陸さす事の出來るのも歐洲大戰の結果太平洋上の航海權を吾が日本帝國の船舶が獨占して居る證據であつて、更に此の港内にも十數艘の汽船は碇泊しておるが皆千噸内外の船かそれ以下の小さい船ばかりで所謂阜頭を壓するとでも言ふべき勢なので從つて大に肩身を廣く感ずるのであつた、尙此に特筆すべき事柄は從來話にも聞き、數多の渡米記行でも承知して居つたが、吾が移民の上に流行して居る寫眞結婚なるものを、今日は眼の前に其實際を見ることが出來たことである、乘船以來隨分不作法にも浴衣掛けの細帶姿で後甲板に出て、いつもだらしのない風采を見せつけて居つた三等の女船客中此處に上陸するものは、今日の午後は今までと打つて變つた、隨分こつたお化粧をして今日を晴れと着飾つて日本服に女學生用の袴を着けたもの、或は日本仕立の不恰好な洋服をつけてハイカツて居るもの、特に振つて居るのは紋服の重ね着に胸高々と巾廣の帶を結びながら、踵の高い編上靴を履いて居るなど、種々樣々の容姿で甲板に上つて來て懷中からは寫眞を取り出して、（今日からハスバントになる人の）そつと見て居るのがある、棧橋には新妻を迎ふべくやつて來たお婿さんも檢疫の終るのを待つて居る間に矢張り今日から

吾が妻となるべき人の寫眞を取り出して見て居る、やがて檢疫も終つて愈〻上陸する段になると、花嫁は甲板から花婿は棧橋からお互に寫眞をたよりに各々其目的の人の顏を見出すべく上から下、下から上と眺めやつて都合よくさがしあて〻視線が一つに觸れたものは男女ともに紅いに顏を染めて何となく面耻づかしい風情をして居るのも見える、斯る光景は日本では一寸見られない圖であるが、夫れを料金も出さずに關係のないものは見て居るのである、やがて又出迎ひの仲介人らしい人、或は花嫁を託されて同船して來た人などが、一々花婿と花嫁を紹介して中には其場ですぐにセイキングハンドをさして居るのもある、又花婿は甲斐々々しく花嫁の手荷物等を整理して自動車に同乘して出て行くものもある、荷物を運送屋に賴んで歩いて出て行くものもあつたが、果して彼等が等しく將來互に相扶助して圓滿なる家庭を作り偕老同穴の契りを全くするものとせば可なるも、之は大に研究の餘地ある問題であると思つた。

船が棧橋につくと一等船客は隨意上陸が出來て見物にでも出かけられるものと思つて、夫れ〴〵外出の仕度をして居つたが、何等の音沙汰もしないので不審を懷いて居ると永田船長と武山事務長が陸から歸つて來て「實は一等船客の方々は隨意上陸の差支ないものと思つて居りましたが、只今稅關なり移民局の意見として船長以下高級船員の外は一名も上陸を許可せぬと申しますので百方其理由を尋ね抗議を申立てましたけれどもドウしても許可しませぬから誠に御氣の毒ですが云々」と言はれて折角十八日振りで土を踏み諸方の觀光をと目論見して居つたのに泣寢入りをしなければならぬ破目になつてしまつた、一般乘客の旅行券には單に北米合衆國と記入されてあるのだが、蒔田君と私は英領加奈陀へも入國する樣出願したのと、殊に神戸駐在英國領事の「サイン」まで濟んで居るのだから明朝を待つて稅關や移民局へ交渉したらば上陸は出來るだらうとのことであつたが、皆の人が上陸の出來ないのに例令旅券には書き入れられてあつても吾々二人丈け上陸し得らるゝとなると、他の人々に氣の毒な感じがするので其運動は思ひ止ることにして、夕食を了へて甲板上からヴアンクーバー市街の夜景を眺め荷役をして居る白人仲仕の働き振り等を批評などして十時ベツドに這入つたが、荷役は徹夜でやるらしいので、機械の言が高くて熟睡することも出來なかつた。

七月十一日（木曜日）晴　ヴアンクーバー上陸

一夜熟睡の出來なかつたので朝方になつて一と眠りしたらしい、ボーイに起されて八時前にベツドを離れ、朝食を終り吾が敎え子吉川ハマ子孃より當市在住の令兄にあて〻託された寫眞の包みも、上陸が出來ないとすると手渡し難いので郵便物として水谷機關長が上陸されるのに依賴して出して貰つた。同氏は一時間ばかりで歸船されてお土產にキヤンタロープを買つて來て貰つて機關長室で御馳走になつた、初めて食べるのと長い船中生活で新鮮な果物に餓えて居つたので非常に美味を感じた、正午晝食になると、今朝から船長が其筋の人々に向つて更に抗議を申込んで呉れた爲め、上陸を許可すると云ふことになつたので、昨日の夕方から意氣消沈して居つた一等船客全體は、俄かに活氣づいて食後各自は急いで上陸することに

なつた。私は印牧ドクターを案内役に頼み大溝啓三郎君と共に上陸し久しく期待して居つた米大陸の一角に足を印したわけであつた、市の西方海岸に近きスタンレーパークを見物して其設計の自然的に而も擴大なるに驚き、後日本人町を散歩し、日本人會事務所を訪問して同會の書記引田君の案内で吉川龜太郎君の寓する松宮商會を訪ね、此の附近の街上で上陸記念の撮寫をなし一應歸船して夕食を了る、食後再び市内の觀光に出かけんと棧橋に下りると、そこへ吉川君と同君の從兄弟にあたる能勢君とが自動車を以て迎ひに來てくれたので之に搭乘して再びスタンレーパークの全部をドライブして有名なるビツクツリー(大樹)の切株を見、市の公設海水浴場を見、更に市の住宅區域の方面に至り其庭園の設備の美麗なるを眺め、廣大なる製材工場の夥だしく設けられたるを見て驚きつゝ八時三十分松宮邸に行きて休憩茶菓の饗を受け、十一時兩君に送られて歸船す、本日在ヴアンクーバー邦字新聞たる大陸日報はアラビア丸の入港と乘客上陸の記事を詳細に記載して共に我が帝國の發展を賀し在米同胞の一層奮鬪努力するやう論及して居つた、十二時ベツドに入りしも荷役の騒音に遮られて熟睡の出來ぬこと昨夜に同じ。

七月十二日　（金曜日）　晴　ヴンクーバー出港

六時三十分ボーイに呼び起されて急ぎ身仕度してキヤビンに出る、今朝シイヤートルに向つて出帆する爲めに又もや移民官の人員檢査があつた、これは碇泊中に移民官の眼を掠めて無斷入國せしものなきや、下級船員にして逃亡上陸せしものなきやを調査する爲めであるそうだ、檢査は簡單に終り、八時船は徐かに棧橋を離れて港口に向つた、此の灣口は名高い狹き水道なれども熟練なる水先案内と運轉士の手腕により一萬餘噸の巨船も無事通過して西南に向つて速力を早やめる、八時半朝食、九時よりキヤビンにて一等船客以下上陸者全部に對し移民官は個人的に調査を開始した、移民官は白髮巨幹の老人で副官とも見るべき一青年白人と、移民局囑託の邦人通譯一名とで船の方からは事務長と上席の書記とが一方に席を取り、乘客は一人ヅツ其前に倚け先づパスポート即ち旅券を示して姓名年齢入國の目的携帶の旅費額、例令ば學生及視察者等ならば其出資者等に關して詳細に調べ、更に或る人については其教育の程度をも見、例令ば假名交り文を讀ませ假名文を讀ませ或は假名文の意味を動作に現はして答へしむる等なかなか念の入つたものであるが、私に對しては「年齢、渡米の目的、視察費の出處と最後に金を幾何携帶して居るかと聞いたから、千弗餘り持つて居るから見せやうかと言ふと、オーライトの一言で終りになつて至極簡單であつた、十一時甲板に上ると、日

ヴアンクーバー日本町にて

ヴアンクーバー出港

本の瀬戸内海の風光を大きくした様な、太平洋海岸に於て尤も島嶼の多い美しい靜かな海を我が「アラビア丸」は南東に向つて馳つて居る、先日撮つた乘船記念の寫眞が出來て印牧ドクターが持つて來てくれられる、晝食後も甲板を散歩などして遊ぶ、午後四時船は「ポートタウンセンド」に着して米國檢疫醫の調べがあつたが一等船客は前述の通、頭數丈けを顎で數える丈けで終る、三等船客は一人〳〵トラホームの有無などを調べておつたのでとう〳〵五時半まで停船して居つた、此處から船首を東にしシイヤートルに向つて進行しはじめた、行く手遙かに大陸の雲表に巍然として白皚々たる雄姿を顯はせるものは、在留邦人の口にタコマ富士と名づけられたる、我が富士山よりも高きこと二千呎の「マウント、レニア」(Mt. RAINIER)である、曩に祖國を出發するに際して東海線通過の節は我が秀峯の富士に送られ、今亦北米の地に足跡を印せんとする今日タコマ富士に迎えらるゝとは、何といふ幸福なことであらう、滯在滿八ヶ月の米國視察の旅行は慥かに何等の障碍なく、吾が希望のまゝに遂行し得らるゝと云ふ前兆とも思はれ一種欣然たる情の起るを覺えた。船の進行するに從ひシヤートル市街は眼前に展開し來り彼の沙港第一の建築物たる四拾二階の「ホワイトビルディング」を初めとして次第〳〵に鮮明となり、行く手左方の棧橋には日章旗を風に翻々として碇泊せる巨船四五艘あり何となく心強さを感ず、午後八時三十分船は港内深く入りシツキスペエア(第六號棧橋)の前に到りしも先着船アフリカ丸の入渠せるため更に細き港内を徐行して「コールマンドツグ」に着船し繫留されたのが丁度九時であつた、米國は戰爭に參加してから時間を一時間進めて太陽の光りを利用して居るので九時とはいへど實は八時なので殊に夏期で日の長い時であるから未だ日沒の感じもしない、今日は朝から移民官檢疫醫双方の檢査は共に終つて居るのだから直ぐにも上陸が出來ると思つたが、米國海軍から船舶監視の兵が來ないので上陸は不可能とあつて折角目的地に着きながら更に此の一夜は長らくの航海に慣れたルームで寢なければならなくなつた、着船と同時に棧橋へは多數の我が同胞の出迎人が集まつて來て居つたが、上陸が出來ぬと聞いて啞然として散じてしまつてあとは靜かになつた十一時就眠。

七月十三日（土曜日）晴　シイヤートル上陸

今日はいよ〳〵上陸が出來る、六時起床身仕度そこ〳〵最後の日本食で朝餐をすまし、甲板に出ると棧橋の入口には多數の在留邦人が出迎えの爲め集まつて來て居る、一方船では寫眞結婚の連中が盛裝して一昨日ヴアンクーバーであつた通りの光景を演出して居る、九時やう〳〵護衞の海軍兵が來たので永田船長以下高級海員の中交誼、を受けた方々に對し私個人としての禮を述べ、手荷物を纏めて船より下り此處に出張せる稅關官吏の前で、トランクもスーツケースもすつかり開いて見せたが、私は唯旅行に必要な品物丈けしか持つて居なかつたから直ぐに檢査は終りホテルのボーイに荷物の運送を賴んで外に出た、豫て日本出發以前から紹介されてあつた池安治君（同君の令閨は夕陽丘出身田中晴埜田中たまぢ兩嬢の姉さんにあたる）が態々出迎えてくれられ、共に自動車で日本人經營のNPホテルに投宿四百四號室に落付く、小憩

の上池君の宅に招かれ令閨と今年三歳の可愛い坊ちやんとに迎えられ、思ひがけぬ日本料理で晝食の饗應をうけ、大阪方面の噺などして樂しく半日を休養し、夕方池君の案内で籬君の宅に行く同君は去る四月商用で歸阪されて居つた際一度面接してシイヤートルの事情を聞いたことがある、尙今回同乘した大溝君の令兄の宅にもより池君と別れ、一度ホテルに歸つて同船者で同じホテルに止宿した原澤君親子、爲田、野口、大溝、阿部、南方、藤田君夫妻に大溝君の令兄夫妻と私と丁度十二人、近くの支那料理に行き晩餐を共にし無事の上陸を祝し十一時ホテルに歸り、久方ぶりに眞水の湯で一浴の上ベツトに入る。

七月十四日　（日曜日）　晴

七時起床、昨夜は實に心地よく熟睡が出來て今朝は心も身も何となくすが〳〵しい、學校を始め自宅其他へ無事上陸を報ずる葉書を認め出す、十一時池君が迎ひに來られ日本料理亭「まねき」に伴はれて晝食を了り更

シイヤートル市街上給水栓人と馬

に同君の宅に行き令閨と籬君とに案内されて電車でウードランドパークに行き、先づ動物園を一巡し幸ひベースボールのマツチのありし故一時間計りも夫れを見て五時半歸宿、七時原澤君親子と爲田野口の二君が市俄古へ出發するのをNP停車場に見送り、籬君の案内にて支那料理屋にて夕食、更に同君に伴はれて同市第一流の活動寫眞小屋に入り十時半まで諸種の演藝を觀、途中籬君に好意を謝してわかれ十一時ホテルに歸り一浴して就眠。

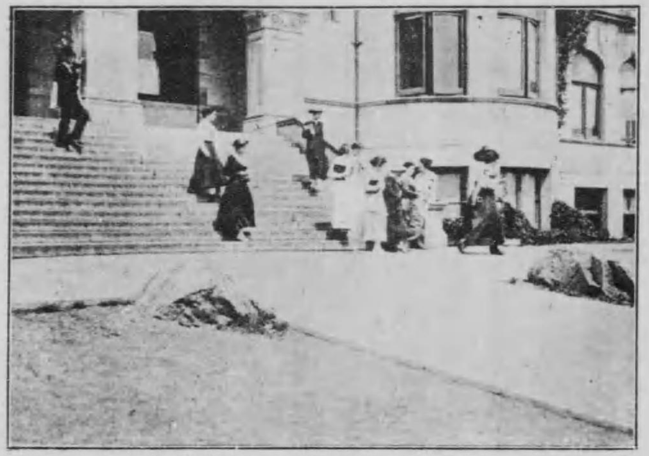
七月十五日　（月曜日）　晴

七時起床、トランクの中の洋服類を出してプレツシングに出し葉書など認む、正午前池君の宅を訪ね豐倉君を紹介された（同君は大阪出身にて池君と協同して現に商業を營める人）晝食後池君夫妻の案内で、一昨日入港の日海上遠くから眺められた當市の一名物四十二階のホワイトビルディングを見るべく出かけた、一定の觀覽料を拂つてエレベーターで靜かに昇つて其塔上から市街は眼下に眺められ、遠方近方の風景は大きなるパノラマの如く、身は四十二階の塔上に立つて居ると云ふことさへ忘れさせるやうであつた、次いで日本人經營の靑物魚類等の販賣店のある即ちマーケットを見て日本人の發展を賞し、海岸に出でて日本より移民せられた連中が一時收容せらるゝと云ふ其建物を外部から望見したが、煉瓦作りの四層なれども窓の面積は小さくて夫れに鐵の頑丈な格子が入れて逃亡を防ぎ一見精神病院か監獄の樣な感じがして我が日本民族が大に侮辱されて居るのを見て獨り腹立たしくなるを禁じ得なかつた、夫れより籬君と原某

氏とが加はり自動車にて夕方より市のパーク廻りを爲す、最初行つたのが州立ワシントン大學であつた、此處は嘗て沙都博覽會の開催せられた跡を利用したので其當時の遺物が今に殘つて居る、其有名なものは此の州に產した大木を丸太の儘で建築した建物で此の方面の天然の產物を蒐集陳列され、今は此の大學の所轄になつて居るのである、今日は時間が遲いので觀覽は出來なかつたが此の附近を散步し、更にレーキワシントンに沿ふて設けられたる大小の公園を視八時三十分市內に歸り、日本料理店㊋にて一同夕食を共にし一行とわかれ現に我が樟蔭の專攻科在學の北野ふみ子孃の叔父に當らるゝ柳生力藏君を其店舖に訪ふ、同君は永年此の地に在留三笠商會と云ふ藥店即ちドラックストアを獨立して經營して居られる、初對面の挨拶を交換し大阪や同君の出身地奈良方面のお噺などして十一時まで遊び歸宿一浴して就眠。

七月十六日（火曜日）晴　ワシントン大學參觀

六時半起床、近くのカフエーにて朝食を了る、昨夜訪問した柳生君から電話がかゝる、同君の友人にて目下ポートランド齒科專門學校在學中で此のサンマービケーションの間同君の宅に寓居せらるゝ白田君を煩はしワシントン大學參觀の案內をせしめんとのことであつた、間もなく白田君が態々ホテルまで迎えに來られ直ちに同伴して九時半同大學の事務所に行き夏期講習（サンマーコース）の時間表を貰ひ參觀の許可を與へられて吾が目的とする「ジムナジユム」體操教室に行く、丁度今授業中らしいので遠慮して暫く待つ、其間を利用して其傍にある戶外の大運動場即ち「スタヂアム」を見る、周圍の觀覽席は木造の粗末な建物であるけれども、人員を多く收容し得る事と、各種の競技を行ふには充分なる設備がしてある、やがて休憩時間になつたので教官ミス、ロングに刺を通じ、同女史のフオークダンスと普通教室に於て行ふ教育的體操と二時間參觀し。更に男教官ミスター・マーリツクのボーレーボールの指導を一時間參觀し兩教官と私の三人を此處の入口で白田君が撮寫してくれた、これで晝食時間になつたので辭して大學の構外に出て晝食を了り前述自然木を以て建られたる博物館に入り北米の天產物と、「アメリカンインデイアン」の往時に於ける生活狀態等の模型等を見て館外に出づ、此附近の大學の建物は大學の休暇中陸軍が借り受けて殆んど兵士の臨時宿舍即ちキヤンプに利用されて居る、今は晝食後の休憩時間と見えて廣い芝生の上には多數の兵士が遊んで居つて午後の操練の始まるのを待つて居るのらしい、私共も何心なく其處に近づいて頑丈な一兵士の把つて居る銃を熟視して居ると、持つて

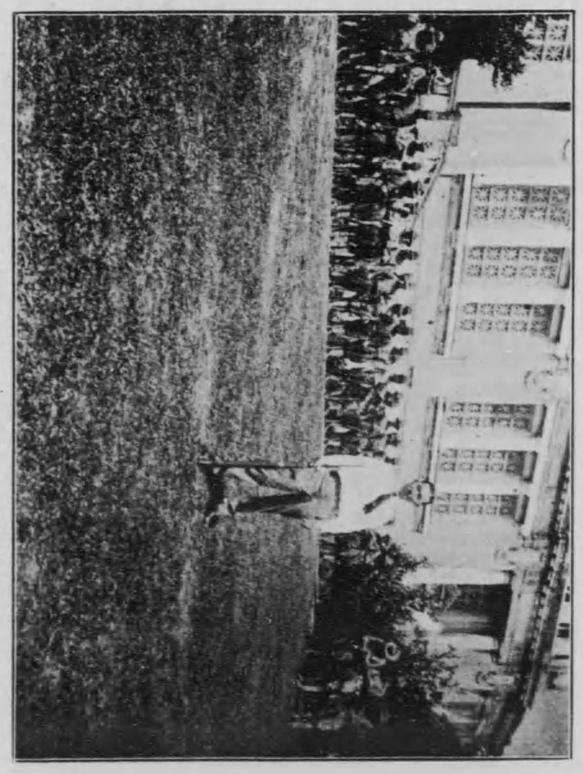


ワシントン大學參觀

シヤイヤートルワシントン大學

見よと言はぬ計りに銃を私に差し附けたので私は直ぐに把つて提げて見た案外重くはない、そこで日本流の「荷へ銃」や「立て銃」をやつて見たりして居ると、其間に近傍の兵士が十四五人も私の周圍に集つて來た、其中年輩四十恰好で溫厚らしい一士官が、君は日本人か陸軍に居つたことがあるかと聞いたらしい、白田君が通譯して私に聞かせてくれる、私は師範學校出身であるから日本の法律で陸軍では僅かに六週間の現役にしか服さなかつたと言ふと、一つ日本に於ける銃を持つての諸運動を皆の兵士に見せてくれと云ふ、私も一通りは心得て居るが、多年女子の體育方面に從事して居るので直接平素はやつて居ないから、まづくてもよければやつてもよい、と言ふと、是非にと勸めるので、私も夫れでは一通りやるから、其後で兵士にも私のやつた動作を一通りさせて見せてくれと要求した處が「オールライト」との返事だ、そこで私も帽子と上衣

シイヤートルワシントン大學女子部體育主任ミス・ロング



念記しせ見々法操の銃式本日に兵陸米てに內構學大ルトヤイシ

と「チョツキ」も脱いで身仕度をすると、其士官は呼子の笛を一聲高くふいて兵士を二列横隊に集合させたので其中央の前面で、不動の姿勢「荷へ銃」「立て銃」「棒げ銃」「附け劍」「執銃の行進停止」「立射の構へ」「膝立の構へ」「伏射の構へ」等を白田君の通譯で一と通りやつて見た、見物の兵士共は一動作の終る毎に拍手して居る、白田君は氣をきかして私が銃を持つて立つて居る處を中隊の兵士の列をバツクとして記念の寫眞を撮つてくれた、やがて私は服をつけ帽子をとると中隊長は中々技術が確實で機敏だと言つて褒めて最後に「サンキューベリーマツチ」と來る、今度は隊長自ら號令をかけ前約通り私のやつた事丈一と通り見せてくれて後ち何か批評はないかと聞いたので、大に賞賛してやらうかと思つたが、いや待て〳〵一本痛棒を進呈して置うと思つて、第一アツテンション即ち氣を着けと云ふ號令をかけた時、大體に於て兵士全體の姿勢も出來て居つたが、中には彈藥盒をイヂツて居るもの、帽子をイヂツて居るもの、後を向いて唾を吐いたもの、ハンカチーフをポケツトから出して顏をふいたものがあつたから、我が日本の軍隊では斯る醜事は見ようと思つても見られない、假にかゝる擧動をなさゞるのみならず、一點に注目して眼さえも他に轉じない丈け能く注意して居る、私も此の兵士に比較すれば第一身體は小さくて丈けも短く殊に腕力等に於ても非常に劣つて居るが、其頑强な兵士がやる動作は隨分のろくて、渾身の勇氣が這入つて居ないやうに見受けた、我が日本軍隊の强いと云ふ點は、即ち此精神が萬事に集中せらるゝからで之が所謂日本魂の根源をなして居るのだと言ふと、其士官はアイシーアイシーと感心して此の兵士は入隊後僅かに二週間し

か訓練しないから未だ充分出來ないと云つて居つたが、兎に角私にとつては米國視察中の面白い記念すべき出來事の一つであつたと思ふ。

午後二時より電車にて一度市内に歸り、更にシヤートル市立海水浴場たる The Alki Beach Municipal Bath House に行き一般市民の游泳せる狀を視、更に刺を通じて浴場の建物の内部の參觀を乞ふた、都合よく主任の男が出て來て親切に案内しつゝ説明してくれた、之によれば一般市民は此處の開かるゝ夏期になれば誰れでも無料で入場を許すとのことで、先づ入口を這入つて右方は女、男は左方の室に入り水泳服一組と一枚のタオルを請取り脱衣場に入りて此處に設けられたる鐵製金網作りの衣納箱（巾一尺二寸奥行一尺五寸高サ二尺五寸位のものが上下二個重ねてある）に自己の衣類を納め錠を下ろして其錠を保管者に預けて後、隨意濱に出て水泳を行ひ、終りたるものは水浴場に來りて水泳服を脱ぎシヤワーバス（上方及左右より噴霧の如く水の出る裝置）にて任意身體の鹽分を洗ひタオルにて身體を拭き濡れたる水泳服は一定の場所に置かれたる籠の中に入れ、鍵を請取りて衣服を衣納箱より出して之を着用し場を出るといふ實に巧みに設備さる、而して濡れたる水泳服は別棟に設けられたる洗濯場に送られ二百組づつ淡水槽に入れて器械力によりて鹽分を洗ひ、更に漉器の中に移さるれば電氣の力を以て其漉器は廻轉を始めて五分間にして充分其水分を散出せしめ、次はボイラーより高度の熱氣を運べる乾燥室に送られて十五分間にして其乾燥を終ると云ふ便利なる設備を有せるに驚けり、海邊をしばし散歩の後午後七時日本人町に歸り旗亭まねきにて夕食の饗を受け、柳生君を訪問して今日の好意を謝しホテルNPに歸れば、池君來訪し居り共に十一時すぎまで雜談の上一浴して就眠。

七月十七日（水曜日）晴

六時半起床、桑港住友銀行の東義一君から來書海上恙なく上陸したと云ふ祝詞と當シイヤートルの住友支店長に宛てたる紹介狀を送つてくれた、朝食後、大溝阿部の二君が來られて雜談す、十一時鈴木齒科醫院に白田君を訪ひ昨日の謝辭を述べ、共に晝食の後同君の案内にてセントラルビルディングの三階にある帝國領事館に松永領事を訪ふ、此の頃は午前中丈けの執務の由にて明日再び來る事として其階下なる住友銀行に立寄り支店長名村豐太郎君に遇ひ談數刻啓發さるゝ點が多かつた、歸途歐文名刺の印刷が出來て居つたので請取りて歸り夕食後柳生君を訪ね十時歸宿、先きの日ヴアンクーバーにて撮りし寫眞が着したので大溝君と之を分ち印牧ドクターには郵便で出すことにした、十一時就眠。

七月十八日（木曜日）晴　ハイスクール見學

七時起床、朝食後、領事館に行き松永領事に遇ひ政務局長小幡氏よりの紹介狀を渡し一時間計りも當市の教育狀況及北米在留日本人の現在狀態等につき聽聞の後、同一ビルディング内にあるシイヤートル市教育課に伴はれ課長ミスター、クーバー氏を訪ね、私の希望せる當市のハイスクール中尤も設備の完全なる學校の案内を乞ふと、本日午後二時更に來てくれとの返事を得て、此處を辭し階下の住友銀行に至り名村君と夕

ウンに出でレストラントに入り晝餐の饗を受け午後二時再び領事館に昇り館員中尾長藏氏とともに教育課に至り同課のセクレタリー、ミスター、コール君の案内にて課の自動車にてブロードウエイーに行く、最も休み中で授業はないのであるが、一教員の案内で、最初講堂に入る全部石造の大建築であるが内部は普通の教室と同じ樣に鐵製の机腰掛が階下に千八百名分を整然と備え更に三方の階上には尙一千名を容るに足る坐席を設けられたり、我が日本に於ける一般普通の講堂は單に腰掛のみを備え且つ多く階上を利用せざれども、此處は階上を利用せると机までも備えらるゝ故に全校生徒に對し同時に講義を爲す場合等には大なる便宜を得るものと思惟せらる、次にジムナジアムに入る、面積は普通の廣さなれども、据えつけられたる體操器械は堅牢且つ美麗にして、其種類も多く、私にとりては垂涎三千丈たらざるを得ず、今日我が邦にて例令費用を相當に支出するも到底之れ丈けの器具を調達するとは困難にして矢張尙米國より直接輸入を仰がざるべからざるものと思へば吾が國の現在及將來を樂觀すべからざる念の深きを覺ゆ、尙此れに附屬せる更衣室と「シヤワーバス」の設備を見ては之亦日本に於て未だ一ケ所も其設備なきを以て見ればたゞ驚き羨望せざるを得ず、其設備の大體は三方大理石板を以て圍める小浴場百十人分を有し各一方のみは入口に幕を垂れて內部を外部より伺ひ得ざらしめ、氣候によりて、冷溫何れの水にても隨時使用さるゝ樣備へられたり、次いで裁縫教室割烹室洗濯教室等を參觀せしが、裁縫は平素ソーウイングミシンを使用するが本體なる此の國のことゝて一教室約四十台を備へあり、洗濯室は前述市設水泳場の乾燥室と同一の裝置を取り、割烹室は其方法瓦斯使用の形式なるが故に、吾が樟蔭女學校の如く割烹の仕事を全部電氣裝置にて行ふに比すれば物質的文明の世界一と誇れる此の國の而も比較的新らしき此の學校に於て、瓦斯を使用せる所を見れば何となく一世記後れ居る觀ありて心窃かに吾が校の設備の新らしきを誇らざるを得ないのであつたが、しかし共同作業の制を採らずして各個人にて其方法を實習する設備のありしは、悅ばしく感ぜられた、次いで普通教室を一覽したが塗板は大抵壁面を利用する方法を採つてあつたし、机腰掛は講堂同樣鐵製を使用してあつた、最後にタイプライター教室に行つたが、一教室七十餘臺を据えてあつたのを視ては、此の國で如何に此の器が實用的に使用されて居るかを證するものと感じた、當直教員より同年度卒業生の作つた記念帳一冊を貰つて辭し此の學校の運動場を兼ねて作つてある、すぐ近傍のリンカーンパークに立寄りプレーグラウンドとしての設備を視、市の教育課まで送られてミスター、クーパーとわかれ中尾君とNPホテルに歸り平出氏を紹介された、明朝當市在留日本人兒童の爲めに設けある國語學校に同氏によりて案内を受くることを約す、沐浴の上チヤプシーに行きて夕食、歸宿後大溝君來訪十一時就眠。

七月十九日　（金曜日）晴　シイヤートル日本人國語學校

七時起床、カツフエーにて朝食、平出君の店に行く同店の支配人高橋君は自ら自動車をドライブして國語學校に着、校長高畑君に會ひ、東京東洋家政女學校長岸邊福雄君からの紹介狀を渡し、同校の一般狀況と在留日本人の教育程度等につき聽聞、第二時より一時間に各教室を一巡して參觀した、生徒の組別は米國

の小學校に通學して居るグランマースクールの一年生より八年生までと、夫れを終りたるもの即補習科風の組と更に本年九月の新學期よりグランマースクールへ入學するものゝ爲めに豫備的知識を授くる組とよりなり、日本の小學校よりも餘程複雜の樣に見えた、教科書は主として日本の小學校で使用せる國語讀本を用ひ所謂國語を主として教授するのであるが、日本で生れて多少祖國の事情を知るものは兎も角、米國に生れて此處に育ち全く日本の事情を知らないものも半數以上ある由なれば、此れ等については讀本によりて單に國語を教ゆる外に、萬般の事情を教授する必要があるので教師の勞も亦多大であると察せられた、特に高畠校長の談なりしが、兒童は多く家庭にありても白人の子供と共に遊戯交際せる爲め英語は知らず識らず上達して米國の學校でも成績は白人に比して劣る樣の事はないに引き換へ、國語の修得即ち漢字を學習する事は英語の學習に比し數倍の努力を爲しつゝあるも其成

シイヤートル在留日本人國語學校

績は遙かに劣れるを見る、一つの例としてある簡單な昔噺も英語にては仲々巧に噺し得るも、日本語にては冒葉の使用法を誤るのみならず作文にしても、英作文は相等なる文章を綴り得るも、日本語にては充分其意義を書き現はすと能はざるが如く、此に於て我が國語が學習上如何に困難なるものなるかを證するものにして本問題は啻に殖民地の教育上のみならず、我が國一般教育の上に於ける重大なる問題なれば如何にして之を將來改良すべきか云々と言ふことであつたが、慥に實際問題として首肯せざるを得ざらしめた、教室内に於ける生徒學習の態度は日本の夫れに比して嚴格ならず、隨つて何となく躾方の拙劣なるが如きもこれ米國に於ける一般學校の狀況らしく、教師も生徒も或る程度迄は自由を束縛せぬと云ふ點に歸するが如く見えたり、門前にて生徒の自由に遊戯せるを撮寫し辭して歸宿、晝食後池君に伴はれて正午シイヤートル發の電車でタコマ市に行く、先づ同地岡丸商店に立寄り、先日同船して來た此處の店員河野君を訪ね、更に同君の案内で大阪商船の支店に行き樋口支店長に面會した、其序にマウントレニア登山に就き其模樣を質問せし處、同支店長の好意により目下同港碇泊中のアラビア及アフリカ兩船の高級船員の登山計畫あれば、其一行の中へ加入されてはとの事にて幸ひ來店せられし山本アフリカ丸船長にも紹介された、明日午後を約して支店を出で河野君ともわかれて池君と共に電車にてタコマ市より南方拾哩計りの郊外に設立されてある當地の兵營を視に行つた六哩計りは市街電車が利用されたが、終點から先きは坦々たる砥の如き自動車道を二人して歩む、此處を通行するものは我々二人の外は無論全部白人で而も夫れが一人と

して徒歩して居るものはない、悉皆自動車で通行するものばかり其中を急ぎ足で一哩餘りも歩いた頃、後方から馳走して來た一臺の軍用自動車は私等の歩める側に停止し、夫れをドライブして居る兵士は「キャンプに行くのならば乘せてやらう」と言つたらしかつたので、池君に急がせられてこれに乘り殘り一哩は全く此の兵士の好意で營門まで運ばれた、彼の兵士に向つてはたゞ「サンクユーベリーマッチ」だけでわかれたが、日本であつたらば決してこんなことはして呉れない、國情が異つて居るとは云へ見識らぬ我々を親切に取扱つてくれる點に大に學ぶべきであると感じた。

このキャンプの敷地の廣さは一哩平方即ち六百四十エーカーで其周圍には簡單な石垣を作つて區劃せるのみで、日本の如き高き柵などは設けてはない、内には平屋作りの兵營が規則正しく建設されて居る例令一時的のバラツク作りとは言へ木材の豐富なこの地のこと故に堅牢にして且つ體裁よく作られ、就中酒保に類する娯樂場の外、ベースボールのグラウンド、テニスコート、も演劇場兼活動寫眞小舍も仲々廣大なものを建て、特に米國基督教青年會即ちＹＭＣＡより設けたる會館は、一般兵士の慰安所として其内部には新聞雜誌圖書の閲覧室、ピアノ、ヴアヰオリン演奏室、書狀認め所、ケーキコーヒー等を飲食する處等を備へ、識らず〳〵の中に宗教上の感化を與ふるものゝ如く見えたり、一順觀覧を終りし頃一聲高く響く集合喇叭の音、時計を見れば午後五時、キャンプ内の兵士は急ぎ戸外に飛び出て自己の營舍前に整列せしが、キャンプの中央高き柱に懸揚せられたる米國々旗に對し指揮官の號令により擧手の禮を行ふ、米國旗は喇叭吹奏の中を徐々に降下せらるれば直れの令にて手を下ろして解散せしが、思ふに今日一日の日課も之れにて終りを告げたりと見え、兵士は嬉々として三三伍々隨所に戯れつゝありき。

タコマへの歸途ワシントン州立精神病院(ステルカム)を參觀せんとて行きしが、時間の遲き爲め内部を視ることは許されざりしも、其敷地の大にして其建築の豪壯なる周圍のガーデン及園藝場の手入れの行き屆ける等、實に至れり盡せりと言ふべきか、重症者は別個の室に收容せられ居る樣子なりしも、輕症者は鐵網を以て圍める廣やかなる階上の露臺にて自由に遊び居る樣何となく氣の毒の感を生ぜり、溫室掛のものに質問せしに男女合計現今三千餘名の患者を收容し其中日本人も確か四名程入院せりと答ふ、建物の周圍のガーデンを一巡し電車にてタコマ市に歸り、商船會社下の棧橋よりシヤートル通ひのフエーリボートに乘り海上一時間半にてシイヤートルに歸り、日本湯に入り支那飯屋にて夕食午前一時ホテルに歸り二時就眠。

七月二十日　（土曜日）　雨後晴　タコマ見物

今朝は眠が覺めたのが八時だつた、桑港東君から早く來よ待つて居るとの書面が來た、登山に關する諸種の準備を與へ、白田君所有のコダツク二個を借り受け「アラビア丸」への土産として東京流の餅菓子を求めて午後二時にホテルを出た、天候が少し變になつて來て雨が降り出した午後三時昨夜タコマから歸つて來た棧橋から同じフエーリーボートに乘つてタコマに着直ちに商船會社に樋口支店長を訪ひ、今日初め

て四千七百弗で社に購入せられたと云ふ自動車で棧橋に繫留されあるアラビア丸に行き、永田船長の室にて休憩す、樋口氏は其中店へ歸られたので私は勝手知つたる事務長室、機關長室、船醫室等を歴訪し、再び今夜厄介をかけに來たことを斷りおく、ボーイの知らせにより食堂に行けば顏馴染ある高級船員計り、一同と夕食を共にし明日は早く起きねばならぬと言つて航海中私の部屋であつた拾四號のルームに入り就眠。

七月二十一日（日曜日）晴　レニア登山

ボーイが洗面用の湯を室に持つて來たので眼が覺めた、身仕度して前甲板に立つと朝日は東天に強き光りを輝かし、沖の方からはすが〳〵しい朝風が海面を撫でて吹いて來る、昨日にかはつた全くの晴天、フト眼をMT.レニアの方に向けると、一沫の靄も霞もない大空に豪快なる白き雄姿を浮き出せるが如くに現して居るので思はず獨り、「ア、」と云ふ嘆美の聲が出てしばし恍惚として我を忘れしむ、やがて食堂に入り今日登山する四人だけが日本食で朝飯を終りボーイ共に見送られて甲板を下ると、早やアフリカ丸の一行は一臺の自動車で出發する處だ、私共の車へは向ふから山本船長一人が加はつて續いて棧橋を出た、一行十二名が二輛の車で支店前を七時三十分にいよ〳〵スタートを切り、朝風を面にうけつゝ自動車は坦々たる車道を馳せて市の郊外に出る、曠々とした芝生の中を走るかと思へばオレゴンパインの密生せる林中に入り、道は次第々々に僅かの登りを見せ密林中を眞一文字に作られたる登山路を馳り八時四十分 Olop. Bob といふ一軒茶屋のある地點につく、此處は一方が急に低くなつて居る丘の上にて前面に眼を遮ぎる樹木等がないのでレニアの全容を遠望するに都合のよい「インスプレーションポイント」である、一同車より下り私はコダツクをレニアに向けて第一の撮寫を終り休憩の上、丘を下りて次なる丘へと登り九時五分 Canyuda Lodge と云ふ少しく人家のある所に行き水道貯水池の側を通りて日本風と支那風とを混合した一種變つた建築のホテル兼休憩所 Tavern につき又更に小憩して其裏なる溪谷の崖を眺めなどして車上の人となり次第に樹木の太さの加はる森林の天然美を賞しつゝ九時五十分 Ashford を通過す、こゝは登山鐵道の停車場のある處にて小學校もあり、製材所のかなり規模の大きなものもあつたが、日本人でやはり此の邊の製材に從事して居る勞働者も多いとのことであつた、十時三十分日本の鳥居作りの大きなゲート(門)が天然木で建てゝあつて一面の額には Mt. RAINIER National Park. と書いて中央に掲げてある、其門を這入ると小さい事務所があつたが、此處には大きな帳簿が備えてあつて登山者は各々此の名簿に國籍氏名と年月日を記す規定なので私達も各々之に記入し更に密林中に進む、十時五十分右手にあたり突骨たる尖峯の屹立せる標高六千呎のイーグルピーク(鷲の峯)を眺めつゝロングマイアースプリングにつく、こゝは山麓なれども海拔二千餘呎ありて氣候涼しく一軒の大きなるホテルもあり又其附近には臨時の避暑客用として天幕張のキャンプが數十棟も建てられあり尙其附近に炭酸水の湧出せる個所ありと聞きしも歸路に立寄ると として道を急ぐ、山道の傾斜は次第に加はり自動車は爆音すさましくたてつゝ登り行く、十一時半左手にあたり一溪流の流れ來るありしが、右手忽ち三百尺餘の大瀑布を爲し、今まで密林のみを眺めし一行の眼

を樂しむ、下車して之を撮寫す、これより山は急に峻嶮を加へ從つて幅廣き車道の築造工事も困難にて僅かに一車の通じ得る丈けの狹き道路なれば、こゝの上下に行通係の課員が駐在し居りて、ある一定の時間中登るものに使用させ、次ぎに登るものを待たせて降るもののみに使用さすといふふうに電話にて一々上下合圖せり、私共も十分許り待ち居りしが山麓より上り來りし自動車は其數四十餘臺にて皆道の右側に列を作りて待つ。其間上より降り來て自動車は一列を作りて我等の左側を下り行くと云ふ有樣なりき、やがて登る順番となり先頭より一列にて凡そ二十間位の間隔にて順次登り行く、こは數百尺の斷崖を右へ左へとうねつて作つた道、思へば隨分危險で普通の日本人ならばこゝを唯徒歩で上下するさへ氣味惡く感じ、少し内氣な婦人等は或は通行し兼ぬると云ふ難所、而し白人は妙齡の娘や、或は六十も過ぎたと思はるゝ白髮の婦人が自ら自動車を御してかゝる難路を上下する其勇氣と大膽とにはドウしても驚か

レニアア登山のタバーン

レニアア山麓の瀧

さるを得ないのであつた、かくしてこの一難所を登り盡して丁度正午には高さ四千呎の地點に達したが、この左方を見上げるとレニアの頂上から續いて居る氷河の下端が一溪谷に現はれ居つて、其下層からは氷の融解した水が瀧の如くに迸出せる壯觀が視られた、登路は之より更に狹かりしもうねり〳〵て十二時三十分には森林帶を脫出して草本帶に出で、黃、白、紫、赤と色とり〴〵に今を盛りと咲き匂へるず、されどホテルは單に登山者の一二泊するものゝみならず長期滯在の避暑客も可なりに多く尙日本人にてこゝに出稼ぎせるものも多しと聞きしかど立ち寄らずして、高山植物の愛らしく咲ける見晴らし好き草高山植物の姿を賞し仰いでは山嶺の豪壯に驚きつゝ午後一時海拔六十餘呎の PARADISE in に着す、此處には登山者のために設けられたる壯大なるホテルの設備ありて其結構六千呎の山上とは思はれ

マウントレニア登山道自動車の待合

原に車座を作り豫て船中にて用意して携帶せし卷壽司、と煮〆の行厨を開く、こゝワシントン州は既に禁酒令を布ける土地故シイヤートル及タコマ共に酒類を鬻ぐ家はなく、隨つて酒類は單に醫藥用として醫師が使用する外絶體に禁止せる故、例令日本船でも此の兩港に淀泊中は船内に於て酒を使用することを許されて居ないが、誰れの發意であつたのか自動車に積んで來た行厨の包の中にはシトロン、サイダーの外に一瓶のウイスキーが入れてあつたので上戸も下戸も之を賞しつゝ飲んだが、特に自動車の白人運轉手は永らく酒を味はなかつたと見えて其喜悅の情を露骨にあらはしてベリーナイスとサンキューを連呼しつゝたち續けに飲んだのは實に愛らしく感じた、かく異國の山上で日本米を原料とし作つた日本特有の卷壽司を味ひ得るも亦聖代の賜と感謝せざるを得なかつた。

レニアア登山婦人の晝食

蓋し此の頂上を究めんには必ずホテルに宿泊して天候を見定めガイドを雇ふて諸種の登山具を借りなけ

マウントレニアパラダイズイン

ねばならぬのだが、私共一行はたゞ其日返りに此處まで來て山容の大體に觸れたゞけで歸らなければならぬので、一行の人々は是非君は殘つて好い道連れを得て頂上までと勸告してくれしも、獨り殘留するのも一行に對する義理もあり、且つ言葉も未熟であるために、白人共の中間入りして登つても其快味に於て十分ならず、實はしばし何れにせんかと考一考せしも、矢張共に下山する方よからんと決心し食後隨意に其附近を散歩する時間を利用してせめては氷河のある地點までと心を急がせ寫眞機のみを引つ提げて、グリインヒルを登りて北方に越え、やう〳〵氷河の眺め得る地點に達して其壯觀を瞰望し記念の撮寫など高山植物の數種をも採集して急ぎ駈歩にて下り來れば一行は既に自動車の上にあり、急がせられて車上の人となり何となく滿足を得ぬ情緒をおさへ午後三時パラタイヅインを發し始めは徐行せしめて下る、歸路は往路よりも危險なるも熟練せる運轉手の手腕によりて斷崖の下り阪も無事通過し四時三十分氷河の下端の地點まで下り、五時 Longmire Springs に着しホテルに入る、幸ひ日本人にて此處のボーイ長をなせるもの〻親切なる待遇を得て、一

レニア山麓炭酸水

同洗面の上休憩し更にこゝにて夕飯を注文して一同卓を共にし炭酸水の湧出せる個所へ散歩して、午後七時出發、往路は同じ道を急ぐ、一行は二輛に分乘せる事とて、運轉手は先きを爭ひて馳走し先きなるを追ひこし、或は後方なるに追ひ越されつゝ馳る、全速力を出す時は一時間に五十五哩の速さを出したが、夕方になるに從ひ面を拂ふ風の寒さと、土ぼこりの多きとには閉口せしも自動車の競走は興味ある歸路なりき、首を後に振り返せば「レニア」は夕陽をうけ全山の白雪に映じて眞紅を呈し、日の傾くと共に色は次第に淡く紫色を加ふる樣等の美觀を眺め得、Ohop Bobにて小憩の上午後十時タコマ市に入り、私はタコマ停車場前にて一行とわかれ、シイヤートル行の電車に乘じて十二時ホテルNPに歸着、一浴して終日被りし土埃に汚れたる身を清め二時就眠。

七月二十二日　（月曜日）　晴

眼が覺めたのは八時半、昨日は殆んど終日車上で搖られたので餘程疲勞したものと思はれる、撮つて歸つたフヰルムを持つて鈴木齒科醫院に白田君を訪ね、共に寫眞屋に行きてプリントを依頼し、晝食後ダウンタウンへ「レニア」に關する地圖及書物などを購求に行き、其途住友銀行に寄り更に大溝君を令兄の宅に訪ひて歸宿、夕方池君宅に行きて登山の委細を談じ、共に同氏の友人なる原氏の宅に行き日本食の饗をうけSPステーション方面を散歩して十二時歸宿すれば原澤爲田の兩君より無事市俄古着の報來れり十二時就眠。

七月二十三日　（火曜日）　晴

七時起床朝食後はホテルにありてレニア登山の記念葉書を我が校を初めとし日本山岳會及同會員中平素親懇ある人々に對して認め出す正午池君來訪、レストラントに行き晝食を了り更に同君の案内にてキヤビタルヒルの公園に行き、一寸道寄りして其附近なる日本人の共同墓地を見た、夕方タウンに歸り活動寫眞に入り午後八時池君の宅にて日本食にて送別の意味の晩餐をうけ柳生君を訪ねて滯在中の好意を謝し九時歸宿荷物の分類を爲し午前二時就眠。

七月二十四日　（水曜日）　晴　沙都市出發

六時起床、沐浴昨夜の殘りの荷物整理を急ぐ爲め朝食も取らず心せはしく準備を爲す、九時三十分池君夫妻籬君大溝阿部君等が見送りの爲めホテルに來られ共に停車場に行きTicketに示せる第六號列車に入るしばらくして十時の發車時刻に迫りし故一同に厚く謝辭を述べ終れば列車は靜かに搖ぎ出す更に窓から頭を出して好意に答へものゝ六七秒ともたゝぬ中に線路のカーブせる爲め姿は見えずなりしかばシートに倚けてほつと息をつく、此の線路は過日タコマに行きし際乘用せし電車線路と殆ど並行に敷設せられたれば外と面の景色は見覺えある處多かりき、一時間ばかりにてタコマ驛に着五分間停車の上發車す、線路は之より海岸に沿ふて南へと馳る、まだ正午には早けれども、今朝食事をとらざりし故空腹を覺えし故、先き程シヤートル出發の際池君夫妻が心をこめて昨夜から準備して態々車中へ運んで呉れた厚紙製方一尺二寸位

の御辨當の箱を開く、中には黒胡麻をふりかけた小さいお握りが一折と別の折箱には筍、カマボコ、莢豌豆、牛蒡、玉子などの煮しめと又一折には握飯に煮しめを半々に入れた都合三折に、レニアビヤー、ソーダウオーターなどの飲料水が八瓶更に三食分程のサンドイッチ別の袋にはビーナツト、キャンデーの類其外オレンジ、バナ、、水密桃、梨、スモ、などの果物を入れ、尙其外白人乘客のみの車中で日本の箸で食べるもどうかと思ふてか小さいシルバーメツキのフォーク一本、其上に容量約四合程の魔法瓶には熱い日本茶を入れ瓶の栓抜きから食後に使用する小楊子まで實に念の入つたもの、見るからに喉を鳴らさずには居られない、早速お握りと煮〆と半分〳〵に入れた分を取り出し心の中で舌皷を打ちつゝ一折を了つたが、どうもこれ丈けでは腹の蟲が承知しない、又候次の折箱を出して約三分の一を平げて御茶を飲み果物を三個ばかりも食べて實においしく食事を終る、幸ひ滿腹したのと昨夜の睡眠不足と、汽車の輕き動搖とは三つ揃ふて睡眠を誘つたと見えて何時の間にか後に凭れて佳境に入つたと見える、……ふと氣がつくと人の聲 Get up Get up の二た言と私の右肩を叩く、眼を開いて後ろを振り向くと、私と同時にシイヤートルから乘込んで、私の一つ後ろの坐席に居つた七十餘りの丸々太つた老紳士が私を起してくれたのであつたことに氣がつく、其瞬間に列車内を見渡すと乘客は皆手荷物を提げて下車すると見えて入口の方へと出て行く、そうして此の老人も私が起きたので荷物を持つて出て行く、はてな一體こゝは何地か知らん、腕時計を見ると午後五時だ、ヨクも四時間餘りも前後不覺に熟睡したもの、昨夜汽車の時間表を見たときに午後五時はポートランド着の時間と覺えて居る、米國内地の初めて一人旅、殊に言葉が不充分であるから途中乘換なしの列車で桑港まで直通する列車を選んで貰つて乘り込んだが、乘客全部が下りるのも見ると矢張乘り換へがあるのか知らんと云ふ考が忽ちに起つたので、スーツケースと大きな御辨當の紙箱其の他二三の紙包に外套とを双手に提げて汽車から降りやうとする一刹那、私の眼の前のプラツトホームに立つて居る一人の赤帽と視線が合つた、その瞬間之れが日本人だと自覺され思はず君！　と云ふ言葉が出た、これが地獄で佛に遇ふと言ふ諺かと思つて安神したわけであつた、荷物を手傳つて貰つてプラツトホームに下ろし、徐ろに乘換の事を質問すると、此の列車は今全部乘り換へで市俄古方面へは三十分すれば發車するが桑港方面へは午後七時十五分でないと發車しないと云ふことがわかつたので、待合室に手荷物を運んで貰つたが、渡る世間に鬼はないとはこゝのこと、何くれと親切に話してくれて約二時間餘裕があるのだから市内の見物でもしられてはと勸めてくれるけれども此の時ばかりは行つて見ようと云ふ氣にもなれず、手荷物をそこに置いて之を監視しつゝ構内散歩に時を過した。午後七時になるとさきの赤帽さんが來てそろそろ參りませうと言つてくれたので、又も手荷物を列車に運んで貰ひ壹弗の銀貨を一つ與へたが赤帽は白人ならば遠慮なく貰ひますが同じ日本人同志のことそんな御心配は御無用と言つて再三辭したけれども無理にポケツトに入れてやつて規定通りの七時十五分彼に見送られて發車した。之よりは次第に變り行くポートランドの郊外の景色を窓越しに眺め、午後八時半再び辨當箱を開いて夕食を了り、シイヤートル出發

の際入れて貰つた同地發行の日本字新聞二種を閲讀し午後十時外套を着てそのまゝ寢ることにした。一體この列車にもスリーピングカーは無論あるのだが、たゞ二夜のことだし、而も夜中も寒くはなし、桑港に着けば永く休養も出來ることでもあり、一つは經濟にもなることで寢臺券は買はずに乘つたが、座席は日本の元山陽線に使用されてあつた腰掛が後ろに少しく倒れて斜めになり前の腰掛の下に足が乘り得る仕組に作られてあつたので丁度寢るのには都合がよかつた。

七月二十五日　（木曜日）　晴

眠が覺めたのが六時三十分、座席の前後を見渡すと未だ皆睡つて居る、私も何だかまだ睡いけれども洗面場がつかえるとこまるからと思つて、惰眠を止めて洗面場に行く、早や三人の陸軍兵士が一人は鬚を剃つておる、二人は顏を洗つて居る、日本内地の旅行ならば白人が居つても默つて居つてもよいが、今日は私の方が外國人なんだからとて思つて先づ私からグッド モーニングと挨拶すると兵士共も異口同音にグッドモーニングと答へた、しばらくそこのソーフワにかけて煙草を吸つて待つた、米國の客車は車體の前後に必ず一個づつの特別の室があつて一は男子用 Men 一は婦人用 Woman と入口に書いてある其内部は洗面場と別に戸締りのある便所と五六人が倚けらるゝソーフワとが設けてあつて男子の方は此處が喫煙室を兼ねて居る、程なく一人の兵士が洗面し終つたので私も米國人の習慣に從つて鬚を剃り洗面を終り彼等と共に喫煙して居つたが中の一人が君は何處へ行くかと聞くからたゞサンフランシスコと丈け答へた、其後いろいろ兵士は私に向つて話をしかけてくれるけれども自分のわかる程度には聞き取れないので Excuse me I am Poor English. と言はざるを得なかつた、やがて私の座席に來て朝食を了る、話し相手はあつてもこちらが出來ず、たゞ列車の進行につれて變化して行く田舍の景色を眺めるより外はない、午前中はさまで景色の良いと思つた處もなかつたが、午後は此の線路で有名な MT、シヤスターの山麓をうねり〳〵に高原へと登つて行く、其間は隨分徒然であつたが、それでも少しばかりの殘雪を戴けるシヤスターの山容を遠見し得られたのは暑い列車中で午後の倦怠を慰むる唯一のものであつた。

午後四時過ぎ列車は急勾配の線路を降り初め溪流に沿ふて進行し午後五時五分此の線路中の名所スプリング驛に着くと、すぐ其傍に清らかな鑛泉が湧出して居るのが見えた、池君からの話によると此の驛では態々十分間停車して乘客に隨意飲用させるとのことであつたから私は列車が着くと直ちにプラットホームに下り鑛泉の湧出せる場所へ行かうとすると、私の列車のコンダクターが大聲で私を呼ぶので、後ろを振り向くと列車は靜かに進行を始めて居る、私の外にも五六人下りた連中は矢張アハテ、汽車に乘りかけて居るので、置き去りにされては大變と直ぐ樣汽車に飛び乘つたが、ほんの一分間とも停車しなかつたのでドンナ風味の鑛泉であるか究め得なかつたのと、シャートルから期待しておつた一つの希望が遂げられなかつたのは殘念であつた。此處より汽車は溪流に沿ふて次第に降つて行く道すがら右手にあたり約二時てに互り地上何物も生じて居ない全く裸體の山麓を通るのであつたが、處々に坑口らしきものを認め山上に

は大煙突の濛々たる黑煙、黃煙、白煙等を吐出せる工場のある點より察すれば一大鑛山たることは首肯されるのである、日沒の頃汽車は溪間より平地に出でて次第に山地に遠ざかつて行つた、シヤスターの山麓一帶には例のオレゴンパインが最も多く繁茂して居つたけれども地上全體を蔽ふ草木類は全く枯死して黃色を呈して居つた、これは此の附近一帶春より秋に至る季間は降雨のなき爲めに斯く草木の枯死せるものと推察することが出來る、午後七時夕食をとらんとて殘りの握飯を檢すれば、今日の車中の暑さの爲めに少し腐敗に傾けるに氣附く、折角の日本飯を捨つるに忍びされど新聞紙に包み窓外に投げ、手つかずのサンドイツチを檢すればこの方は何等の異狀なき故其半ばを平げ、果物とソーダ水をデザートとして夕食を了り九時半オーバコートを被て昨夜の通其位置で寢につく。

七月二十六日　（金曜日）晴　桑港着

太い汽笛の音で眼が覺めた、最早夜も明け切つて列車は今停車して居る、窓のカーテンを上げて外と面を視ると其前の立札にベニシヤと記してある、こゝぞ米國人が世界一の一つと誇つて居る汽車の渡場だ暫くすると汽車は動き出したが二分間位で全く一汽船の上に乘つてしまつた、併し一列車を途中から二分して甲板の左右に竝べたらしい、その中列車は汽船が之を積んだまゝで對岸に向つて進行し始めた、五分間計りで向ふ岸につくと、直ちに私等の列車は汽船の甲板上で運轉を始めすぐ陸上のレールの上を馳つて行く、殘りの列車も別の機關車が後押しをして先きの列車の後部へ接續すると、全列車が馳り出すと云ふ段取りになつて居つた、洗面後今朝は桑港につけば御馳走も食へることでもあるからと思つて果物丈けで朝食をすませて海岸を馳つて行く外面の景色を眺めて居るが、此處は桑港灣の奥深い處で平坦であるから一向に海岸に變化がない、やがて八時十五分汽車は桑港の對岸なるオークランドの渡船場に着いたので荷物を提げてプラツトホームに下りて眞直に歩んで行くと自然に渡し船に乘れるやうに出來て居つて、船に乘つたと云ふ氣分にはなれない位である、此の船は上中下の三層の甲板があつて裕に千人以上を乘せ得るさうである、シートにかけて待つ間程なく汽笛を鳴らして棧橋を離れ、海軍鎭守府を置けるゴート島を右舷に見て海上二十八分位で桑港の渡船場に着いたが、棧橋の模樣は前者と同樣であつた。大勢の乘客の出て行く方へとついて行くと「ヤー來ましたネ」と言つて立つて居る中肉紅顏のヤングゼントルマンは誰あらふ、私が今度の渡米に關し諸種の計劃に與つて吳れ、而もこれから又種々の點に於てリーダーと仰ぐ住友銀行桑港支店副支配人東義一君其人である、かゝる場合にはしみ〴〵と挨拶も出來ぬ位に嬉しいもので、私も此時は「ドウモ有難ふ」と言つたかしらぬが嬉しさが胸一ぱいで此の筆をとるにあたつて何と述べたか實はわからない、宿は日本人經營のホテルが近くに小川ホテルと帝國ホテルの二つあるが何れにしようかとの相談であつたが、可兒氏から荷物の用件を帝國ホテルに依頼されて居るから其方にしようと定め自動電話で東君がホテルに通じてくれた、道が近いので自動車にも乘らず、辨當の紙箱を東君に提げて貰つて殘りは私が兩手に持ち電車で桑港目貫の大通マーケツトストリートを六町計り馳つて更に右へ折れて三丁程行

き、阪の中途にある帝國ホテルに入り主人土井武一君の案内で三階中央なる第五十號室に落ち着いた。

テーブルを中に二人が腰掛けて一昨年の夏東君が渡米する前に訣別してから以後の積る話を夫れからそれへと一時間餘も續けた、僕は今朝銀行へ顏出しせずに出迎に行つたから一度行つて來るマー君ユツクリ休み給へと言つて同君は出て行く、私も上衣を取つてソーフツの上に身を横たへて暫時休む、やがて晝食を知らせて來たので階下の食堂に行き日本食の御馳走、會席膳の上は、刺身も吸物もテリ燒も材料こそ少し變つて居れ全く同じだ、今朝は果物丈けしか食べなかつたのと、此處に安着した悦びとで大層食が進んだ、午後はスーツケースの荷物などを整理して居ると廊下の方からドアーをノツクするものがあるCome in とやると這入つて來たのが年齢廿七八稍小柄の一青年、ネームカードを出し、私は新世界の記者でございますが日本から御着きになつたと下で聞きましたので何か珍らしいお話でも伺ひたいとの挨拶、私も來訪の好意を謝して椅子を與へて名刺を渡し、私の今回の使命の概略を話し、兎に角

サンフランシスコ・マーケツトストリート
第三回自由公債を通行人にすゝめ居る婦人

これから視察も研究もしようと云ふのだから、こちらが話をするよりも大に教えを受けねばならぬ事を述べたが、併し日本の女學生の身體は以前と多少變化して居りますかと云ふ質問であつたから、今日までの感じ丈けを話して一時間許りで同君は歸つて行つた。疲勞を醫すべくゆつくりと沐浴し浴衣のまゝでルームで休んで居ると、東君から電話がかゝつて今日は君が知つて居る珍らしい人が今僕の銀行に來て居るがあてゝ見給へと突然の話、電話器の前で頭を左右に曲げて見ても考へのつかぬも當然だ。其内電話の話手の聲が變つて「ヤー朝輝君失敬」と云ふ言葉を聞くと同時に烏水君と云ふことがわかつた、烏水君とはしる人ぞ知る日本山岳會設立者の一人でつとに山岳思想の普及に盡力せられ、山岳に關する著書も數多く、就中日本アルプス全四卷は有名な好著である、先年來正金銀行ロスアンゼルス支店長として永く米國に其手腕を振はれつゝあるのである、私もこの視察の歸途は道を南にとりそのロスアンゼルス市に是非立寄つて同君にも面談の機會を得ようと思つて居つたのであつたが、桑港につくや直ちに其人に遇ひ得らるゝとは、全く奇遇と言はざるを得ない、これも一重に平素信仰せる我が故國の山靈の御加護とでも言ふのであらふか、同君は今夜は前約があるから遇へないが明晩小川ホテルで晩餐でも共にしつゝゆつくり山の話でもしようと約して電話を切つた。午後六時半頃東君來宿此處の食堂で安着祝ひの晩餐に日本酒の盃を擧げ十時半頃まで愉快に雜談をなし同君は歸つて行つたので私も早速ベッドに這入つた。

七月二十七日（土曜日）晴

桑港滯在

七時半起床、トーストとコーヒーとで簡單な朝食を終る、パーラーで今朝の新聞紙を讀む新世界紙上には昨日記者に話した要領が記載されてあつた、十時前ホテル前のスコエアーを横切つてカリフオルニアストリートを濱の方へ四町程下つて住友銀行に行き東君の紹介で支店長國府精一君を初め其他の行員に挨拶をすます、大阪醫大の木下博士から國府君宛の紹介狀をも渡したが同君とは何處かで遇つたやうな氣がする、同君もそんなことを言ひ出した、二人で考へこんだが去る大正二年六月大阪に於て山岳會の關西大會を開くに當つて、其第一回の協議會を私の居つた夕陽丘女學校で開いたことがある、其節同君も來られて今村幸男氏から紹介されたと云ふことがお互にわかつた、同君も單に同志の山岳會員と云ふ丈けでなく運動には非常な趣味を持つて居られて今此の地でもゴルフを盛にやつて居られるとのことである、小憩の後東君の案内で其近傍なる正金銀行に行き土倉支店長や大阪出身の廣岡氏にも會ひ更に昨日電話で話した小島烏水君にもあつた、それから次は桑港駐在帝國領事館に行つて藤井領事官補に面會して小幡政務局長からの紹介狀を渡して敬意を表した、丁度正午近くなつたので二人でマーケットストリートに出てカフテリアと稱する一種のレストラントに行き晝食をした、カフテリアとは日本の料理店の屋號のやうに聞ゆれど、實は其の營業の方法に對して名づけたもので普通の料理屋とは趣を異にして居る、今其營業法の大體を說明すれば、此處に食事に來るものは、先づ家に這入ると食事をするテーブルの竝べてある場所と區劃のしてある通路を深く奥に行くと、金屬製の大きな輕い盆が積んであるので各自勝手に一枚づつとり、次はナイフ、フオーク、スプウンが一枚のナプキンに包んで置いてあるのを取り、次はブレツドが七八種も置いてあるので自分の好む丈けとり、更に此處にてバターも小皿に盛つてあるのをとり、次に歩を移すと料理されたる各種の品が夫れ〴〵陳列され、殊に暖かいものは其場に於て煮て居ると云ふ都合で、今自分が食べようと思ふものを註文して順次皿に入れて貰つて盆にのせる、例へばブレツド二切、バタ一皿、ロースビーフにマツシポテトー一皿、トマトー一皿。ミルク又はコーヒー一盃、ケーキ又はパイの類或はアイスクリーム一皿と云ふやうに之を持つていよ〴〵食堂には入る所に一人の店員が居つて、各自お客の持つて居る盆の中の品物を一覽して直ちに之に相當する價を小さいカードに印字機で價格を押捺して盆の中へ入れてくれると、自分で勝手に空席にかけて隨意食事を終る、前に貰つたカードの金額丈けを出口の勘定場へ支拂つて出て行くと云ふ至極簡單な方法で要するに餘り上等な料理店にはあらねど、給仕人を使用せざるだけ營業者は食料品を比較的安價に供給する點と、普通料理店に行き客が註文した後其品物の料理が出來上るまで待つて居らねばならぬと云ふ時間の不經濟を助くる便法なので生存競爭の激甚な米國では當然斯く發達して來たものと思はれる。

食後住友銀行に引返す、今日は土曜日のことゝて午後は休業。二時より東君の寓居に立寄り電車を利用してゴールデンゲートパーク内なるテニスグラウンドに行き五時まで遊び、六時半同君と小川ホテルに小島烏水君を訪ね、國府君と四名にて晩餐を共にし食後は日本の山の話ばかりで持ち切り最後に日本山岳會

に向け四人連名して此の會合を記念すべく葉書を出し十時開散、歸宿十一時就眠。

七月二十八日　（日晴日）　晴

七時起床、朝食後は桑港到着の通信を日本にすべく葉書を認む、午後二時小島、東の兩君來訪共に携へて昨日案内されし金門公園に至り美術館に入り小島君より繪畫彫刻等につきて詳細なる説明を受け、更に電車にて此の公園續きの海岸なる Cliff House に入り（日本人經營の茶店）休憩アイスクリームなどを食べ太平洋の景色を眺め且つ此處の一名物（Seal Rocks）アザラシが巨巖の上に登りて棲息せる樣などを觀て夕方小川ホテルに歸り、更に夕食を共にして九時歸宿、十一時就眠。

七月二十九日　（月曜日）　晴

七時起床、朝食後我が校なる伊賀校長に宛てゝ日本出發以後の動靜を稍詳細に認め更に私が横濱出帆の日書面を以て依頼して置いた、學費が丁度桑港に來て見ると住友銀行に着いて居つたので其禮狀を兼て投函した、十時半オークランドなる堂本家にある同郷の舊友小木二郎君から電話がかゝる、今日の午後四時堂本の店員が桑港の支店に行くから（堂本花店の支店は帝國ホテルのスグ裏の通）其店員と共に來てくれとの話、書き上げた澤山の葉書に切手を貼用して之を郵便局に持ち行き、カフテリアにて晝食をすまし住友銀行に行き東君と共にホテルに歸り、日本から託された品物をトランクから出して同君に渡し、午後四時堂本支店に行き、店員の乘り來りし自動車に便乘して一昨々日到着したフェーリーに行き自動車に乘つた儘乘船して對岸オークランドにつき市中を横斷して午後六時堂本の園藝場に着し、小木君に遇ひ久濶を謝し健康を祝し、伴はれて同家經營の大溫室を順次一覽して其規模の大なるを賞し、日沒頃より電車にてオークランドの目貫きの市街に入り支那飯屋にて晩餐を共にし、食後散歩の後十時半同君とわかれて電車と渡船を利用し十二時ホテルに歸着。

七月三十日　（火曜日）　晴

七時起床、今日は明治天皇祭、洗面の上身を清め遙かに西方日本の天に向つて心ばかりの遙拜をすまし朝食後は室で葉書を認む、正午住友に行き東君とカフテリアにて晝食を共にし、食後散歩の序、マーケットストリートなる鐵道局の出張所に行きて東部旅行用の時間表などを貰ひ歸宿の上、午後は出發前通信を約せし雜誌國民體育への第一回通信を認め投函す、夕食はホテルの食堂にて日本食をとり應接室にて日本の新聞などを讀み全く遊んでしまつた。

七月三十一日　（水曜日）　晴

七時起床沐浴、朝食の上金門學園に園長鈴木高君を訪ふ、同君の案内にて各教室を一巡參觀す、同學園は桑港在留日本人の經營せる前述シャートル國語學校と同種のものにて、シャートルにては獨立せる新校舍なりしも、此處の學園は普通の家屋を其室内丈け幾等か模樣替して教室を作りたるものゝ如く、隨つて沙市のものに比して規模も小なりき、或る一室にて此の九月より新たに米國の小學校の一年生に入學するものゝみに對して一米國女教師が豫備教育としての語學を教へて居つたが其英語の程度は日本の高等女學

校の第二學年の終位の程度の處を書きもし、讀もし教師の發問に對して正しく生徒が答ふるを見て實に其上達せるに驚かざるを得なかつた、二時間にして辭し、歸途大阪府立天王寺中學校出身にて先年來此の地に在住の飯田精三君の宅へ同校教諭長井彌太郎君からの紹介で寄つて見たが、同君は不在で其母堂丈けに面會してホテルに歸り、カフテリアにて晝食可兒氏より依頼されしアルマナックを購求して歸宿、午後も葉書認めに費し午後六時より東君の招待にて支那料理に行き晩餐を了へ、マーケットストリートの活動寫眞に入り十時歸宿、十一時半就眠。

八月一日　（木曜日）　晴

七時起床、ホテルにて朝食午前中はルームで葉書を認む、晝食後桑港日本人會事務所を訪ひて、拾數年前渡米して音信不通となり居る知人の居所を調査し、更に帝國領事館に就き同樣取調べしも不明にて全く徒勞になつてしまつた、晩餐もホテルですまして又もや葉書かきをするが細かい文字でなるべく文句多く書かうとするのではかどらない十一時半就眠。

八月二日　（金曜日）　晴

六時半起床、沐浴ホテルにて朝食、例によつて葉書かきをなし、可兒氏より委託されたる書面をミスター、グロシヤールのヲフイツスに持參して之を渡し東君を誘ふて共に晝食、午後日本人の理髮屋にて理髮をすます、刈込み、鬚剃り、洗滌と代金は米國風にはしてあるが、顧客は多く日本人なので日本風にやつて六十五仙であつた、又もや葉書認めを續けて十一時半就眠。

八月三日　（土曜日）　晴

六時半起床、ホテルにて朝食、幾等葉書を書いても出さなければ義理のすまない個處ばかりなので今日も又午前中之に費し、晝食は東君と共に外ですまし其跡で寫眞機を購めに行きあれこれと選擇した上ケースは少し古いがレンズが一寸手に入れ難い獨逸製のザイスの分を買ふことにした、宿に歸ると可兒氏の知人で此のホテルに滯在中なる熊谷君と云ふのが態々室に來てくれた四方山話に時を移す、夕方スタツクトン市の早石實造君から書面が來た、夕食後はパーラーで此處の主人と雜談して十一時就眠。

八月四日　（日曜日）　晴　スタツクトン見物

七時起床、午前中今日も葉書をかく、晝食後ホテルのボーイに送られて自動車でフエーリーに行き早石ドクターをスタクトン市に訪問すべく出發した、渡船は午後一時半解纜、今日はオークランドに至らず、鐵道起點のフエーリーポイントに着き此處より汽車に乘りかへ、約三時間にてスタツクトン驛に着し、徒歩にて市内に入り在留日本人に道を敎へられて日本ビルディング内なる早石君のオフヰツスに入る、同君は日本三景の一天橋の所在地府中の產、小學校時代に於て既に頭角を顯し、或る田舍の醫師の家に入りて學僕を爲すこと五年間刻苦獨學し年齡廿才にして醫術開業試驗に合格し、直ちに鄉里に於て開業、一時其近鄉に於けるヤングドクターとして大に名聲を擧げしが、奮然として米國留學を思ひ立ちて渡米し、バルチモ

アなるジョンスホプキンス醫科大學を卒業、一時桑港にて開業せしが今は當スタツクトン市にて開業し全科醫として其業務に鞅掌せるも特に外科手術に於て獨特の手腕を有し居り、市内に白人開業醫の多數ある中に單に在留日本人の治療に從事せるのみならず、一般白人も其手腕を稱賛して治療を乞ふもの同胞人の數よりも日々に多きを示すに至れりと云ふ、午後七時伴はれてレストラントに行き、夕食の饗を受く特に私の希望にてビーフステーキをオーダーせられしが、其質量の豐富にして且つ大なる點に於て、普通日本に於て一人前のものゝ慥かに六七人分位の大きさなりしが、其味も亦良好にして殊にそれに添えられたるポテトーの大なるに驚かされたり、一體此の邊はポテトーの名産地として米國中に知られたる處にて、我が同胞の在米者の中太平洋岸に於ける成功者の一人なる俗にポテトー王と稱する牛島謹爾氏の經營せる農場も此の近傍十數哩の地にある由と聞きて、味の佳良なるも首肯せらゝるを得たり。食後再びオフキツスに歸り九時まで早石君は診療に從事せらる、夫れより活動寫眞に案内せられしが、此處は單に寫眞のみならず所謂寄席に屬する小屋にてダンスもあれば手品もあり、輕業もあれば落し話もあると言ふ調子にて、丁度先日シヤートル市にて見た一座が巡業しておるものであつた、十二時早石君の自動車で市の郊外に近く新築された住宅に歸る、日本茶を立て、二人が話し出した、丁度令閨は其里方なるオークランドの内田家に遊びに行かれた留守中のことゝて男同志何の遠慮もなく夫れから夫れへと話は益ゝ佳境に入り時の移るも全く知らず、お茶のお蔭で興奮するので眠氣も起らず、トウ〳〵近所の鷄が曉を告ぐる鳴聲に驚かされ時計を見れば午前三時五十分、兎に角一睡しようと云ふのでベツトに入る。

八月五日　（月曜日）　晴

氣がついたので眼を覺して時計を見ると九時になつて居る、直ぐにハネ起きて隣室に休んで居る早石君のドアーを叩いて起す、同君の診療時間は朝は九時からになつて居るからであつた、二人が洗面身仕度をして自動車で市内に入り、途中簡單に朝食をして九時四十五分オフキツスに行けば白人四名と邦人三名都合七名の患者が其應接室に待つて居る、同君は早速先着のものから一々其處置にかゝる、其間にも又四名の患者が來たので一通りの治療の終つたのが午後一時前、そこで二人は外に出て晝食をとり、直ちに引返して午後五時まで同君は患者に接し、夕食は日本料理店より仕出しを取寄せて其美味を賞し、食後自動車にて公園内なる公立のスヰミングタンクを見に行く、此の邊一體は夏季の納凉場とせるものにて、スヰミングタンクは夏季のみに使用に供するものなれども其設備の大にして且つ完全なるに驚く、七時半より九時まで同君は更に診療に從事し十時歸宅昨夜の輸を蹈まぬ樣十二時就眠。

八月六日　（火曜日）　晴

七時起床、住宅の前にて自動車で出る前に記念の撮寫を試み途中朝食、スタツクトン市役所及日本ビルデイングを撮寫して醫務室に行き、正午まで雜誌など見て遊ぶ、夫れより自動車にて市の西方郊外に出で日本人經營の農園の一部を見、更に日本飛行家西本、佐藤兩君の格納庫を訪問して其機の說明をうけ、市内

に歸り支那料理店にて晝食休憩の上、自動車にて停車場に送られ午後三時十分發、往路と同じ線をとりて午後七時三十分帝國ホテルに歸着し、一浴の上日本食にて晩餐を終り、日本の新聞紙を讀みて十一時就眠。

八月七日　（水曜日）　晴

七時起床、葉書の殘りを認め、住友銀行に行きシイヤートル同支店長名村君より送られたる、マウント、レニアの植物誌を請取り、三井物産の店に早石君令閨の兄にあたる內田堯君（同國舞鶴の產）を訪ね同君の紹介にて支店長永島雄次氏と面會せしが同氏も私と同國の出身の由にて明晩ホテル小川にて晩餐を共にし大に國の話でもしませうとの事、內田・東の二君と晝食を共にし午後は宿にて記行の爲め執筆、夕食後マーケットストリートに散步してダンスの寄席に入り十一時歸宿就眠。

八月八日　（木曜日）　晴

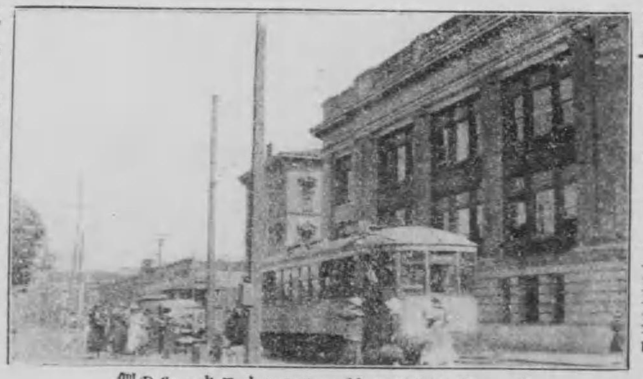
七時起床、朝食後は記行に筆を執ること三時間、同宿者熊谷君經營の日本產大豆を原料としてブレッドを製造せる店に行きて其製法を一見し、燒き立てのものを試食し、

スタックトン早石ドクターのバンガロウ式住宅

晝食後同君の案內にてガールスハイスクールの參觀に行く、第二學期開始早々のことゝて萬事整頓し居らず各教室を一巡して其設備の大體を觀察し、明春日本に歸る以前に於て更に來觀する事を依頼した、此の校の體操教室は地下室即ちベースメントを利用せるものにて廣さに於ては相當と認めしも何となく陰氣な感じあり、戶外運動場は僅かにテニスコートが二つ並ぶ位の廣さにて全校千餘名の生徒の運動場としては素より小さけれど、學校の側面には方二町の廣さある市立のプレーグラウンドありて此れを自由に使用せることゝて、學校內の設備は小なりと雖も其缺陷を充分に補ひ得て餘あり、學校を出でゝプレーグラウンドを觀て五時歸宿、六時內田君來訪伴はれてホテル小川に行き永島氏の招宴に列し、八時歸宿熊谷君と雜談に時を移して十一時就眠。

八月九日　（金曜日）　晴　學校參觀

七時起床、朝食後直ちに金門學園に鈴木園長を訪ね、伴はれてノーマルスクールに行く、校長に紹介され親切に各教室を一巡し、特に本科生及附屬小學生徒の體操遊



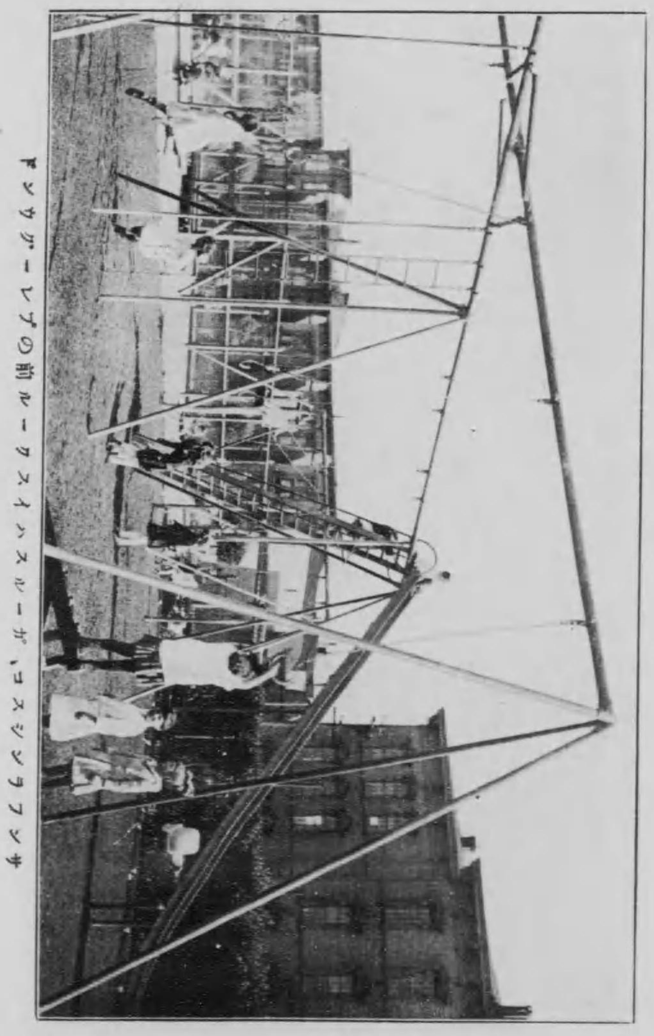
サンフランシスコ・ガールスハイスクールの側面生徒がストリートカーにて歸宅する所

戯の課業を觀、此處にても明春を約して辭し、更に市立小學校中日本兒童の最も多く、入學せるといふ一小學校に行き女校長の案内にて一通り參觀の後鈴木君と晝食を共にし歸宿、ホテル主人土井君と共に汽車の乘車券を求めに行き、歸途三井の店にて永島氏よりボストン在留の文學士團伊能君への紹介狀を貰ひ、住友銀行に立寄りて今後私の學費送附の件につき打合せを了し歸宿荷物の整理にかゝる、午後六時東君に招かれて佛國料理に行きホワイトグレーブワインを傾けつゝ晩餐を終り八時歸宿雜用に時を移して十二時就眠。

サンフランシスコ・ステート・カレッジ・ノースルーク

八月十日（土曜日）晴　桑港出發イーストへ

七時起床直ちに沐浴、朝食後明春こゝに歸るまで必要でない品物を全部取纒めて住友銀行に持ち行き、東君に其保管を依頼し、學費はなるべくかさの低い樣に百弗紙幣ばかりにして請取り行員一同に對し暫しの別れの挨拶をすませて宿に歸り、晝食をすませ午後日米新聞社の明石恒三君が來訪されしも歸りの時を約し更に在米日本人會の瀧本爲三君來訪、私が大阪だと云ふので丁度ソートレーキ市には元大阪府立梅田高等女學



ドッグ・ヤードの前ルークスイハスルーガ、ヨスシンラフンサ

校に永年居られた合田龜太郎君が居るから是非遇つて行けとの話、同君とは深き親交はないがオールドボーイスの庭球會で時々一しよにやつたこともあるのだから必ず訪問して見ようと言つて同君のアドレスを聞く、少し時間は早いが五時すぎ日本食で晩餐を了へ五時五十分熊谷君に見送られて自動車にてフェーリーの停車場につき、互の健康を望みて堅き握手を以て訣れ、六時二十分桑港發海上三十分にしてオークランドなるソウザンパシフキツク線の起點より汽車に轉乘、豫定の通六時五十五分オークランドを發す、暫しは先日シャートルより此に來る時通過せし線を海岸に沿ひて進行し、ベニシヤの渡し場にて車内に點火されて黄昏となる、それより汽車は田舍の廣漠たる處を馳りつゝあるも、外面は暗ければ見るによしなし、屢〻喫煙室に行きて無聊に時を過す十時五分サクラメント市停車場につき五分間停車して又々進行を初めし故、定められたるスリーピングカーに入りベッドに就く。

八月十一日　（日曜日）　晴

眼が覺めたので窓のカーテンを上げて外を眺める汽車は今しもEleriston驛を通過した、時間を見ると七時、洗面後Reno驛に停車した時に食堂車に這入つて朝食を取る、寢臺車附のボーイも黑人であつが食堂車のウェーターも皆黑ん坊であつた、戰爭中全國に亙つて食糧を制限して居ると聞いて居つたが、今朝の食事はブレッドも黑パンやコーン（Corn）ので、殊に珈琲に入れる角砂糖ときては普通のものゝ三分の一位しかない小さいのを僅かに二片くれた計りであつた、食後は唯外面の景色を眺めるより外に用事もないがシ

ーラネバタ山脈は既に昨夜の間に越えてしまつて居るので、汽車が進めば進む程次第に樹木は皆無になつて、僅かに窪んだ濕地には少しばかりの綠草が見られるが其他は一望禿々なる所謂有名なネバタの原野で殆んど二三種に限られた異草がまばらに生えて居る丈けで實に其單調さと言つたらあき〳〵する、夫れも一時間や二時間であればトニカク、今日は終日こんな景色計りを眺めなければならぬ、日が登るにつれて車内も追々と蒸し暑くなる、十二時十分 Lovelock 驛にて晝食をとる爲め食堂車に入り、午後一時五十五分汽車は Imlay 驛に停車した、其前列車附のボーイがネキストディツボーで十分間停車するからと言つて居つたから汽車が止まるのを待つて直ぐ飛び下りたが、構内の一部に大きなポプラの樹が十二三本あつて其蔭は見るからに氣持ちのよい芝生である、そこに腰を下して煙草を吸ふて居ると日本人の勞働者が郵便物と新聞紙とを少しばかり持つてやつて來て今日はと聲をかけたから、私も「暑いデスネー」の言葉を最初としてしばらく此の邊の模樣を聞いたが、此の連中は鐵道線路修理の工夫である樣に思はれた、やがてコンダクターの注意で發車を知り日本人にわかれて列車に入る、五時頃までは隨分暑くて困つたが、日沒に近づくにつれ少しづつ涼氣も加はつたので七時三十分 Carlin 驛を通過する時食堂に入り夕食をとる、一つ此の沿線で氣がついたのは線路に沿ふて建てゝある電柱には桑港からの哩數が記入されてあつて一哩を三十四分して其處に電柱を建てゝあるので丁度三十五本目が一哩になつて居つたのは便宜な感じがした、午後十時 Wells 驛を通過したのでベッドに入る。

八月十二日（月曜日）晴　グレートソートレーキ市

ひよつと眼が覺めたので枕元なる電燈をつけて時計を見ると午前三時三十分である、未だ夜は明けて居ないがカーテンを上げて外を見ると、汽車はグレートソートレーキ（大鹽湖）邊を走つて居るらしいが又も眼を閉ぢ次に氣がついた時は夜は明けて五時であつた、一般乘客はカーテン深く垂れて眠つて居るが、私は湖水の景色を見る爲めに、服をつけて洗面の上喫煙室に出た時は有名な湖上を横斷せる三十哩の長橋を渡り終つて、今は築堤の上を馳つて居るが實に其廣大なのに驚いた、廣さは丁度日本の四國全體の面積と略同じ丈けあるそうだが湖邊の岩と言はず小石も砂も皆白色に塗られた樣な色をして居るのは全く鹽分が結晶してゐるらしい、かくて汽車は午前七時オクデン市の停車場に着十分間停車の上にて發車し開墾せられたる畑地の中を縱貫して午前八時ソートレーキ市の停車場に着せり。直ちにスートケースを提げて停車場を出で巡査に道を聞き徒歩して此處より六町計り距りたる日本人經營の小さいホテルに行く、こゝも桑港のと同じく帝國ホテルと云ふ名前、主人に案内せられてルームに入り早速二晩汽車で穢れた身をバスに這入つて洗ひ落し、下着を替へ暫時ルームで休憩して居ると、此のホテルの一室を事務所として洋服商を營める長崎縣立商業出身の米村君と云ふのが主人の紹介で訪問せられ、幸ひ今日は手すきなれば市内其他の案内をしてやらうとの棚から牡丹餅と云ふ格、早速日本人會事務所に行き、此處に附設されある國語學校に合田龜太郎君を訪ねたが午後三時頃でなくは來ないとのことで名刺を渡して傳言を依頼して出た、それ

より當地の名所と云ふよりも米國としての一名所たるモルモン宗の本山に行き其テンプルを見、更に一般参詣者の爲めに正午より開始せらるゝ音樂堂に入る、此建物の外觀は屋根が饅頭の如く圓形で丈けは低く何だか陰氣な感じがしたが、其堂内に入れば天井は高くして周圍に二階を備へ裕に六千人の聽衆を入るゝことを得ると云ふとである、一方の段上高くパイプオルガンのパイプが金色に規則正しく並列され、中央低き段上はオルガンを裝置せり、待つ間程なく入口にて渡されたるプログラムの順序によりてオルガニストの手によりて奏せられぬ、一度鍵盤に双手をふるれば、音の高低强弱共にパイプに通じて明瞭に聞え、弱き微かなる音の堂内に響く時はさながら蟲の音の如き靜けさを呈し又强き太き音に至りては百雷の一時に鳴りはためくが如く或は怒濤の巨巖に衝突したるかとも思はる。曲目は素より宗教的のものゝみなれば何となく悲哀の感情を起さしむ。特に此の建物は音の響きを强く明瞭に聞き得る樣工夫して建築されたる由にて、演奏の終りし時其奏者が一本の縫針を床上にワザと落して其音を一般聽衆に聞かしむるが例なる由にて、其日も形の如く之を行ひしが、十數間距りたる階上の一隅にある我々の耳にまで明瞭に聞えしは大に賞讃の價値ありき。約三十分にして堂を出でてライオンハウスに行く、此家は幅六間奥行二十間位なるものなるが、モルモン宗の開祖ジョセフ、スミスが生めよ殖えよ而して地に幸多かれと言つた敎旨を奉じ二代の管長ヤングが十八名の妾を蓄へたるとき此處に住まはせたる舊蹟にて、入口なる門の上には伏せるライオンの彫刻せられあるよりかく名づけられたるなるべし。これより市内に入り晝食をすまし、ユタ洲廳に行く此處は市の東北高地にて全市街を一望の下に俯瞰し得、遠く大鹽湖に續く平野の眺め甚だ可なり、廳内に入りて其構造の美を賞し、綠翠したゝらんばかりに、街路樹の繁れる美麗なる住宅區域を通りて公園に行き、プレーグラウンドを視察し午後四時ユニオンディツポーに近き停車場より汽車乘用、グレートソートレーキ畔の水泳場に行く、汽車が市内を離るれば見渡す限り渺茫たる湖邊の濕地にて汽車の進行につれて所々に湖水の漾へる所多く、一體に砂地は白色を呈す、遙か湖中

ソートレーキ市　テストーテ　オ　ブ　ユタ

ソートレーキ市内　モルモン本山
メゴカ・ーワタの

グレートソートレーキ市

の沖より電氣ポンプにて湖水を汲み上げ、木造の樋にて陸上に導き之を平坦なる鹽田に放流すれば水は蒸發して鹽分は次第〳〵に結晶し、さながら氷田の如くなる、其厚さは三尺以上に及べるものあり、數多の人夫は之を方形二尺位に切り出して貨車にて精鹽所に運搬しつゝありき、蓋し鹽分の含有量多きと大なる手數を要せずして食鹽を採取し得られ而も無盡藏なるに於て此の國天與の利得と言はざるべからず、此處の水泳場は全く湖中に大棧橋を設けて其上に大なるホールと廻廊とを建られたる一大浮樓にしてホールの階下は遊覧者の休憩所に、階上は數千人が同時に演じ得るダンシングホールとなり左右の廻廊は隨意湖上の風景を眺めつゝ散歩するに適せり、水泳場は其廻廊の内面深さ二尺より五尺位の湖面數町を劃し、附屬の脱衣場とシヤワーバースを兼ねたる小室數千あり、一定の料金を納めて此の處に入る、この日は氣温九十度位仲々の暑さなりし故記念のために一浴せんとて、米村君と共に水泳服を着て湖中に入りしが、其水温は日本の海水よりも冷たき感強きも物を浮揚する力の大なるは鹽分の含有量多く比重の大なるによるものにて、試に兩手を左右に上げ兩脚

ソートレーキ市モルモン本山のライオンハウス

を前に擧れば、何等の力何等の工夫を要せずして體は自然に仰向けに水上に浮き揚り得るを見ても之を證するに餘あり、折しも當場にて營業せる寫眞師が來りて記念の撮寫を希望するものは集つてくれとの注意でレンズの前に多くの白人の中に交り體を浮かせて撮影す、而して今のは今日の第二十八號だから寫眞の入用な方は後刻取りに來てくれ一枚五仙だと言つて彼方に行つてしまつた、餘り永く水中に居つて風邪にでも罹つては馬鹿らしいと思つて米村君を促して棧橋に上り、二町餘りの棧橋上を裸體のまゝで日光浴のつもりで駈歩で往復すれば、體の乾くと共に全身の毛に固着したる鹽分はよく結晶して一面白い粉を塗りたるが如くなりたるに驚く、淡水にてよく洗滌して服を着け寫眞屋に至れば十數分前に撮つたものは既にポストカードに出來上り居り其三四枚を求め日本人の雜貨店に休憩の上午後七時半先きの汽車にて市内に歸る、尚特に附記すべきは此の水泳場より約五哩計りの湖邊に一大鑛山のあるとにて高さ三千五百呎計りの一山全部銅鑛にて其含有量七十八%を示すと云ふ、鑛區は山容全體を階段狀に採掘したる樣明瞭に望見し得山麓即ち湖邊に數基の大煙

ソートレーキ市パークの動物園内の親子の象

筒の見ゆるは精煉所と首肯されたり、午後八時三十分帝國ホテルの近くなる靜岡屋と云ふ旗亭に入りて日本食をとり、將に歸宿せんとする際合田君來訪、奇遇を悅びつゝ相携へてホテルに歸り十二時まで快談惜しき名殘を留めて別れを告げ二三の書面を認め午前一時就眠。

八月十三日　（火曜日）　晴

前七時起床、沐浴休養九時より米村君と共に汽車の切符を其オフツスまで求めに行き、青葉の蔭涼しき並木の市街を散歩しユタホテルの建物を觀覽し繪葉書などを求め晝食の上歸宿、荷物の整理を了へてしばらく休憩、午後四時米村君の自動車にて送られてユニオンディツポーに行き、一盃のアイスクリームで喉をうるほし四時半米村君の好意を謝して此處を發車す、汽車は湖邊の畠地を馳りしが次第に山添に向ふ、六時五十四分 Thistle 驛を通過の時より食堂車に入りて晩餐をとる、この時より驟雨一時に來りて食後車内は大に涼氣となり心地よし、列車は次第に溪谷に入り流に添ふて遡ぼりつゝ右に左にうねり〳〵て、橋を渡り或は巨岩の下をくゞり或は隧道の中に入る等變化を見せつゝ進む、午後九時二十分 Helper 驛を過ぎてベツドに入る、汽車は今夜一山脈を横斷してコロラド河の上流 Green 河を渡り平坦な廣濶地を通過せしなれども睡眠中のことゝて其風光を眺め得ざりしは詮なきことゝいふべし。

八月十四日　（水曜日）　晴

七時十七分 Wolcott 驛に着して起床、八時四十五分 Minturn 驛にて食堂車に入る、このあたりより列車

第十二ページ

ハーバートンダム

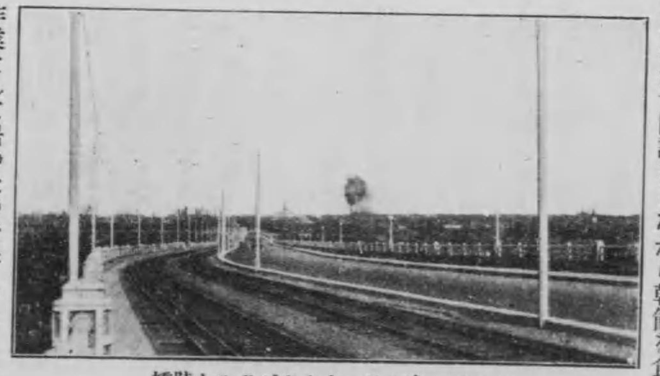
は又も溪谷に入り次第にロッキー山脈に向つて登りゆく十時三十分 Tennessee-Pass 驛を通過す、此の驛はロッキー山脈を横斷する線路中尤も高き地點にあり一萬呎を越え世界に於ける最高地點の停車場として米國人の誇とせる停車場なり、南北に秀麗なる二峯あり其鞍部に線路を設く、比較的廣かなる原野にて所々に高山植物も望見せらる、風景の稍見るべきものありし故、展望車より撮影せんものとのゴダツクを提げて其處に行けば一人のコンダクターは私に注意して曰く「今は戰時中にて沿道の風景を撮寫することを禁じられ居れば寫さないでおいてくれ」と言ふので止むなく中止す、幸ひ此の線路の風景ハガキを賣りに來たので二三を求めて直ちに認め十一時四十八分 Buens Vista 驛にて之を投函す、十二時三十五分 Salida 驛につきて食堂車に入り午後二時三十分此の線路中の絶景と稱され居る Royal Gorge の溪谷を通過しつゝ同四十五分汽車は全く谷を出て、キヤノン市に着此處には火藥製造所とも思はるゝ建物あり米國陸軍兵の衞兵として駐屯せるを見る、汽車は之より山麓の原野を東北に向つて進み、午後五時四十分コロラドスプリングを經、更に北に向つて走ること二時間半、右手に一望の平野を左手巍然たるロッキー山脈の障壁を望み見つゝ八時十五分今日の目的地たるデンヴアー驛に着し、米村君が認められし案内圖によりコロラド旅館に入り日本人經營の湯屋にて一浴の上三福亭にて日本食をとり十時宿に歸り、室を與へられて浴衣にかへ日誌などを認め就眠。

八月十五日（木曜日）晴　デンバー市

デンバー市

七時起床、Kitchen(臺所)に行くと此家を宿として居る數人の同胞勞働者が世間話をしながら朝飯を食べて居る、私も片方の椅子にかけると厨夫が一枚の燒き卵子を持つて來て呉れたので食卓に堆高く積んであるトーストを勝手に取つてコーヒーをすゝりながら朝飯を了つた、主人は不在と云ふので厨夫をして居る男が支配人も兼ねて居るらしい共れが青森縣人の湊稻雄君と云ふのをつれて來て今日は此の人に賴んで案内をして貰ふことにしたと言つて僕に紹介した、やがて自動車が來たと云ふので外に出ると未だ今朝が乘り初めとでも云ふ樣な新らしい自動車がついて居る、車上には一人の商人らしい白人が乘つて居る、湊君が僕を紹介したが此の白人は自動車販賣を營んで居るので今日は僕の案内をしつゝ二三の日本人農家を訪問して自動車を買ふことを勸めるのだと言つておつた。

最初當市内最高の建物だと云ふスミスビルディングに行きエレベーターで二十七階の頂上に昇つて市中を眼下に展望し此の市の地理的概念を作つた、昇るときに途中の室で揃ひの白衣を着けた婦人達が作業をして居つたので降るときに



デンバー市ステートキヤピタルと陸橋

其處に立ち寄つて見ると、當市内の上流婦人の有志者の集りで丁度日本の赤十字篤志看護婦人會とでも云ふ樣な風で即ち Red Cross Work. で繃帶材料を調製して居つたから之を觀覽し其處の主任者に依賴して共就業の狀況を寫眞に撮りて戸外に出で之より市の西北郊外に出で同胞の經營せる農園の一部を見て其規模の大仕掛なるに驚く、市内に引返して公園内のプレーグラウンドを巡り博物館前池畔の一旗亭に入りて晝食し、午後は市の郊外東南方の農場に行きて玉蜀黍の收穫狀況を見、更に西南より西方にかけて同胞の經營せるキャベツ Cabbage 畑に行き其 摘採りの活動狀態を視再び市内に歸り State Capital of Colorado. 州廳の建物を一週しつゝ觀覽し汽車の切符を求めて午後六時歸宿の上、湊君を誘ひ昨夜行きし三福亭にて夕飯を共にし七時ホテルに歸れば他出中なりし主人福島太郎君も歸宅されて不在中にて行屆かざりし旨を謝罪さる、しばし此の人より此の方面に於ける邦人發展の模樣を聽聞し荷物を取纒め九時湊君に送られてユニオン停車場に行き、市俄古大阪商船會社支店長堀氏にあて明後十七日午前七時バーリントン線にて着する旨打電しおき、別盃ならぬアイスクリームソーダにて喝を醫し九時四十五分發車す、今日は朝から自動車で馳り廻つたので餘程疲れを覺えた、列車に乘り込むと直ぐにベッドを作らせて就眠す。

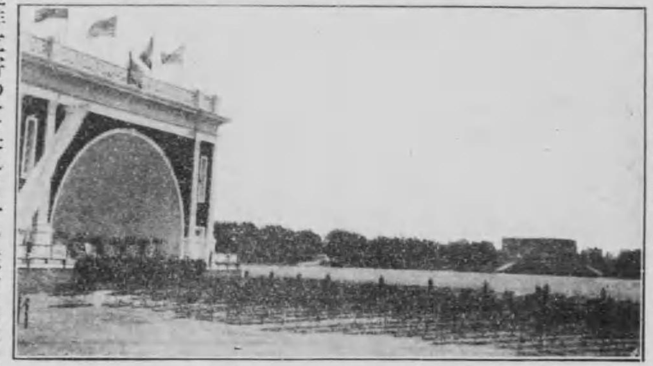
八月十六日 （金曜日） 晴

昨夜乘車してから貳百五十五哩を馳せて午前四時三十五分に McCook 驛に著くと今までの標準時 Mountain Time は Central Time に換つて午前六時五十分に時計を直さなければならぬが、丁度其頃は未だ白河夜

船で何も知らなかつた、眼が覺めて汽車が止つて居ることがわかつたので窓の側を見ると Axtell 驛と名が書いてあるので時間表に合せて時計を直し床を出で洗面の後、Milden 驛より朝食をとる、此邊一帶はロッキー山脈の東部ミシシッピー河の上流なる所謂米國の中央に位する廣漠たる大平野にして東西南北何れを眺むるも殆んど平々坦々とし何等の眼を遮る起伏もなく牧畜場多く、既に開墾せられたる畠地は概ね玉蜀黍をのみ栽培せり、車中は太陽の昇るにつれて時々刻々と暑氣加はり來れど、我が國の汽車中の如く不體裁なる行儀を爲すものも認めず午後一時二十分リンカーン Pincoln 市の停車場に五分間停車して更に東へと馳る、時しも市の上空には六個の軍用飛行船は入り亂れて航空練習を行へるさま是亦日本の航空界にては見られざる點なりき、發車と共に晝食を了りしが、午後の車内は一層暑さを加へ更に雨模樣に見えて蒸し暑きこと甚だしく幾度となくアイスウオーターを飲めば飲む程流汗淋漓、何時の間にか白人の男子も上衣を脱するものありし故例令婦人の居る車内とは云へ何の遠慮する必要あらんと上衣と短衣を脱ぎて涼を

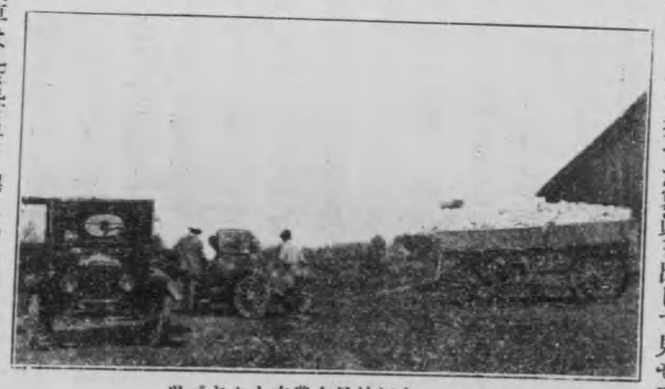
デンバー市ミスビルデイング内赤十字篤志婦人作業

納る、午後四時四十五分オマハ Omaha 驛に停車五分にして發車す、此處にて年齢三十恰好の白人の夫婦者が三歳位の女兒を伴ふて乘り込んで來て、私の隣の坐席に着いた、何處の國でも子供は天眞爛漫で可愛いものだが、この兒はとりわけ其容貌と云ひ房々としたゴールデンヘーヤ Golden Hair と云ひ天性の美容を保つて居るのでまるで人形共まゝ言葉を出すのが不思議なやうである、外國人である私に對しても別にはにかむ樣子もなく時々此方を向いて笑顏を見せるので可愛い感じが增す、ふと思ひ出してスーツケースから一本の小扇子を出し日本畫で極彩色の梅に鶯の書いたのを呉れてやつたら非常に喜んで鳥の名や木の名を兩親に聞き鶯を見てナイチンゲールと廻らぬ舌で發音して喜んで遊んで居つた、これが話の絲口となつて話相手が出來た、私に向つて先づ何處に行くかと聞くから、女子體育の視察旅行で先づシカゴに行く處だと云ふと、ワシントンにも來るかと云ふから來春一月下旬には必ず行く豫定だと話すと一枚の名刺をくれて是非立寄つて呉れ自分の住所は此處だと叮嚀に教えてくれた、次は何處に行つて來たかと聞くとイヤーロ



デンバー市の公園

ーストーンパークへ避暑に行つて居て今其歸り路だと言つて荷物から自分で撮つた寫眞を出して見せてくれたから、こちらもマウント、レニヤに登つた話をして其寫眞を見せて遣たりして時の過るのも忘れてしまつて居つた、午後七時四十五分 Cheston 驛に停車した、此處を發車したから食堂に行かうと思つて列車の後部へ渡つて行つたが慥か三つ目にあつた筈の食堂がない、次であつたかとトウ〳〵最後の展望車まで行つた、更に私の車に歸つてボーターの黑ん坊に聞くと、食堂車は先きの驛で取り去つてしまつたとのことで夕食は出來ぬことになつてしまつた、日本であれば大きな驛には辨當があるが此方では例令サンドウイツチ位あつても急行列車だから仲々驛には停車しないから一寸買ふわけにも行かぬ、止むなく持ち合せの水蜜桃三つと少量のキヤンデーで一時の間に合せ九時四十分 Charlston 驛を通過するのを見てベツドに入る。



デンバー市郊外日本農夫とキヤベツ

八月十七日　（土曜日）　雨後晴　市俄古著

窓をうつ嵐の音で眼が覺めた、時計を見ると午前一時二十六分汽車は Burlington 驛について居る、外は風も加はつて夕立が物すごく降つて居る、お蔭で車内も大層涼氣になつた。再び眼を閉ぢて佳境に入る、今朝は七時に市俄古驛に着するのだから餘り朝寢も出來ないと思つたが次に氣の附いたのが五時五十三分洗面後身仕度をする雨は未だ降り止まない、昨日一日中車中から眺めた平野とは異り都會近くの村落が續いて働きに出る男女が三々伍々と雨の中を急いで歩いてゐる、汽車は豫定より十分後れて市俄古の停車場についた、スーツケースを提げて乘客の出て行く方へとついて行くと長い〳〵プラツトホームから階段を登ると待合室に出た、昇降の乘客が充滿して居つて何れが出口やらも一寸見當がつかない、流石は米國第二の大都會の玄關口丈けで賑はしいものだ、一昨夜打電して依頼した商船支店の人が顏は知らないが來てくれては居ないかと思つて鵜の眼鷹の眼で搜して見るが日本人らしい顏色の變つたのは一人も居ない、たまにあゝと思つて見ると支那人だつたり、黑ん坊と白人の混血種である、やう〳〵一方の出口の處に來て街上の方を見渡してもこれも駄目、七時と云へば朝が早いのだから或は後れて來てくれるかも知れないと思つて再び待合室に這入つて賣店で市街地圖を購ふ、其寸際も出入口の方に注意して居るが一向見えない時間を見ると七時四十八分だ昨夜食堂列車取除けの一件で夕飯を食つて居ないから尙更空腹を感ずること夥多しい、先づ何をするにも空腹では駄目だと思つて驛前のレストラントに入り朝食（キヤンタローブ、オートミール、ハムエツグス、トースト、コーヒー）を食べたが實に旨かつた。これで元氣もついたので再び待合室に來て見て待つて居るが日本人は一人も見えない、時間は既に九時になつた、會社の出勤時間

は多分九時だらふから來てくれるものならばもう來そうなものだとこちら計りが思つて居つても仕方がない、最早此の方は絶望とあきらめて第二の策を採らなければならない、實は昨年大阪天王寺第五小學校長岡篤郎君が單獨で學事視察の途、此驛に着いた時丁度私の今の場合の樣に困難してトウ〳〵在市俄古日本人基督教青年會へ電話で依頼して迎ひに來て貰つたと聞いたのを思ひ出したので、いツそ私も其策を採らふと思つて待合室の一偶に自動電話室が三十計りも並んで居るので其一室に入りテレホンブツクを開いて先づ J の部を次に Japan の處に及び仔細に見ると Japanese Youngmens Christian Institute, Telephone Douglas 5820. 747 East 36 Street. とわかつたが、まづい發音で通ずるか知らん念の爲にアクセント丈けでも聞かうと思つて電話案内の一婦人にドーグラスの發音を尋ねて見たが變りはないのでこりや大丈夫と再び電話室に入り受話器を取り「ハロー」とやつたら交換手も「ハロー」とくる、そこで「ドーグラス・フアイブ・エイト・トウ・オープリーズ」とやると「オーライ」と言つた、しばらくすると「ワンニツクルプリーズ」と言ふからポツケトで用意のしてある五仙の白銅貨を穴に入れると、男の聲で「ハロー」と來た、其發音が正しく日本人らしいのでサーシメタと思つて「あなたは基督教青年會の方ですか」と日本語で聞くと「エーソーデス私は此方の主事をして居る島津と申します」と言はれたので早速語をついで不慣の日本人が今バーリントン線でデンヴアーから此の停車場に着いたが紹介されてあつた人が來て呉れないので御面倒だが迎ひに來て下さらないかと依頼すると、ヨロシイ實はシヤートルから今朝其處に着いた方があつて今其人を迎ひに行つて連れて歸つた處ですが、道が餘程距つて居るので四十分計りかゝるから見當り易い處におつて待つてくれとのこと、私は茶縞の服に麥稈帽子を被り短い鬚のある男ですと言つて電話を切つた、もう心配は不必要だ出口の好い場所を選んで煙草をふかして待つて居ると丁度十時前に日本人が二人で向ふから來られるので帽子を取つて合圖をすると先方も夫れが見付かつたと見えて小走りに私の側に來て「あなたでしたかとの言葉を第一として夫れから挨拶やら御禮やらを述べた、今朝此處に到着せられたと云ふ東京高商出身の柳澤君を紹介された、同君は紐育の三井物産へ赴任せらるゝ途中だそうである、そこで荷物は教會の方へ運ばせることにして貰つて島津君に連れられて徒歩して市俄古のダウンタウン即ち商業區域の中央最も繁華なる處に入りＹＭＣＡの本部に行つて島津君の用辨を終り、ミシガン湖邊の美術館前に出でレールオードビルディングに這入つてエレベーターで其八階に昇り大阪商船の支店のオフイツスを訪問すると、支店長は不在で山本三五七夫君と云ふのが應接してくれた、話しを聞くと山本君も大阪出身とのことで何となくなつかしい、堀支店長は先日シヤートル沖で坐礁した加奈陀丸の船長が自殺されたので其葬式の件や其他の社務を帶びて目下タコマに出張中とのこと、同氏が出發せられた後、私がソートレーキから出した依頼狀が到着して居るが親展とかいてあるから封も切れないし、昨日は電報も請取つたけれども餘り朝の着車が早いので出迎によう出なかつたとのこと、暫時休憩の後再び島津君に伴はれて柳澤君同道すぐ近くなるガスビルディングの八階目の日本領事館に行き、來栖領事は不在であつたが領事官補の姉齋準平君に挨

拶だけして商船支店に引返す、島津君は午後用事があるので私達二人の案内を山本君に依頼して置いて歸宅された、今日は幸ひ土曜日で會社も午後は休みであるので山本君と三人で外に出で先づ晝食を認め、柳澤君が明後日此處を出發して紐育に行くべき寢臺券ニューヨークセントラルレールオトドに買ひに行き、美術館前から乘合自動車でリンカーンパークの見物に出かけた、此の自動車は二階作りで上下共に三十人づつの席を有し無理をすれば八十人位は乘れ得る位のものであつた、リンカーンパークは市俄古第二の大公園でミシガン湖に沿ひ市の中央よりも西北にあたつて細長き地域を占領して居るが湖上の風景と公園全部の美的裝飾は互に相扶けて一種の快感は自然に起つて來る、一時間計り公園内を逍遙し再び自動車にて美術館前に歸り、暫時商船支店内にて休憩の上ダウンタウンの福州樓と云ふ支那料理店に行つて夕飯をとる。今夜市俄古大學構内 Emmons Blain Hall に於て同大學在留の東洋人の主催にかゝる演藝會があるから行かないかとのこと、又々山本君の案内で電車乘用イースト五十九町目まで行き、其ホールに着いた、今夜の會は留學生を中心として基督教青年會の催ふしらしく其入場料の上り金は全部米國赤十字事業に寄附をすると云ふことであつた、演藝の種類は獨唱、コーラス、ヴアイオリン獨奏、ピアノ獨彈其他種々のものがあつたが比律賓人と支那人と邏羅人が尤も多數を占めて居つた、中に日本人で今度此處の大學を好成績で卒業せられ近く日本に歸つて東京女子大學の社會學講座を擔任せらるゝと云ふ噂のある澁澤男爵の令姪高梨タカ子嬢と外二名の日本人とでジヤパンニースプレーと云ふ題目で高梨嬢は梅ケ枝一人の男子は梶原源太今人は和田に粉して月夜に離別する悲劇であつたが、高梨嬢は日本の派出な赤友染縮緬の振り袖に三枚重ねの草履を用ひ髷は島田に花簪をさし舞の一振りを演ぜられたが、それは着物の色彩が美はしいのと其舞踊が白人のダンスに比し柔かい曲線美に富んで居るので白人側には大喝采であつた、十時こゝを辭し山本君とは明日午後の再會を約して袂を別ち柳澤君と電車乘用イースト三十六町目で下車青年會に行く、當今は滯在者が多いので一人で一室を占領する譯に行かないとて臨時他の人の居る室に案内され十二時ベッドに入る。

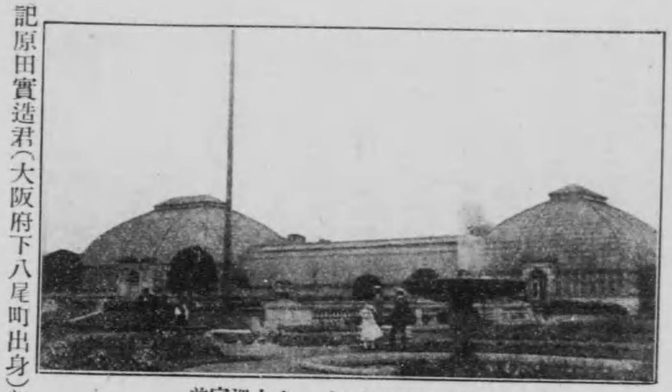
八月十八日（日曜日）晴

六時半起床、島津君に誘はれて半町計りで湖邊に出で朝の水浴を湖水で試み非常に爽快を感じた、七時半合圖の鈴で下の食堂に出る、會するもの三十餘名、多くは此の會館をホームとして市俄古で神聖なる勞働に從事し他日の成効を夢んで居る青年達で仲には私の樣な視察者もあるらしい、一同に島津君から紹介された、食事後はアラビヤ丸で同船したヴアヰオリンの研究者野口忠敬君とパーラーで一別以來の雜談に時を移し、取敢ず吾が樟蔭への通信を認めて出す、晝食後柳澤君と共に昨夜の五十九町目まで電車で行き此處で山本君と落ち合ひワシントンパークを散策して寫眞などを撮る、夫れより當市第一の公園ジヤクソンパークに入り湖邊に出で市民の水泳の狀況を見更に先年シカゴ大博覽會の際日本より建築せし御殿作りの建物の保存されあるを一覽し午後五時半山本君にわかれ、地圖をたよりに徒歩して三十六町目に歸り

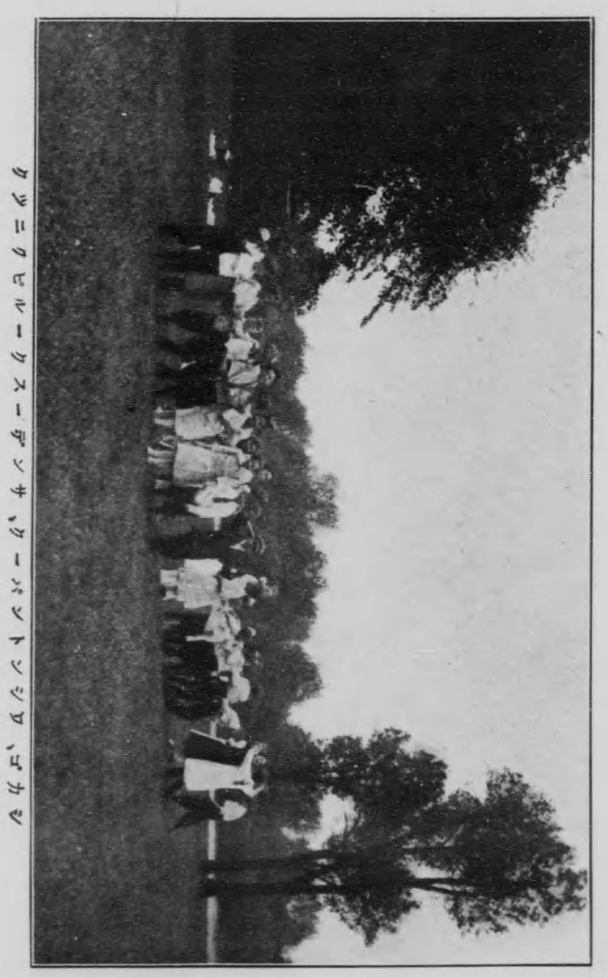
柳澤君と共に夕食、八時青年會に歸り島津君の室にて雜談の上十二時就眠。

八月十九日（月曜日）晴

六時半起床、昨朝の通ミシガンレーキへ水浴に行き朝食を了へ島津、柳澤の二君と大阪須賀商會より建築研究のため渡米の上、現に此の青年會に滯留中なる經塚茂一君（東京高工出身）と共にミシガンアベニューに行き、昨夜當市に到着せられた神戸市より派遣の市會議員諸君の到宿せるホテル Auditorium を訪問して專崎彌五平、丹下良太郎、福原芳治、白崎潤三の四君に會ひ相携へて領事館に行き來栖領事に面會し、紹介狀を受けて市役所衛生課長 Dr. Cooper を訪ひ下水に關する市の施設の概要を聞きて退出、附近のレストラントにて一同晝食し、午後イースト百三丁目まで電車乘用して行き新たに下水を排出する爲めに運河を改築中なる工事を一覽し午後六時一同青年會に歸り七時より當市日本人會の幹事諸君と晩餐を共にす、食後日本人會書記原田實造君（大阪府下八尾町出身）を島津君より紹介さる各自雜談に打ち興じて八時散會、日本に出すべ



シカゴワシントンパーク大溫室前
大阪商船山本君ニユウヨーク三井物産柳澤君



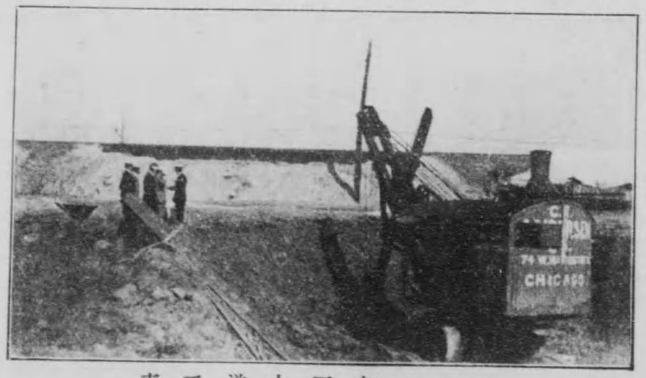
カツニクヒルークスーデンサ、クーパントンシワ、ぱカマ

シカゴ、ジャクソンパーク女子のゴルフ

き葉書など認めて十二時就眠。

八月二十日（火曜日）晴

六時起床、湖水の水浴昨日の如く朝食を了へて經塚君と共に三十六町目のステーションより汽車乘用十二町目まで行き、神戸の一行のホテルを訪問原田日本人會書記の案内にて市役所の土木課に行き市の土木施設に關する説明を聞き一同退出し支那料理店に入りて晝食し、午後再び市役所に行き公園課を訪ねてプレーグラウンド係の主任なるMr. Grossの説明を聞く、當シカゴ市には七個の大公園と（内ジヤクソン、ワシントンリンカーンの三大公園はイリノイス洲の管轄に屬す）六十九個の小公園とを有し何れも一般公衆の運動娯樂の用に供せるものにて其數に於ても將又其施設の點に於ても米國の都市中第一と稱せらる、特に我等の爲めに市役所より提供せられたる自動車二輛に分乘しグロース君の案内にてミシガン湖畔のMunicipal Pier（市立棧橋）に行く、其規模の廣大なる流石に驚かざるを得ざりき、棧橋の幅員約一町長さは半哩湖中へ突出し中央は幅二十間位のコンクリートの大道路を作り兩側には

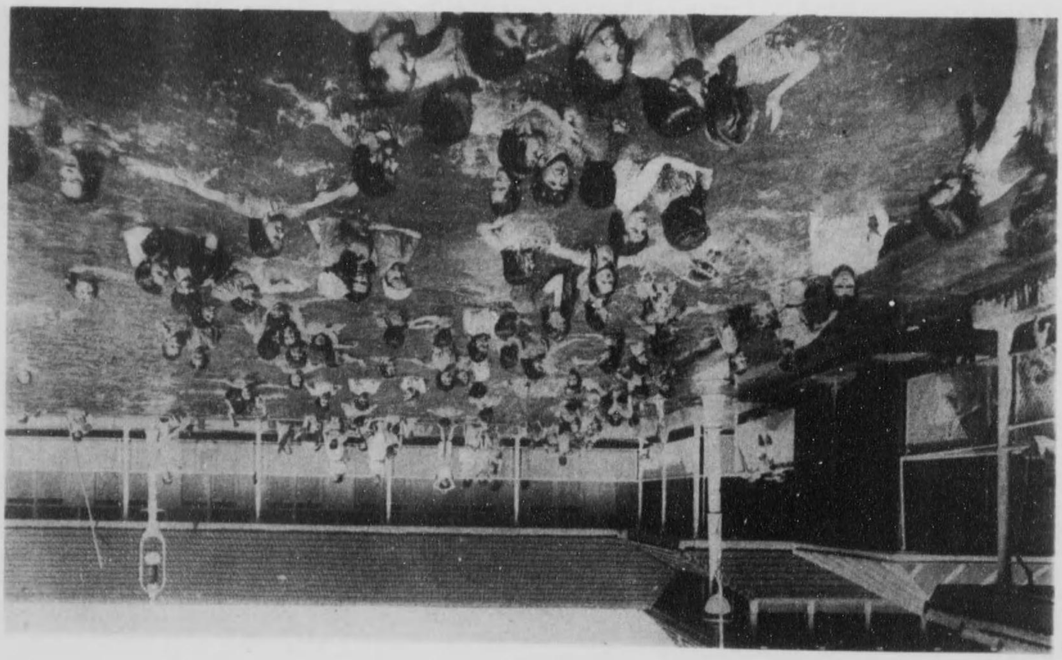


シカゴ市下水道工事

鐵骨二階建にて長さ半哩の倉庫が並列され、其の二階の外側には電車を附設し、更に棧橋の尖端には五階作りの高樓と其の中央には二階建の大ホールを設け其最上部をダンシングホールとして優に五千人を踊らしむるの廣さを有し一は物貨の集散と一は市民の納涼的娯樂場として建設されたるものにて實に米國人の大きなことを好むその本領を發揮せるを認めざるを得ざりき、我が一行の此處に行きし時は東部に屬する倉庫は全部ミシガン湖を護衛せる米國海軍の臨時兵舍として使用する外山の如き軍需品の貯藏さるを見たり。

これよりリンカーンパークを過ぎて市の西部湖邊に設けられたる市設水泳場（クラーレンドンミュニシパルバツシングビーチ）Clarendon Municipal Bathing Bench. に行き數千の男女が嬉々として遊泳せるさまを見更らに脫衣場、衣服保管室、浴衣の洗濯室、及び乾燥場等を一巡し終り之れより市の西南部に廻はりて小學校と プレーグラウンドを一つの場所に施設せるモザートパビリツクスクール、Mozart Public School 及ドーグラスパークジムナジアム Donglas Park Gymnsium. 二個所を參觀せしが今は暑中休暇にて學校の課業はなく從つて校舍は閉銷しあるも其運動場には男女別々に體育專門の監督を置き附近より集まり來れる兒童を指導せるを見たり、次ぎはエクハートパーク Eckhart Park といふ小公園に行きしが此處には三層作りの建物ありて Field house と名づけ內部には男女の體操室と之に屬する浴室あり階上には通俗圖書館及集會場を設け、其建物の附近にはベースボール用グラウンド及テニスコートを備へ更に其一方を區劃して人

シカゴ・ドーグラスパークなるジムナジアム



シカゴ・エクハードパークなるナタトリユム

（二七〇-二三頁）

ムトヤマ ヤスオ ノ ヒ ゴードゴー ノ ロ ヒ・ガ ヲ ル

氷水の畔湖ンガシミ出ニカミ

造石を以て疊める廣さ三百坪位の楕圓形のスイミングタンクを有し淨水を湛へて女兒をして水泳を爲さしめつゝあるを見、更に此れに近く設けられたる市設無料入浴場 Public bath の内部を視てホテルオージトリユムに歸りてバーに入り案内役たりしミスター、グロースの勞を犒ふ、同君は東京高師教授永井道明氏が先年體育研究の爲め米國に滯留中或る夏期講習會に於て共に學びしことありきと語りて同氏の近狀につき質問せし故、今は我が日本に於ける學校體操のオーソリテイーとして東京のノーマルカーレージにある由を話しなどし一行とわかれ經塚君と共に汽車乘用青年會に歸り珍らしや日本の團子の御馳走に舌鼓をうつて夕食を了り館員と雜談を交へて時を過し一浴の上十二時就眠。

八月二十一日（水曜日）晴

六時半起床、例によつて湖水で泳ぎ七時朝食の上今日は自分單獨にてホテルオージトリユムに行き神戸市の一行を訪ね、昨日と同じく原田君の案内にて商業會議所に至り會頭 Mr. Pason に遇ひ次は更に市役所内の消防課に行きて市の消防施設の大略を聞きて市會議事堂の内部を一覽して退出、支那料理店にて晝食をとり、此處より自動車を雇ひ、市俄古の一名所として此市に來るものゝ必ず參觀すべき場所たるシアース、ローバツク Sears. Roebuck に行く、此處の營業法は一種獨特の者にてメールオーダー Mail Order 即ち通信販賣法に據るものにて世界一の稱あり店員の案内にて館内を觀覽せしが其規模の大仕掛にして而も秩序整然たるは文明國の一大商業法として確に賞賛の價値あるを認めたり、今其營業法の概略を記さば、普

通行はるゝデパートメントストアの如く各種の商品を陳列し顧客は隨意に其現品を觀察し欲する所のものを購求する方法とは全く異なり、第一此の商店は注文者に對して最初より充分の信用を以て遇し更に注文主も此の商會を信用し双方の信用より成立せるものにて、顧客は其商會より發行せる商品目錄の定價表に基づき、其欲する物品を唯壹通の注文書に依りて其注文者の意に添ふべき物品を直ちに注文者に向け發送するものにて全く公德心の試驗の如き販賣法なるが、而も其販賣品の種類は米國生活に必要なる物品を大小となく之を網羅して製作販賣せり(但し飲食物の或る部分を除きて)今其購賣法の一例を擧ぐれば私自身が背廣を一着購はんとせば此商會の規定せる方法により自己の身體各部の寸法を認めキヤタログによりて其地質及縞柄の選擇を行ひ(表裏共)第何號の品にてと記して書面にて注文せば、商會にては其書面の到着するや檢閲係の手にて開封し何品の注文なるかを檢して之を洋服部に送る、さすれば洋服部にては夫れが男子か女子か大人か小兒なるかを調べて之を男子部に廻せば此處にてオーバコートなるか他品なるかを更に調査して背廣部に廻さる、而して背廣部にては其注文書の縞柄にて既に數百組となく大小長短各種の寸法によりて一々番號即ちサイヅの順に貯藏せる現品の倉庫にて其寸法に符合するものを取り出し、萬一或る部分が僅かに寸法に相違せる點あらば之を修理場に送りて之を注文書と符合する樣に作り直し、之を荷作り係の手にて包裝を施し、其受取人の住所を記入すれば自動運搬器によりて之を階下の荷物發送係に廻送せば、商會内に特設せられたる郵便局にて之を小包郵便として發送の手續を行ひ、直ちに地下室に入りて此處に設けられたる貨物積込專用の停車場より其地方別によりて貨車に積み込み毎日一定の時間に於て十數回發車せる汽車にて之を輸送する仕組にして實に其執務の分業法と云ひ整然として而も迅速叮嚀なるはたゞ驚くの外なかりしが、獨り此の商業に限らず萬事に就いて學ぶべき點の多かりしを覺えたり、約二時間を費して各部の說明を受け、參觀記念として商品目錄を貰ひ午後五時辭して一同とホテルに歸り更に私は汽車にて青年會に歸る、夕食後本日來宿せし寺本九兵衞君(東大法科出身)を島津君より紹介さる、葉書を認めて十二時就眠。

八月二十二日　(木曜日)　晴

六時半起床、例によつて寺本君も加はり湖水にて水泳朝食後島津寺本の二君と同伴して昨夜到着せられし京都醫科大學教授松下禎二博士東京府高工教授水津嘉一郎及び東京の現物賣買商望月君の宿所を訪問し相携へて市役所の衞生課に行き神戸市會議員の一行をも誘ひ出し、之も當市の一名所なる大屠牛場、ユニオンストツクヤードを觀覽するにつき衞生課長ドクター、クーパーに斡旋を依賴す、戰爭開始前までは誰人にても差支なく參觀し得しも、米國が大戰に參加してより以來軍用糧食の製造を爲せると殊に一ヶ月前に於て或る獨探がこの工場にダイナマイトを裝置して之を破壞せんと企てしことありしとかにて現今は容易に其觀覽を許さゞる由なりしも同課長の配慮により社長に交渉の結果特別を以て許可さるゝとなり衞生課の一員に導かれ市より提供の自動車二輛に分乘して十一時ストツクヤードの事務所に着し、更に社員

の附添にて最初方約一哩の地面に多數の埒を以て小區劃を施しこゝに各地より鐵道によりて輸送されたる牛、豚、羊の溜り場即ち Yards を約一時間を要して其大體を巡覽す、此の構内は縱横に多數のレールを敷設し貨車の出入に便し而も高架鐵道さえ其中を通じたる所なりき、一應事務室の樓上に案内せられ其食堂にて晝餐の饗をうく、其料理の中にローストビーフの一皿がありしが、流石は屠牛の本場にて而も其品質を精選して料理せられたることゝて、其肉の柔かさといひ、其味の美なるといひ、一同舌皷をうち賞讃しつゝ食事をとる、午後一時よりヤードと別區劃をなして建てられたる立派なる幾棟かの屠撲場の或る建物に入る、最初の室は屠牛場にて、ヤードより順次に運ばれて來た牛が室外より二頭づつ一つの門を潛つて（外部よりは室の内部が見えないやうに出來て居る）這入つて來ると其處が丁度八尺四方位の廣さで高さ六尺位の一つの箱のやうな構造になつて居つて、其一方壁になつて居る方の一段高い處に獰猛な顏附をして筋骨逞しい壯漢が大きな玄斧を持つて立つて居る、牛が其箱の中に來ると、其壯漢は玄斧を振り上げて一頭の牛の眼間を一擊すると、擊たれた牛はウンともスンとも言はずに其箱の中に顚倒する其中に又他の一頭も同く一擊の下に倒されると、壁の反對側の箱の一側を成せる板が外方に向つて開くと同時に二頭の牛を乘せた箱の床板の一方が發條仕掛であるのでボンと上がると二頭の牛は足をビン〳〵振るはせながら工場側の敷石の上にころがつて出て來ると、待ちうけて居る二人の壯漢は、鐵鎖で後と足の一つを縛ると機械力で、牛は忽ち逆さに吊り下げられる、そうして其鐵鎖は牛を下げたまゝ絶えず一方へ移動して行く樣な仕掛になつて居るので、ずん〳〵と他の一方に運ばれる、すると今度は胸から下一面に血だらけになつて皮製の長い前掛に長靴を穿ちよく砥がれたる大きなナイフを持つて立つて居る男が、牛の頸動脈に其ナイフをブツリと刺し込むと、血は瀧の如くに迸り出でつゝ次に運ばれ一定の時間血が大體流れ出てしまつた位の處に行くと、頭部殊に顏面の一部にナイフを入れ其皮を剝ぐ準備をするもの、次に兩前脚、次に兩後足を縱にナイフを入れる、次から次ぎえと運ばれて行く間に、腹部を縱に切開するもの、其内臟を取り出すもの各分業的に其部分〳〵を別に取り出して之を仕別け、或は頭部を切斷し次は全部の皮を剝ぎ、胴と脚とを分離し胴は脊骨を縱に鋸を入れて兩分すると云ふやうに順次小さくされて最後に消毒室に運ばれ、其終りたるものは階下に下つて冷藏庫内に順序正しく番號順に吊り下げられ一定の時間此處にて冷却されれば直ちに食用の生肉として市場に賣り出さるゝもあり、或は他の工場に運ばれて鑵詰にさるゝ等あり、而して其屠殺されたる肉片には各部共一定の番號を押捺し、更に一頭毎に頭部を切開して腦漿を專門獸醫の手にて嚴密に檢査を施し、若し病毒を持てるものは其肉其内臟全部に食用に適せざるものとして他の工場に移さるゝ等密綿を極めたり、豚や羊は大體牛と同樣の手段方法にて屠殺するも牛よりも簡單にして之れ等はヤードより運ばれて來る途中一定の場所にて鐵鎖にて片足を縛られ、屠殺場に來れば生きながらに吊り下げられ直ちに頸動脈を切られ、ビー〳〵と聲を立てること二三分間ともかゝらない中に息の音は絶えてしまふらしい、が何れにしても其殘酷なことは物に譬へることが出來ない、我々が希望して居つた鑵詰

工場の方は陸軍大臣の許可がなくてはドウしても見せることが出來ぬと云ふとで其かわりに Batter バタ製造の順序を一通り見せてくれたが、此處は直ちに食用に供する物品のことゝて、其室内に於ける裝置といひ從業員の服裝と云ひ屠殺場には比べものにならない清潔で實に氣持ちよく感じた。

之を要するに屠撲と云ふことは、素より殘酷極まつた仕事で、之を見て其殘忍な有樣に驚いたよりも、それ以上に機械力の多く利用されてあることに驚いた。

今は鑵詰を多量に製造する爲めに毎日三萬頭を潰して居るとのことだつたが、此れに使用されて居る人は總計三千五百人と云ふことであつた、一體此處では單に畜類を潰すばかりではなく、畜類の買入れから生肉の賣捌きから、バタの製造、又は其肉を鑵詰にまでするのであるから使用人一人で約八頭餘りの畜類を買入れて其れを殺して其一部分を鑵詰にまでするといふことになる、斯かる大仕事は機械力の大なる助けがなくては出來ることではない。

此處を觀覽した人の感じは大體一樣であらうが、文學博士吉田熊次氏は其著米國の教育に左の如く書かれて居る。

『僕は此屠殺場を出るとき今度は絶對に二度と此處を見まいと決心した、恐らく僕の決心を翻すことはない、併し考へて見るとユニオンストツクヤードは米國式の文明を最もよく發揮して居る殺風景な、殘忍な機械的な、活動的な所は米國式の活動の特質といつてもよからう、斯かる文明は美術的ではなく、人の好む所でもないが、次第に世界を支配する力を有つに至るかもしれぬ』と言つて居られるが私も同じ感が起つた。

午後三時半こゝを出て高架電車を利用して三十九町目のミシガン湖畔に出で、此處に設けられたるポンピングステーション（市内一部の下水をこゝに集め湖の水を之に加へて稀薄にしポンプの作用によりて流失の速度を加へて他の管より市外の運河へ放流する裝置あり）に行き其構造の大體につき説明をうけ青年會館に歸り一浴の上夕食、湖邊を散歩して涼を納れ十一時就眠。

八月二十三日　（金曜日）　晴

六時起床、湖水に浴し朝食後九時より島津寺本の二君と昨日同樣松下博士を訪問、長崎醫專の中山君も同道市役所衛生課に行き昨日の好意を謝し課員 Dr. S. L. Zeltner の案内にて自動車乘用市立傳染病研究所及其附屬病院を參觀し次いで州立施療病院及死體收容所等を視、附近にて晝食し案内役のドクターとわかれ、電車乘用市俄古大學に行き病理實驗室細菌實驗室を見て其附近にて有名なる癌腫の病理研究所に行き其研究に使用する爲め飼養せる二萬餘りの二十日鼠につき説明を受く、午後七時より京大醫科出身者にて當大學に留學中なる諸氏の主催にかゝる松下博士歡迎晩餐會の席末を汚し、九時半寺本君と青年會に歸り日本茶の饗をうけ島津君夫妻と雜談の上十一時就眠。

八月二十四日　（土曜日）　晴

市俄古滯在

六時半起床、水浴朝食後九時より昨日の如く五人にて松下博士のホテルに行き、水津望月中山氏等と取引所を參觀しマーシヤルフヰルドに行く此處は市俄古第一のデパートメントストアにして街路を距てゝ大小貳個の建物より成れるも地下に於て双方相連絡し居り其商品の秩序正しく分類されて各階に陳列せらるゝ樣、到底我が國のデパートメントストアと比すべくもあらず數多のエレベーターを利用して各階を巡覽し次ぎは市立圖書館を參觀し晝食後美術館に入り一同相携へて青年會館に歸り午後六時一同會食の上八時より水津氏は其專門たる色の應用と題し松下博士は人生問題につき各一場の講演あり十一時閉會茶菓の饗を受け十二時就眠。

八月二十五日　（日曜日）　晴

六時起床、湖水にて泳ぎ朝食後日本より來れる新聞紙など讀む、在市俄古の日本人にて昨日死亡せし宮城縣人佐藤某の葬儀のある由にて島津君は其司會者として行かるゝので、幸ひ休日で遊んで居る館員と共に十時より會葬の爲め西南方のチャーチに行き式後會の龜德君と共に六十三町目ホワイトシチーに行き今日特に此處で催ふさるゝ露國の Slovak Branch と言つて新らしく建設された露國民の集りがあつて戰爭の資金に寄附する爲めの演藝會があつたので之を見に行き、歸途支那料理屋で夕食し三十九町目の活動寫眞小屋を一寸のぞいて見た、此の邊一體は知識階級の住宅地でないので觀覽者も勞働者が多く其映畫も大分野卑なものが多かつた、就中活人畫があつたが之は全く一婦人が舞臺の上に純裸體で立つて、ほんの申譯に至極薄い紗の樣なものを腰部に纏つて居るだけであつたが、こんなことは到底日本では見られない圖であつた、九時半會館に歸る島津君から出島忠夫君と白人の令閨とを紹介された、同君は大阪市出身にて多年當地に在住して商業に從事せらるゝとのこと、しばしは大阪の話で花が咲き再會を約して十一時歸られた一浴の上十二時就眠。

シカゴカウンテイホスピタルにおける松下博士一行

八月二十六日　（月曜日）　晴

朝六時起床、湖水に行き朝食後、雜誌國民體育へ寄稿の原稿を書く、午後は外出を見合せて今夜の幻燈講演に使用すべき寫眞の整理をなす、夕食後午後七時半から階下の集會場で幸ひ持ち合せておつた日本アルプス方面及びマウント、レニアの寫眞について反射幻燈を利用して在館者の爲めに登山趣味蛾吹の一場の話をした、十一時半閉會、松下水津望月の三氏は明日紐育に向け出發さるゝので挨拶に來られたので又一時間計りお相手をなし十二時就眠。

八月二十七日　（火曜日）　晴

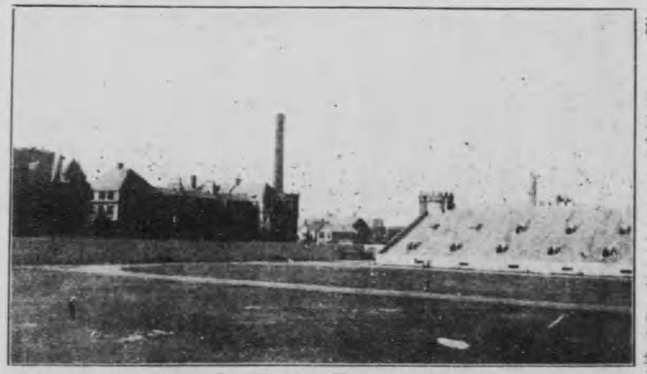
市俄古滯在

六時半起床、例によりミシガン湖に水泳朝食、九時より市俄古大學在學中なる東京高師體育科出身大谷武一君を訪問し、小憩の上同大學の運動場即ちスタヂアムを視る一方には鐵筋コンクリートのスタンドありて野球或はフツトボール等の競技場たり、更に其一側にある體操教室即ちギムナジアムに入りて其設備を參觀し同君の好意を謝して辭し歸宿晝食の上午後は今朝當地へ着せられたる早稲田工科出身なる杉浦君を同伴し再び市俄古大學附近に至り、私が横濱より同船而も同室にて渡米せし爲田朝一郎君を訪ひ、お互に一別以來の行動と經過等について雜談を交へ明日の午後を約して夕方辭して歸館、夜は寺本君より布哇の事情につき話を聞き十一時就眠。

シカゴワシントンパークにおける松下博士と留學生諸君

八月二十八日（水曜日）晴

六時起床、水浴例の通、朝食後商船支店の山本君より電話あり本日午前中に堀支店長が本社より派遣の中村榮造君と共にタコマより到着するとの知らせがあつたので、早速同社に行つて待つて居つたが一向に歸つて來ない丁度正午まで辛抱して山本君を煩はして堀氏の宅に電話で尋ねると午前十一時に歸宅したが會社には寄らなかつたので失禮したとのことで明日を約して山本君とカフテリアにて晝食し、マーシヤルフヰルドにて買物を爲し一旦歸宿、杉浦君同道爲田君を訪問し、大學内の大講堂、圖書館食堂、學生倶樂部等の内部を參觀し奈良女高師石野又吉教授より紹介されたる當大學の物理科に教鞭を採られつゝある石田教授を其實驗室に訪ね、特に暗室裝置に關して同大學の施設を質問し五時歸宿、本日晩餐の招待をうけたる出島君の宅へ島津君同道にて行く、同君の宅は市の中央部よりも西南に當り青年會館からは電車乘用の上乘り換を三度丁度一時間餘を費したが比較的閑靜な住宅地であつた、特に令閨が我々の爲めに料理された數々の馳走をうんと食べ、食後は米國の育兒上に於ける令閨の經驗談を聞き之に關する參考品及び一般婦人の服裝特に下着ウエストの如きものゝ蒐集方法を依頼して十一時辭し十二時會館に歸る。



シカゴ大學スタジアム

八月二十九日（木曜日）晴

六時起床、例によつて水泳朝食後新聞を閲讀し九時半より商船支店に行き堀、中村兩氏に會ひ加奈陀丸坐

礁より山本船長の死去に至るまでの顚末につきての話を聞き、中村山本の二氏と支那料理店にて晝食を爲し、兩氏にわかれ單獨にてマーシャルフイルドに入りて先づ市内重なる個所の繪葉書を求めゆる〳〵各部の狀況を見、特に玩具部なる物品の多くは日本製なるに驚きしが、一時的の營利にのみ汲々とせる我が國の商品は共信用を永續し得るや否やを思へば今後の海外貿易に從事する當路者の最大注意を要するを覺えたり、これよりリンカーンパーク内を逍遙して寫眞などを撮り午後五時更に商船支店に行き中村氏の招待を受けてミシガンアヘニユウのホテル、ブラツクストーンにて山本君と共に晩餐の饗をうけて寄席をのぞいて十時兩人とわかれ會館に歸る。

八月三十日　（金曜日）　雨後晴

七時起床、今日は久方ぶりで雨降りになつたので外出を見合せ、朝食後は荷物の整理に費す、午後幸ひ晴れて來たので寺本君同伴商船支店に行き山本君の案内でハルハウス Ahll House に行く、こゝは千八百八十九年（今より二十九年前）に創設せられたる Settlement で米國に於ける有名な社會的教育事業の一つである、セトルメントと云ふ語の意味は殖民とか授産とか云ふ意を含むで居るが、此處は貧民の居住する地方に宗教家とか教育家とかが居住して貧民に接近して、彼等を向上せしめやうとすることを云ふのである、現在は市俄古市丈けにでも此の種のものが三十餘個所もあるそうだが、就中此のハルハウスは尤も有名である刺を通じて女事務員の案内で參觀したが、建物は煉瓦作りの四階建が五棟あつて本館には大きな食堂もあり、二階三階四階には教室、自習室、倶樂部や大講堂もあつた、次ぎに續いて男女別々の寄宿舍がありこ處には應接室もついて居つた別の棟には織物博物館とも云ふべきものがあつて女子の仕事の一つである織物に關する歴史的變遷を實際の仕事によつて知らせるやうにしてあつた、之に引續いて浴室體操室圖書室及婦人の倶樂部等があり、更に隣りの建物は哺乳兒より初まつて六歳位までの男女兒を養育して居る育兒院のやうなものがあつた、此の建物にも圖書室遊戯場、植物濕室、浴室、食堂等も皆備つて居つた更に別陳には小鐵工場の如き場所があつてこゝでは實際の補習教育をやつて居るらしい、要するに斯の事業は頗る繁雜で、公開講演、社交會、補習教育、少年倶樂部、英語の夜學科、料理法實習、裁縫、製帽等の技藝科音樂會、幼兒哺育等でかゝる事業が婦人の手によりて經營せられて社會の爲めに貢献しつゝある點に至つては米國が他國に冠絶して居る特質の一つと言つてよいと思つた。

午後四時辭して山本君と途中でわかれ、歸途サウスワバーシュアベニュー South Wabash Avenue にある Gymnastic Normal School 體操師範學校に寄つて見た、素より夏休み中だから先生は居ないが、一事務員の案内で體操教室や普通教室其他一般の設備を參觀し、學校案内及本年度卒業生の寫眞帖等を貰ひ二三の參考書を購ひて辭し、又々商船會社支店に行き例の二人と支那料理店にて夕食し、ミンガンセントラル停車場に行きて明日の汽車の乘車券及寢臺券を求め十二町目の停車場より汽車にて會館に歸り一浴して十一時就眠。

市俄古出發

八月三十一日（土曜日）晴　市俄古出發

六時起床、ミシガン湖に入りて水泳の名殘を惜しみ、朝食後島津氏と共に郵便本局に行きて日本への小包郵便物を差出し、更に市教育課に行きて年報を貰ひうけ、同君とわかれ、領事館に行きて滞留中の好意を謝し更に商船支店に立寄り同様の謝辭を述べ、途中晝食の上散髪をすませて會館に歸り、荷作りしてエキスプレスを呼びて之を出し沐浴の上夕食、島津君夫妻、菅、龜徳の二幹事等に挨拶の上經塚君に送られて三十六町目の停車場より十二町目の出發點まで行く、幸ひ伊太利大使館へ赴任の途なる外交官補松下裕次郎君も此の列車で紐育へ行かれるとのことで領事官の姉齒氏より紹介され共に乘車して午後八時　見送くられた二氏とわかれて汽車は東に向つて發車した、五十七町目のステーションで中村榮造氏が乘り込まれた、同氏は態々私が米國の旅慣れぬことに同情して下されてナイアガラの見物を終へてバハローからボストンに向つて出立するまで送つてやらうとの御好意、何と感謝してよいかわからない、三人はしばし喫煙室で雜談の上各々ベツトに這入つた。

九月一日（月曜日）晴　ナイアガラ瀑布

この汽車は昨夜の中に自動車製造を以て米國第一否世界第一の稱あるデトロイト Detroit 市を過ぎ、それより英領加奈陀に入りレーキ、エリー Lake Erie の北崖に沿ひて東に馳りつゝあるのであつたが、眼が覺めたのが六時半、早速洗面して喫煙室から眺めて居ると、丁度七時三十分に汽車はナイアガラ Niagara Falls 瀑布の下流に架つて居る鐵橋を渡り初めた、こゝから瀑布の一部分が遠望され其邊一帶の風景が、市俄古までに見て來た鐵道沿線とは比較にならぬ好い感じが起る、汽車は橋より南即ち米國の領分に入り八時十分ナイアガラフールス、即ち瀑布のある停車場に着いた、本來ならば此處で下車して見物を了へ更にこゝから何れの方面へでも出發するのだが、今は戰時中で途中下車を許さないのと荷物等の關係もあつたので終にこゝには下車しないで更に二つの驛を過ぎて午前九時バハロー Buffalo 驛に着、ケース丈けを提げて近傍なるホテル Porter に行き、部屋があるかと聞くと、明日當地に某大會があるので多數の人が方々から集つて來て居つて客室は全部塞がつて居るといふ有樣、止むなく手荷物だけをチョツタして兎に角食堂に這入て朝食をとる、するとそこへ一人の日本人が來られ、丁度私が日本語で中村君と話して居るのを傍から聞て居られたと見えてあなた方は日本の方ですかと聞かれて實は私も今朝此市についたのですが室が無いと云ふので兎に角食事を終つた處です、これからナイアガラの御見物ならば御同行が願はれないでしようかと言つて名刺を出して交換すると農商務省臨時産業調査局黒田修三とかいてあつた紐育を經て歐洲に行かゝるとの話、そこで三人は私のボストン行、黒田君の紐育行、中村君の加奈陀のモントリール行の汽車の切符を求めに停車場に行く、黒田君と私の分とはよかつたが、中村君の分は午後にならないと寢臺車の方の都合がわからないと云ふので、先づナイアガラから見物をすまさうと言つて觀覽連絡電車で正午バハローを出てナイアガラ町に下車、中村氏の案内で尤も手近なアメリカ瀧の一角に立つて所謂世界一の瀑布

を眺め、其餘りに大なるに驚いた、更にエレベーターにて瀧の側を下に降り、瀧の下より上を眺め、其處に居合せた白人を頼んで、私等三人が瀧を背景に斷崖の一角に立つて記念寫眞を撮つた、今度は又候上に昇つて對岸即ち英領の方に行かうとのことで瀑布の下流に架けてある橋の詰に行くと見張所があつて、此處を通行する外國人は一々調べてゞないと橋を渡らせない、そこへ三人が這入つて行くと見張の役人は日本語でオハヨーなんかと戯談を言つて居る。而して各自のパスポートを示すと一枚づつの小さい書附けをくれた、それを持つて對岸の橋詰に行くと英國側の見張所があつて先きにくれた書附を渡していよ〳〵加奈陀の地を踏んだわけである、そこには一軒のホテルがあつて其附近一帶は立派な芝生の公園であるので私共三人は腰を下ろして暫時休憩し中村君と私と二人居る所を黒田君の手によつてコダツクに入れ、これから加奈陀瀧の方を充分見物しようとしたが目下水力電氣の工事中で多くの加奈陀兵が之を護衛しておつてたゞ廻遊電車に乘つたまゝ瀧の手前まで行つて引返す樣なことで近づくことの出來なかつたのは止むなきことであつた、これよりホテルの前を通り電車で加奈陀側の斷崖の上を下流に向つて三哩計りも下り更らに之れより電車は吊橋を渡つて米國側の岸に沿ひ今度は瀑布の下流而も氷際に沿ふて作られたる線路によりて逆卷き流るゝ激流の景色と落葉樹の半ば紅葉して岸壁を彩れるを賞しつゝ五時アメリカ瀧の處に歸着し、更に瀑布の中央にある島に渡らんとせしも、そこを見て居つては中村氏の發車時間に後くるゝ憂ありし故、其方面の見物を割愛し、直ちに往路を同じ電車にてバハローに歸り六時半停車場に行きしが中村

ナイアガラ瀧の全景

君の分は寢臺の都合がつかないと云ふので夫れでは今一度市俄古に歸り更に近々出直しすることにしようと云ふことになつて、三人共にホテルに歸り夕食を終り、荷物を纏めてボーイに運搬させ八時三十分に先づ中村氏は市俄古に向つて歸らるゝを見送つた、眞に昨晩から今日にかけては全く私一人の爲めに此處まで往復させた次第で休息の暇もなく骨折り損の疲勞儲けとでも言ふべきか御氣の毒でならなかつた、其内時間が來て黒田君は九時十五分紐育に向つて出發せられ、とり殘された私は一人でナイアガラの繪葉書を買つて待合室で日本へ出すべく筆を走らせて居つたが、今度は自分の番になつたので黒ん坊の赤帽に荷物を運ばせ、九時四十分、ボストンに向つてこゝを發車した、時間がおそいのでベッドの準備は既に出來ておつたので直ぐに這入つて寢につく。

ナイアガラアメリカンフルー

九月二日（月曜日）晴　ボストン着

此の列車はボストンへ直通するので今朝の拂曉オルバニー Albany の紐育行との分岐點で乘り換へする

ボストン着

必要もなかつたのでゆつくりと熟睡した、眼が覺めたのが七時半既にスプリングフヰルド Spring Field は通過してしまつて居る洗面後喫煙室から外の景色を眺めると、大小の丘陵もあり夫れに樹木も相當に繁茂し殊に黒松が青々として居るので日本の田舍の景色に近いけれども、此處彼處にチラホラと建つて居る人家を見ると、矢張外國だと云ふ感じが起る、沿線ウスターWoresster. 及びウエレズレー Wereslly の小都會を過ぎ午前十一時ボストンサウスステーションに着いた、直ぐにケースを提げて待合室に出たが、構内が餘りに廣いので私が落ち附くべき日本人の宿屋へ行くには何れの方面に出ればよいのか一寸も見當がつかない、構内の賣店でボストン市街地圖を求め、宿の町名を調べて見ると早速にわかつた、そうして此のステーションと宿とは餘り遠く距たつて居ない事もわかつた、電車の便もあるやうだが初めて不案内の土地では却つて便利だと思つて出口からエーロータキシーを雇つたが十五分ともかゝらないでウスターストリート百四十五番の門先きにつけてくれた、ベルを押すと中から開けてくれたのが、此處の主人田中虎雄君、名刺を出し事情を告げ暫時滯

ボストンサウスステーション

在を依頼して二階の表通りに面した室を與へられた、先づ之で一と安心私の渡米中の視察及研究の大部分を果さんとする當の目的地に安着したのだから心の底から愉快な感じがした、しばし休んで階下に下り此處のミツセス即ち妻君や、同宿の諸君にも挨拶しサシミと豆腐の味噌汁と云ふ純日本料理で晝食したのは尙更嬉しかつた、午後は早速我が樟蔭の伊賀校長へ宛てゝの到着通知狀を始めとして市俄古大阪商船の中村氏青年會の島津君への禮狀や紐育住友銀行の今村支店長や、市俄古大學の大谷君から聞いて來た目下體育研究の爲め當ボストンに滯在中なる岡部平太君等へ到着の書面を認め、宿の附近を散歩し六時半夕食、主人田中君よりボストンに就いての一般的說明を聞き十時半就眠。

九月三日　（火曜日）　晴　ボストン美術館

七時起床、階下で朝食をとつたが、此處の家例として朝はトーストと燒卵子又は湯出卵とコーヒーで簡單にすませるとのことだつたが、トーストは二片とは限らないで三つでも四つでもコーヒーも自分の欲する丈を取ることが出來るのが都合がよい、食後田中君から道を敎えて貰つて地圖をたよりにボストンミユージアム（美術館）Boston Museum. に到り、京都の田村作太郎氏より紹介されたる、京都市出身にて多年此の美術館の日本部に勤務せらるゝ富田君を訪ね、東京女高師出身で矢張此の部に居らるゝ平野女史にも會ひ館の一部を觀覽して正午歸宿晝食、午後はダウンタウンに散步して繪葉書を求め歸り夕方まで之を認め丁度湯からあがつて居ると岡部平太君が來訪してくれたので初對面の挨拶やら萬事の指導を依頼し、二人

で牛肉のスキ燒をして貰つて夕食を了り、日本の體育界の現狀や、米國の現況などお互に話しあひ十時同君は歸つて行かれたので又繪葉書を認め十二時就眠。

九月四日　（水曜日）　晴

六時半起床、朝食後十一時まで葉書を認む、岡部君より電話かゝり直ちに電車にてハーバートスクエヤ、Harvard Square に行き、其處に待ち合せてくれた同君と私の本學期間見學に行くべきドクターサージャントの創立せしサージャントスクールに行く、まだ學校は休み中なので、留守居の書記に會つてキヤタログを貰ひ校舍の內部を一覽した、體操教室三個と夫れに附屬する學科教室及地下には水泳場脫衣場便所等を設備し餘り大きな建物にはあらねど、諸種の體操機械を完備せる點より察すれば確かに其內容の具備せるを窺はしむ、書記の話によると來る土曜日午前十一時には多分校長も登校さるゝことゝ思ふから其時來てくれとて辭して附近のカフテリアにて晝食を共にし、岡部君は午後ボクシング拳闘術 Boxing の稽古に行く由なりし故に其處にてわかれ、ハーバードスクエアより徒歩にて三時宿に歸り葉書を認め六時夕食、七時葉書を

ボストンミュジアム側面

ポストに投じ Park Square までコロンブスアベニュー Colombs Avenue を一直線に往復散歩し八時半歸宿一浴して就眠。

九月五日　（木曜日）　晴　ボストン下町見物

六時起床朝食、豫而京都出發の際令兄森平藏君から紹介され、市俄古滯在中書面で依頼して置いた森啓二郎君が訪ねて來てくれられた、同君は京都堺町六角に生れ京都第一中學校を卒業後明治三十九年單身渡米して此のボストンに落ち附き、其後紐育にて白人の商店に勤務せられしが八年前よりは再び、當地に來て獨立して生來自分が好んで居らるゝ彩管の道を立脚地として今は全く白人のみを相手にして室內裝飾 Interior dEcoration を專門にやつて居られるとのこと、しばらく私の室で話をして、市中の案內でもしませうと言つてそれから二人でダウンタウンの最も繁華な所に行き、市役所郵便局、マーケット等を見廻り晝食の上海岸より渡し船にてイーストボストンに渡り、汽車にて海岸を東に馳りボストンの海水浴場に行き、濱邊を散歩し、往路と同じ線にて市內に歸り、更にサウスボストンへ電車にて行き、海邊の內 Marine Park に設けられたる市立水族館を觀覽して午後五時半森君の寓居（ボストン美術館の西北部にあたり全く市內の俗塵を遠ざかりたる住宅地（24 Quinsverry Apt.）に行き、二人手分けをして日本飯を焚き、牛肉のスキ燒にて夕食、十時頃まで雜談の上同氏に送られて歸宿、十二時就眠。

九月六日　（金曜日）　晴

ボストン下町見物

七時起床、朝食後森君の來訪を待つ、九時半共に出でサウスステーションに至りて私のトランクを宿に送るべく手續をなし、電車にてボストンの南十五哩にある一海水浴場たるナンタスケ Nantasket beach に向ふ途中三回の乘り換へありしも、市を離るれば美はしく林檎の累々として實れる畠地を過ぎ、更に海軍工廠にて驅逐艦築造中なる工場の側を通りて之を望見しつゝ、午後一時四十分目的地に着きしも、最早氣候も涼しくなり所謂夏場の盛り過ぎし時季のことゝて、各種の娯樂的興行もの等も大抵閉鎖され遊覽者も僅少にて何となく　莫を感ず、しばし海濱を逍遙の上レストラントに入り萍々たる大西洋の海原を眺望しつつ簡單なる晝食を了り、此處より汽船に乘り、我が瀬戸内海に彷彿たる多島海を航し五時ボストンに歸りトランスクリプト Transcript. と云ふ新聞社に立寄り當市滯留中語學練習の必要より白人の家庭に下宿せんとて左の廣告文の掲載を依頼す。

Wanted-Room ; Japanese Girls' High School Instructor, in refined American family, Where he Could learn English. near Sargent School, Cambridge. Preferred. Mr. K. Asahi　145 Worcester st. Boston.

森君同道六時半歸宿、今日の案内の勞を謝しつゝ日本食にて晩餐を共にし雜談の上十時同君は歸宅せられ葉書を認めてベッドに入る。

九月七日　（土曜日）　晴　ボストン海軍兵運動會見物

七時起床、一浴して朝食を了へ、十時よりハーバートスクエヤまで電車にて行き岡部君同道サージャント

ヒーボュジッ子るけ於にムアヤタストーパー